

東広島市子ども・子育て支援に関する
ニーズ調査
調査結果報告書

目次

I	調査の概要	1
1	調査目的	1
2	調査の方法	1
3	報告書の見方	1
II	調査の結果	2
1	属性	2
2	子どもの育ちをめぐる環境	5
(1)	子育てに日常的に関わっている人	5
(2)	子育てに特に影響すると思われる環境	6
(3)	子どもをみてもらえる人の有無	7
3	両親の就労状況	8
(1)	両親の就労状況	8
(2)	就労日数	9
(3)	土曜日、日曜日等の就労状況	10
(4)	就労時間	11
(5)	出勤・帰宅時間	11
(6)	フルタイムへの転換意向	13
(7)	今後の就労意向	14
4	教育・保育事業の利用状況（就学前児童）	16
(1)	教育・保育事業の利用状況	16
(2)	利用日数	18
(3)	利用時間	18
(4)	事業の利用理由	20
(5)	事業を利用していない理由	20
5	教育・保育事業の利用希望（就学前児童）	22
(1)	教育・保育事業の利用希望	22
(2)	利用希望場所	23
(3)	利用を希望する年齢	23
(4)	事業を選択する際に重視すること	24
(5)	土曜日、日曜日、祝日の事業の利用希望	25
(6)	長期休暇中の事業の利用希望（幼稚園を利用している家庭）	26
6	不定期の保育事業の利用意向（就学前児童）	28
(1)	子どもが病気の際の対応	28
(2)	病児・病後児保育施設等の利用意向	29
(3)	一時的な保育サービスの利用状況	31

(4) 一時的な保育サービスの利用意向	32
(5) 泊りがけで子どもを預けた経験の有無	33
7 地域の子育て支援サービスの利用状況（就学前児童）	34
(1) 地域子育て支援拠点事業の利用状況	34
(2) 地域子育て支援拠点事業を利用していない理由	36
(3) 子育て団体や子育てサロン・サークルの利用状況	36
(4) 地域子育て支援拠点事業の今後の利用意向	37
8 小学校就学後の希望する放課後の過ごし方（5歳児）	38
9 放課後児童クラブの利用意向（小学生）	39
(1) 希望する放課後の過ごし方	39
(2) 利用学年延長の意向	40
(3) 平日・土曜日の利用時間延長の希望	41
(4) 日曜日の利用意向	42
(5) 長期休暇中の利用意向	43
(6) 放課後児童クラブに対する要望	44
10 職場の両立支援制度	45
(1) 仕事と生活の両立	45
(2) 仕事と子育ての両立のために職場に求めること	47
(3) 育児休業の取得状況	48
11 地域の子育て支援サービスの認知度・利用状況	52
(1) 地域の子育て支援サービスの認知度	52
(2) 地域の子育て支援サービスの利用状況	53
(3) 地域の子育て支援サービスの利用意向	54
12 子育て全般	55
(1) 理想と現実の子どもの人数	55
(2) 子育てのしやすさの評価	57
(3) 子どもの遊び場について感じること	61
(4) 地域の支えへの評価	62
(5) 子育ての楽しさの感じ方	65
(6) 子育てに関する不安・負担感	65
(7) 子育てに関する相談相手	68
(8) 相談体制への満足度	70
(9) 子育てに関する悩み	72
(10) 情報提供への満足度	74
(11) 子育ての環境や支援への満足度	75
III 調査のまとめ	78

I 調査の概要

1 調査目的

市内の子育てを行う世帯の現在の幼児教育・保育事業の利用状況や今後の利用希望、子育てについて要望を把握し、幼児教育・保育事業、地域子育て支援事業の「量の見込み」の算出など、東広島市子ども・子育て支援事業計画に反映することを目的とする。

2 調査の方法

(1) 調査地域

東広島市全域

(2) 抽出方法

市内に居住する、0歳から小学校3年生までの児童がいる家庭の中から無作為抽出

(3) 調査方法

郵送による配付・回収 督促状1回発送（保護者へ記入を依頼）

(4) 調査対象

①就学前児童 3,500世帯

②小学生 1,500世帯

(5) 回収数

①就学前児童 1,824世帯（回収率：52.1%）

②小学生 776世帯（回収率：51.7%）

(6) 調査時期

平成25年12月13日～平成25年12月25日（平成26年1月21日回収分まで含む）

3 報告書の見方

(1) 本文及び図中に示した調査結果の数値は百分比（%）で示してある。これらの数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、全項目の回答比率の合計が100.0%とならない場合がある。

(2) 複数の回答を求めた質問では、回答比率の合計が100.0%を超えることがある。

(3) 報告書中の図表では、グラフの大きさの関係で見やすくするため、回答選択肢の表現を短縮している場合がある。

II 調査の結果

1 属性

(1) 子どもの年齢・学年

【就学前児童】

	回答数 (人)	割合 (%)
全体	1,824	100.0
0歳	391	21.4
1歳	292	16.0
2歳	277	15.2
3歳	205	11.2
4歳	320	17.5
5歳	334	18.3
無回答	5	0.3

【小学生】

	回答数 (人)	割合 (%)
全体	776	100.0
1年生	177	22.8
2年生	259	33.4
3年生	334	43.0
無回答	6	0.8

※就学前児童の年齢は平成25年4月1日現在の年齢（平成25年4月2日以降に生まれた方は0歳に含んでいます）

(2) 居住地

【就学前児童】

	回答数 (人)	割合 (%)
全体	1,824	100.0
西条地区	830	45.5
八本松地区	229	12.6
志和地区	89	4.9
高屋地区	198	10.9
黒瀬地区	130	7.1
福富地区	34	1.9
豊栄地区	24	1.3
河内地区	92	5.0
安芸津地区	120	6.6
無回答	78	4.3

【小学生】

	回答数 (人)	割合 (%)
全体	776	100.0
西条地区	367	47.3
八本松地区	96	12.4
志和地区	24	3.1
高屋地区	107	13.8
黒瀬地区	77	9.9
福富地区	10	1.3
豊栄地区	10	1.3
河内地区	31	4.0
安芸津地区	46	5.9
無回答	8	1.0

(3) 両親の状況

【就学前児童】

<父親>

	回答数 (人)	割合 (%)
全体	1,824	100.0
一緒に住んでいる	1,702	93.3
単身赴任や入院などで別に住んでい	53	2.9
死亡、離婚、未婚などでいない	65	3.6
無回答	4	0.2

<母親>

	回答数 (人)	割合 (%)
全体	1,824	100.0
一緒に住んでいる	1,814	99.5
単身赴任や入院などで別に住んでい	1	0.1
死亡、離婚、未婚などでいない	8	0.4
無回答	1	0.1

【小学生】

<父親>

	回答数 (人)	割合 (%)
全体	776	100.0
一緒に住んでいる	673	86.7
単身赴任や入院などで別に住んでい	34	4.4
死亡、離婚、未婚などでいない	63	8.1
無回答	6	0.8

<母親>

	回答数 (人)	割合 (%)
全体	776	100.0
一緒に住んでいる	760	97.9
単身赴任や入院などで別に住んでい	3	0.4
死亡、離婚、未婚などでいない	7	0.9
無回答	6	0.8

(4) 家族構成

【就学前児童】

	回答数 (人)	割合 (%)
全体	1,824	100.0
二世帯世帯	1,556	85.3
三世帯世帯	225	12.3
その他の世帯	36	2.0
無回答	7	0.4

【小学生】

	回答数 (人)	割合 (%)
全体	776	100.0
二世帯世帯	652	84.0
三世帯世帯	111	14.3
その他の世帯	8	1.0
無回答	5	0.6

(5) 子どもの人数

【就学前児童】

	回答数 (人)	割合 (%)
全体	1,824	100.0
1人	484	26.5
2人	917	50.3
3人以上	414	22.7
無回答	9	0.5

【小学生】

	回答数 (人)	割合 (%)
全体	776	100.0
1人	184	23.7
2人	420	54.1
3人以上	164	21.1
無回答	8	1.0

(6) 子育てを主に行う者

【就学前児童】

	回答数 (人)	割合 (%)
全体	1,824	100.0
父母ともに	1,060	58.1
主に母親	726	39.8
主に父親	8	0.4
主に祖父母	25	1.4
その他	4	0.2
無回答	8	0.4

【小学生】

	回答数 (人)	割合 (%)
全体	776	100.0
父母ともに	433	55.8
主に母親	319	41.1
主に父親	5	0.6
主に祖父母	16	2.1
その他	2	0.3
無回答	6	0.8

(7) 母親の年齢

【就学前児童】

	回答数 (人)	割合 (%)
全体	1,824	100.0
10歳代	1	0.1
20歳代	228	12.5
30歳代	1,212	66.4
40歳代	364	20.0
50歳代	12	0.7
60歳代	2	0.1
70歳以上	-	-
無回答	5	0.3

【小学生】

	回答数 (人)	割合 (%)
全体	776	100.0
10歳代	-	-
20歳代	12	1.5
30歳代	356	45.9
40歳代	380	49.0
50歳代	19	2.4
60歳代	5	0.6
70歳以上	-	-
無回答	4	0.5

(7) 両親の就労の状況

【就学前児童】

	回答数 (人)	割合 (%)
全体	1824	100.0
共働きである	894	49.0
ひとり親家庭で 就労している	59	3.2
専業主婦・夫	784	43.0
無回答	87	4.8

【小学生】

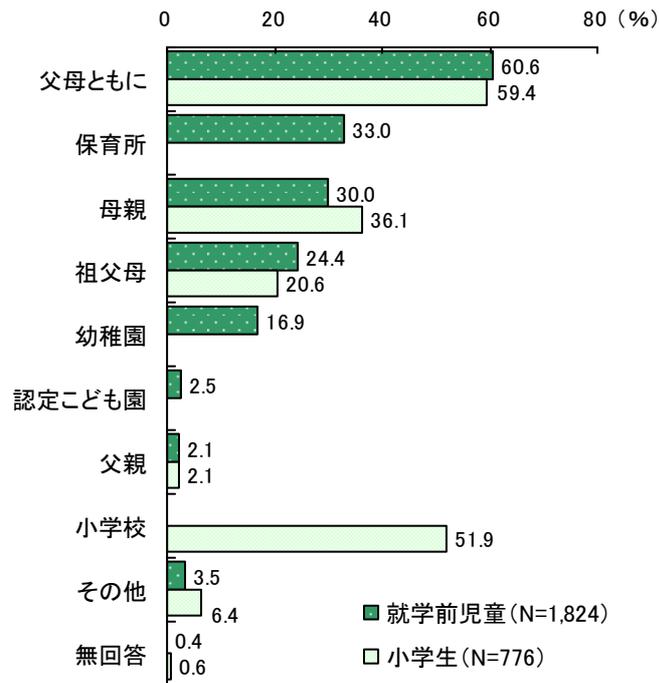
	回答数 (人)	割合 (%)
全体	776	100.0
共働きである	478	61.6
ひとり親家庭で 就労している	61	7.9
専業主婦・夫	203	26.2
無回答	34	4.4

2 子どもの育ちをめぐる環境

(1) 子育てに日常的に関わっている人

子育てに日常的に関わっている人について、「父母ともに」との回答割合が就学前児童で60.6%、小学生で59.4%と最も高く、次いで就学前児童では「保育所」(33.0%)、「母親」(30.0%)、小学生では「小学校」(51.9%)、「母親」(36.1%)となっている。

〔図 子育てに日常的に関わっている人〕



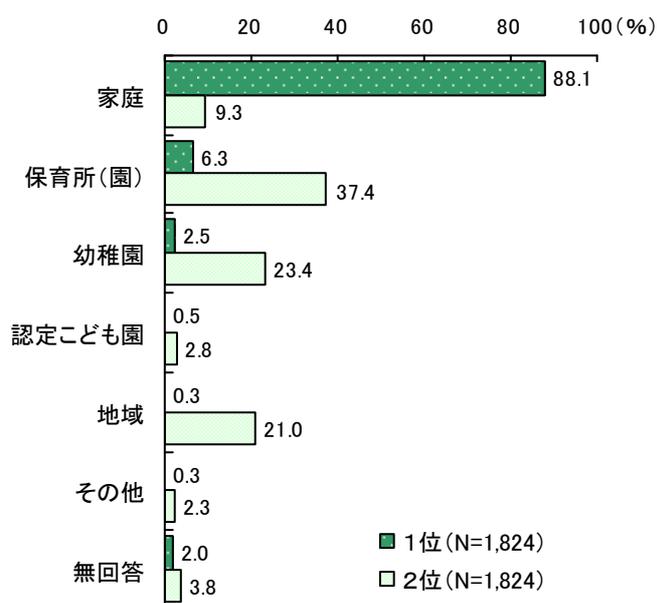
(2) 子育てに特に影響すると思われる環境

子育てに影響すると思われる環境として、就学前児童では、1位が「家庭」(88.1%)であり、2位が「保育所」、「幼稚園」、「地域」などとなっている回答割合が高いが、1位に「保育所」、「幼稚園」をあげる回答もある。

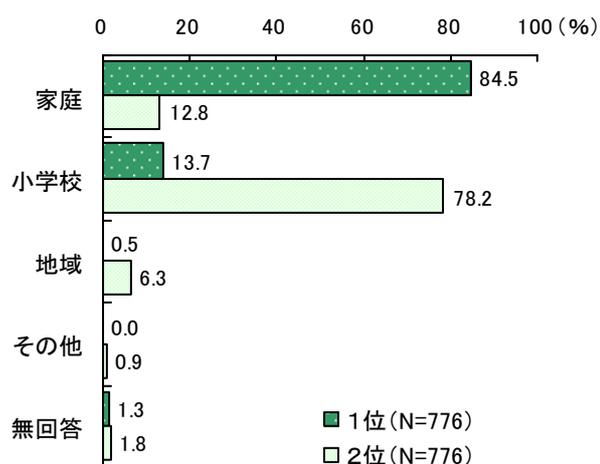
小学生では、1位が「家庭」(84.5%)であり、2位が「小学校」となっている回答割合が高いが、1位に「小学校」をあげる回答もある。

[図 影響すると思われる環境]

(就学前児童)



(小学生)

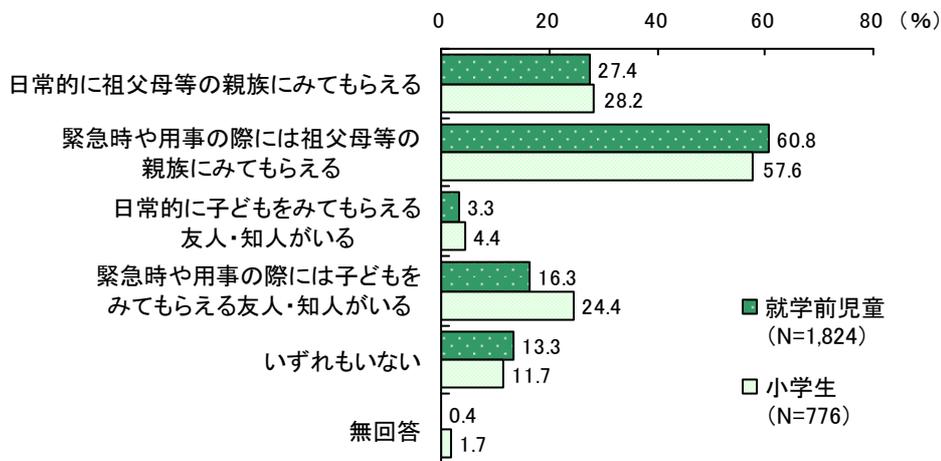


(3) 子どもをみてもらえる人の有無

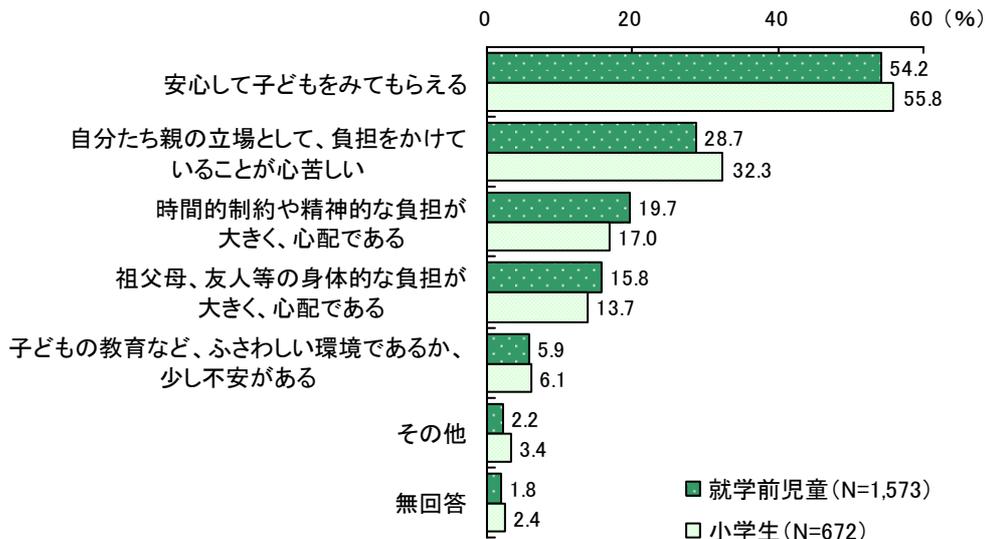
子どもを日常的にみてもらえる親族がいる割合は就学前児童で 27.4%、小学生で 28.2%、緊急時にみてもらえる人がいる割合は就学前児童で 60.8%、小学生で 57.6%で、子どもを日常的にみてもらえる友人等がいる割合は就学前児童で 3.3%、小学生で 4.4%、緊急時にみてもらえる友人等がいる割合は就学前児童で 16.3%、小学生で 24.4%であり、「いずれもない」との回答割合は就学前児童で 13.3%、小学生で 11.7%である。

しかし、みてもらえる人がいる場合でも、4割を超える家庭が預ける相手の身体的、精神的負担や子どもにとっての環境を心配している。

〔図 子どもをみてもらえる人の有無〕



〔図 子どもをみてもらう際の状況〕



3 両親の就労状況

(1) 両親の就労状況

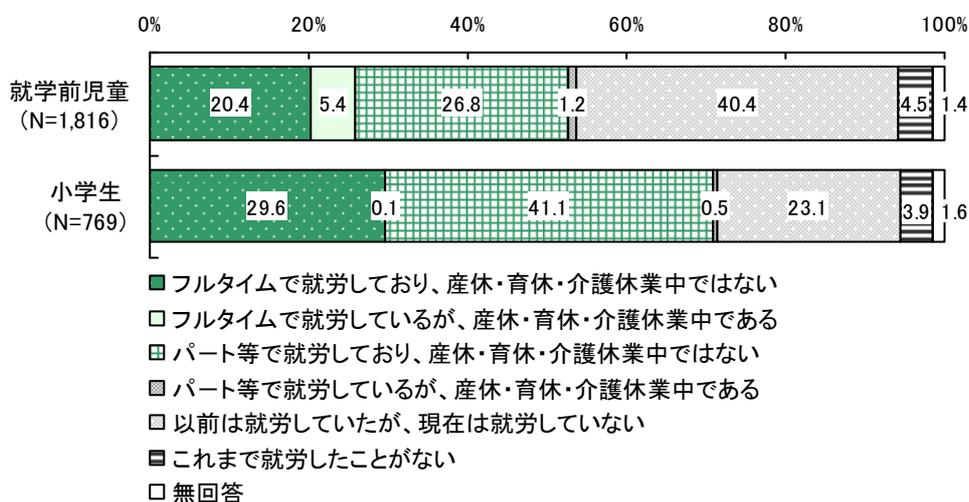
母親の就労状況について、就学前児童では、「フルタイム」が25.8%、「パート・アルバイト」が28.0%であり、就労している割合は53.8%である。

小学生では、「フルタイム」が29.7%、「パート・アルバイト」が41.6%であり、就労している割合は71.3%である。

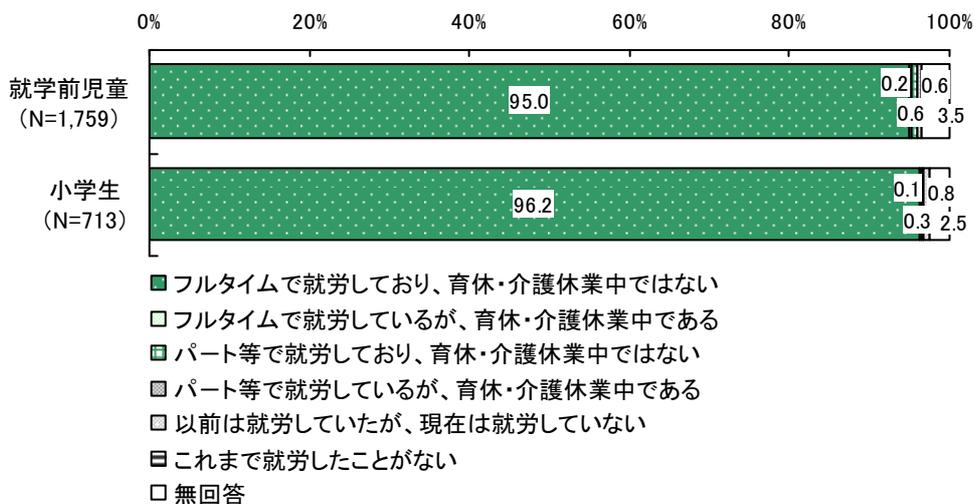
父親の就労状況について、就学前児童では、「フルタイム」が95.2%、「パート・アルバイト」が0.6%であり、就労している割合は95.8%である。

小学生では、「フルタイム」が96.3%、「パート・アルバイト」が0.3%であり、就労している割合は96.6%である。

〔図 母親の就労状況〕



〔図 父親の就労状況〕

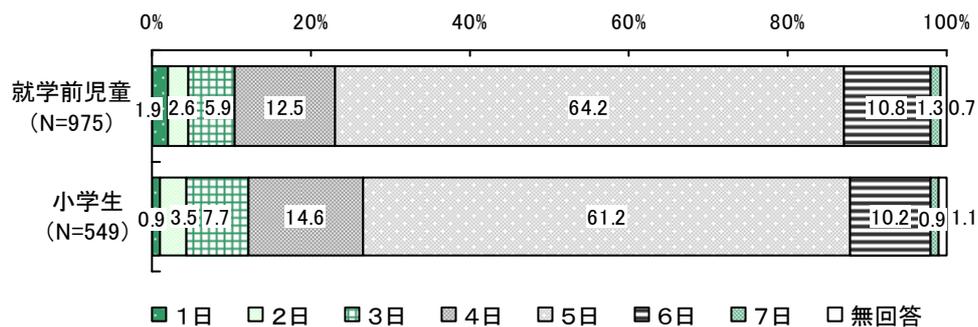


(2) 就労日数

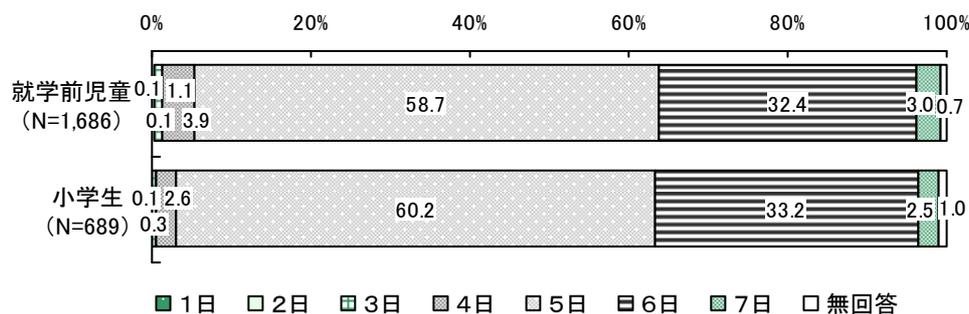
母親の1週当たりの就労日数は、就学前児童では、「5日」が64.2%で最も高く、次いで「4日」が12.5%、小学生では「5日」が61.2%で最も高く、次いで「4日」が14.6%となっている。

父親の1週当たりの就労日数は、就学前児童では、「5日」が58.7%で最も高く、次いで「6日」が32.4%、小学生では「5日」が60.2%で最も高く、次いで「6日」が33.2%となっている。

〔図 母親の1週当たりの就労日数〕



〔図 父親の1週当たりの就労日数〕

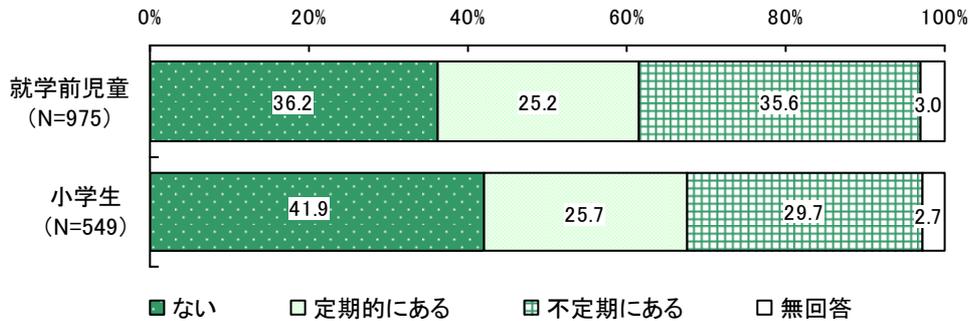


(3) 土曜日、日曜日等の就労状況

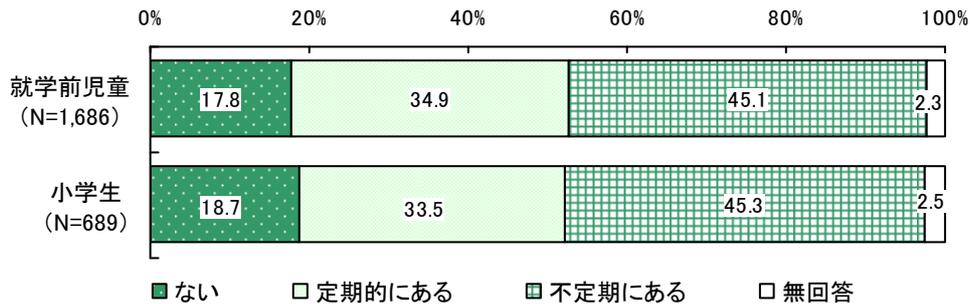
土曜日の就労が「定期的にある」との回答割合は、母親では、就学前児童で25.2%、小学生で25.7%、父親では就学前児童で34.9%、小学生で33.5%となっている。

日曜日・祝日の就労が「定期的にある」との回答割合は、母親では、就学前児童で7.3%、小学生で7.8%、父親では就学前児童で10.8%、小学生で10.3%となっている。

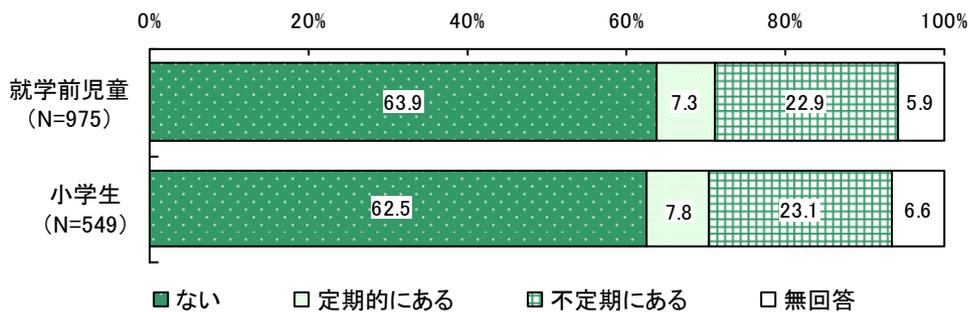
〔図 母親の土曜日の就労状況〕



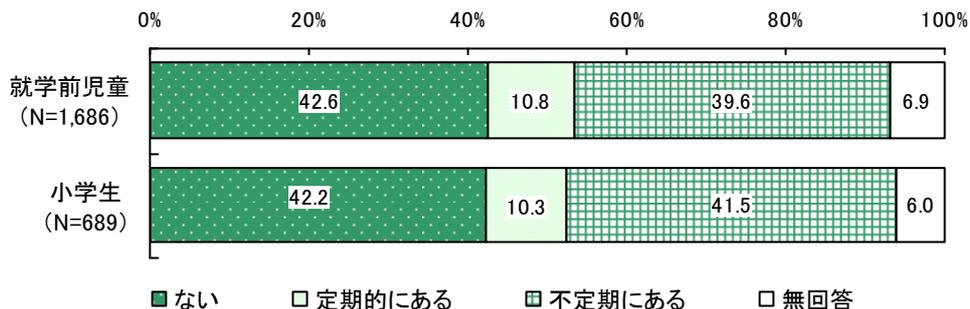
〔図 父親の土曜日の就労状況〕



〔図 母親の日・祝日の就労状況〕



〔図 父親の日・祝日の就労状況〕

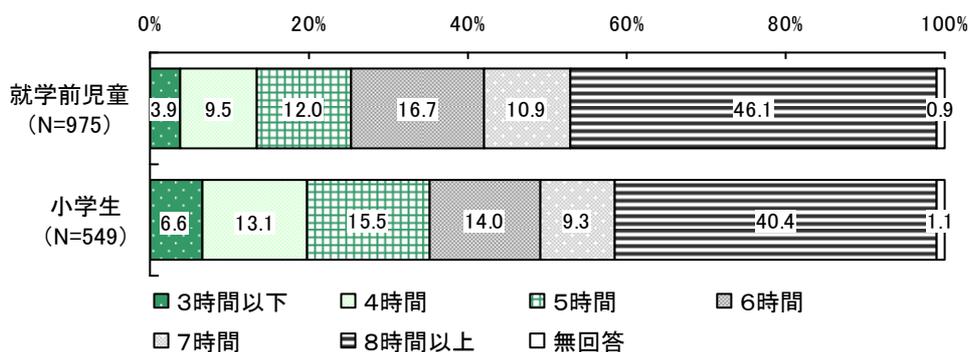


(4) 就労時間

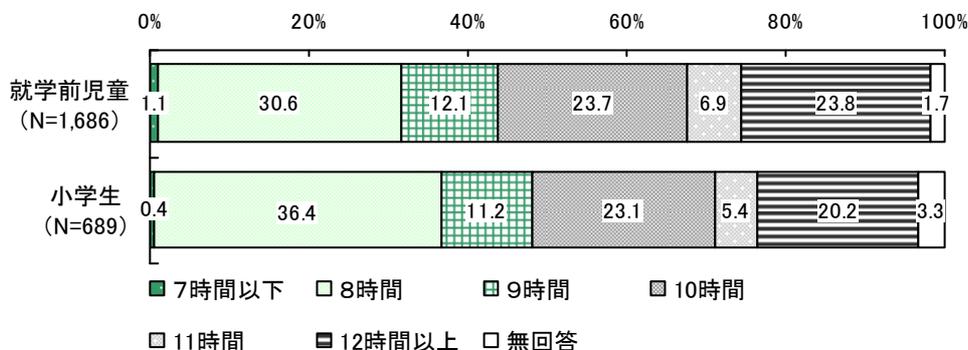
母親の1日当たりの就労時間は、就学前児童では「8時間以上」が46.1%で最も高く、次いで「6時間」が16.7%、小学生では「8時間以上」が40.4%で最も高く、次いで「5時間」が15.5%となっている。

父親の1日当たりの就労時間は、就学前児童では「8時間」が30.6%で最も高く、次いで「12時間以上」が23.8%、小学生では「8時間」が36.4%で最も高く、次いで「10時間」が23.1%となっている。

〔図 母親の1日当たりの就労時間〕



〔図 父親の1日当たりの就労時間〕

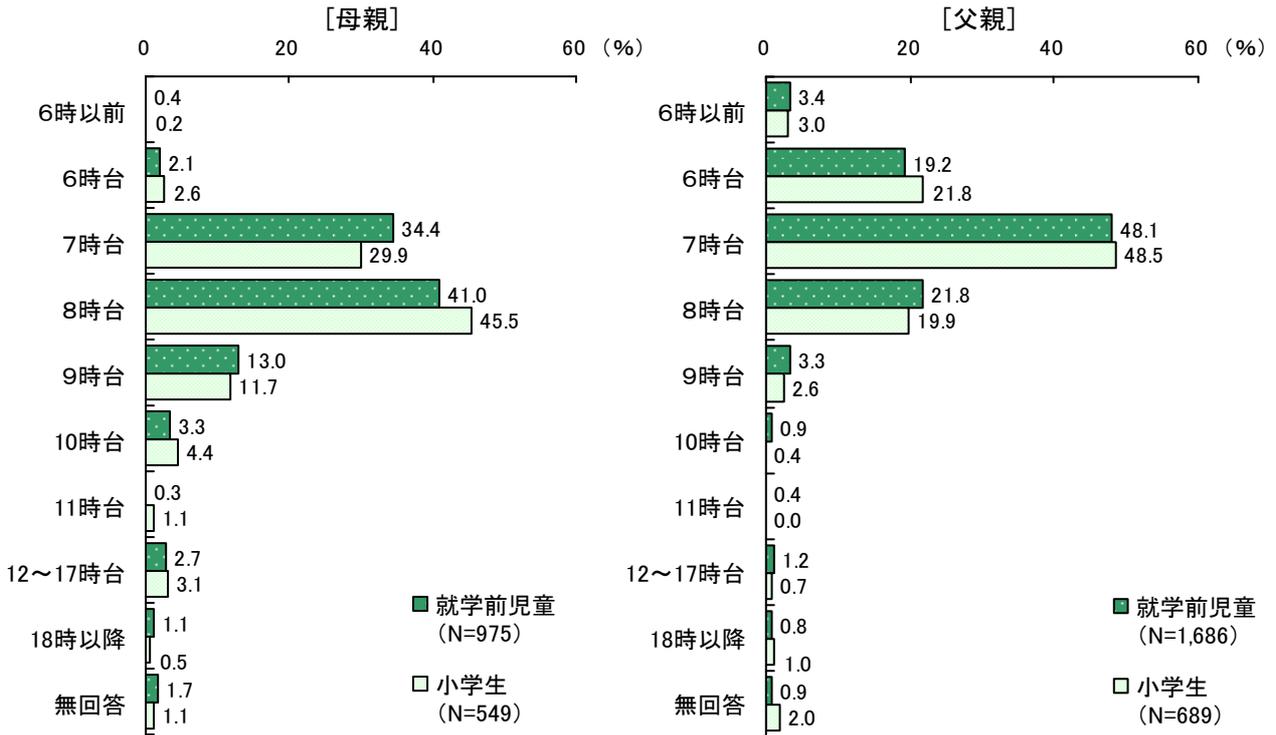


(5) 出勤・帰宅時間

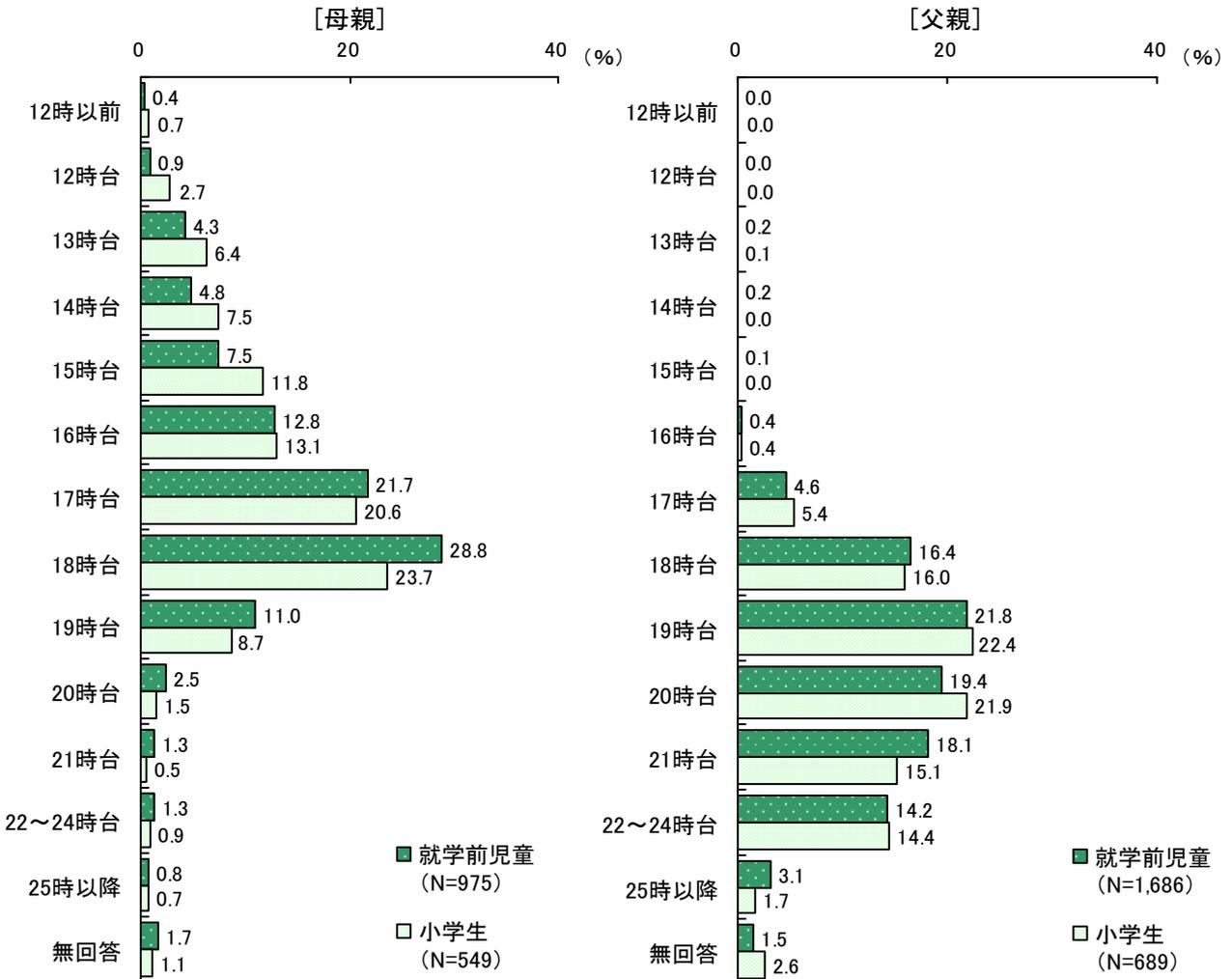
出勤時間は、母親では「8時台」(就学前児童41.0%、小学生45.5%)が最も高く、父親では「7時台」(就学前児童48.1%、小学生48.5%)が最も高くなっている。

帰宅時間は、母親では「18時台」(就学前児童28.8%、小学生23.7%)が最も高く、父親では「19時台」(就学前児童21.8%、小学生22.4%)で最も高くなっている。

[図 出勤時間]



[図 帰宅時間]



(6) フルタイムへの転換意向

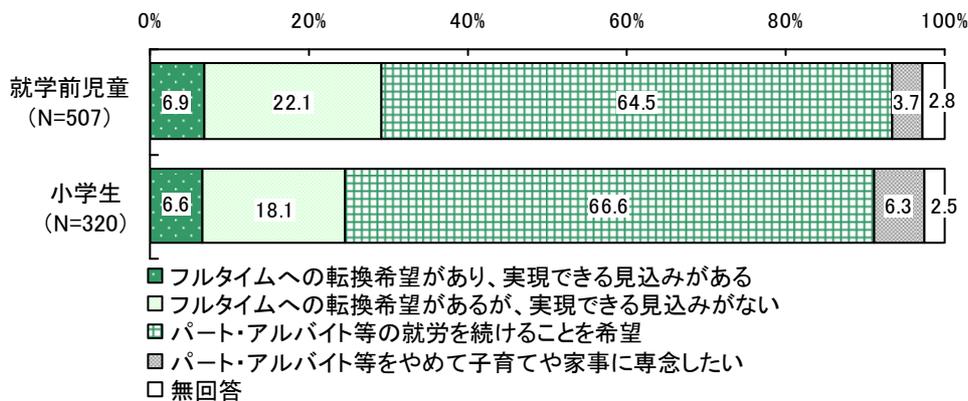
パート・アルバイトのうち、フルタイムへの転換意向がある母親の割合は、就学前児童で29.0%であり、6.9%が実現できる見込みがあると回答している。

小学生では、フルタイムへの転換意向がある母親の割合は24.7%であり、6.6%が実現できる見込みがあると回答している。

父親のフルタイムへの転換意向は、「転換希望があるが、実現できる見込みがない」との回答割合は、就学前児童で36.4%、小学生で50.0%となっている。

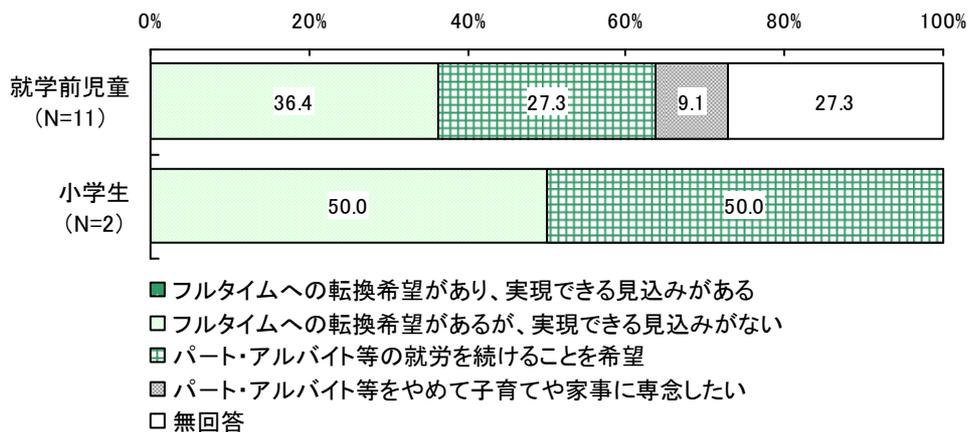
〔図 母親のフルタイムへの転換意向〕

(パート等で就労している母親)



〔図 父親のフルタイムへの転換意向〕

(パート等で就労している父親)



(7) 今後の就労意向

就労していない母親の就労意向について、就学前児童では、「1年より先、一番下の子どもが大きくなったところに就労したい」との回答割合が49.3%で最も高く、その際の子どもの年齢としては、6～8歳が36.1%となっている。

小学生では、「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」との回答割合が34.6%と最も高くなっている。

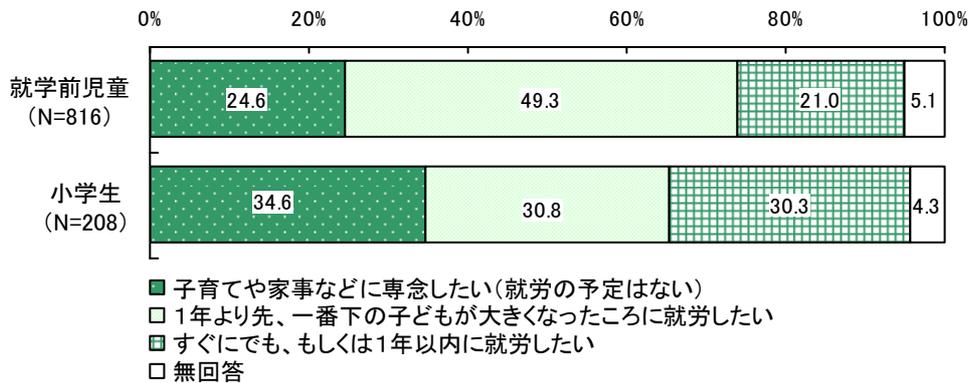
就労していない父親の就労意向について、就学前児童では、すべての父親が「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と回答しており、小学生では「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と回答した割合が83.3%となっている。

また、就労していない母親の就労意向について、就学前児童では「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」との回答割合は21.0%であり、希望する就労形態は「パート・アルバイト等」が82.7%となっている。

小学生では、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」との回答割合は30.3%であり、希望する就労形態は「パート・アルバイト等」が89.0%となっている。

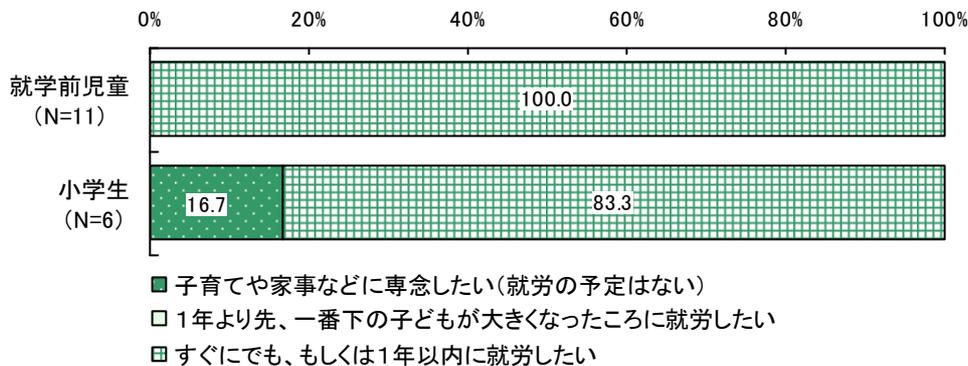
〔図 母親の今後の就労意向〕

(就労していない母親)



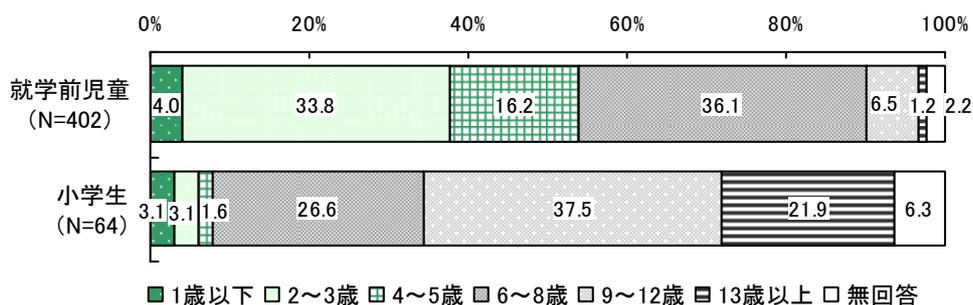
〔図 父親の今後の就労意向〕

(就労していない父親)



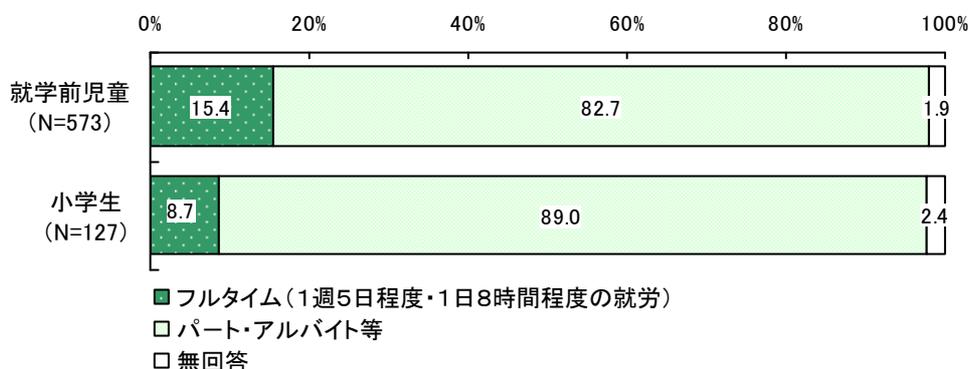
〔図 母親が就労を希望する際の子どもの年齢〕

(子どもが大きくなったところに就労を希望する母親)



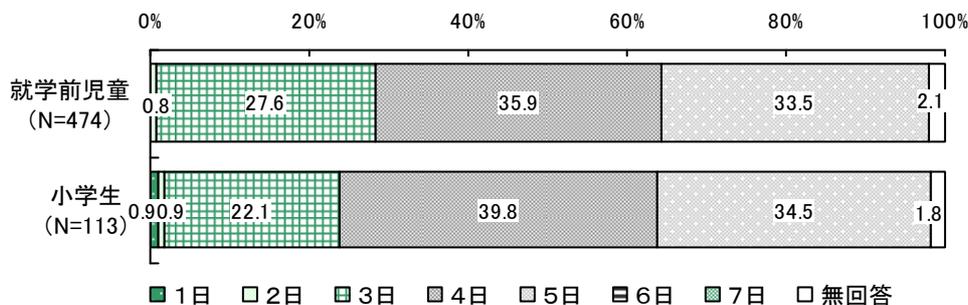
〔図 母親の希望する就労形態〕

(すぐにも、もしくは1年以内に就労を希望する母親)

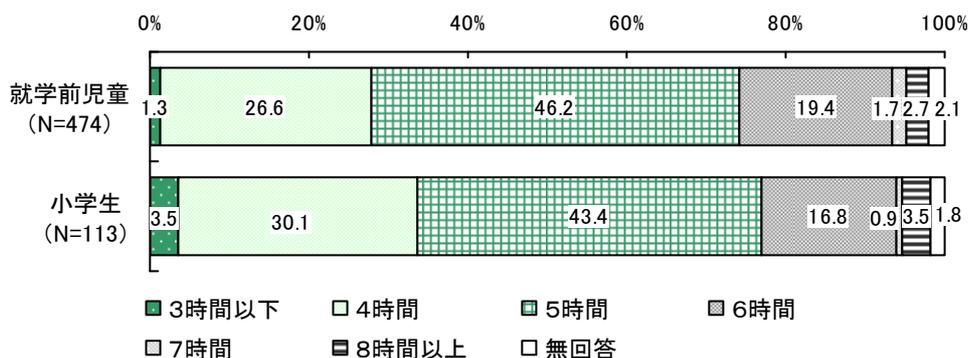


〔図 母親の希望する1週当たりの就労日数〕

(パート等を希望する母親)



〔図 母親の希望する1日当たりの就労時間〕



4 教育・保育事業の利用状況（就学前児童）

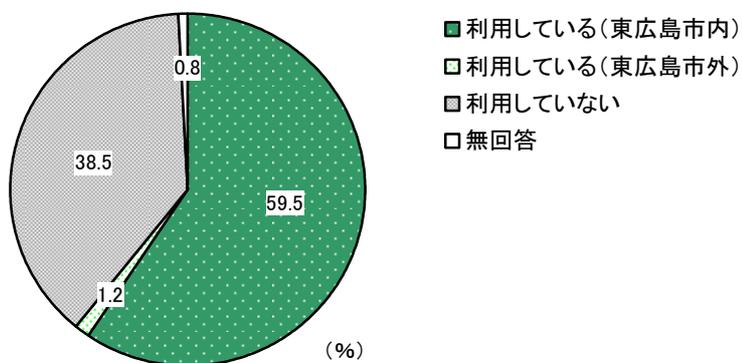
（1）教育・保育事業の利用状況

現在、子どもが教育・保育事業を「利用している」との回答割合は60.7%であり、年齢区別にみると、0歳で15.1%、1・2歳で39.7%、3～5歳で95.1%であり、年齢が上がるほど高くなっている。

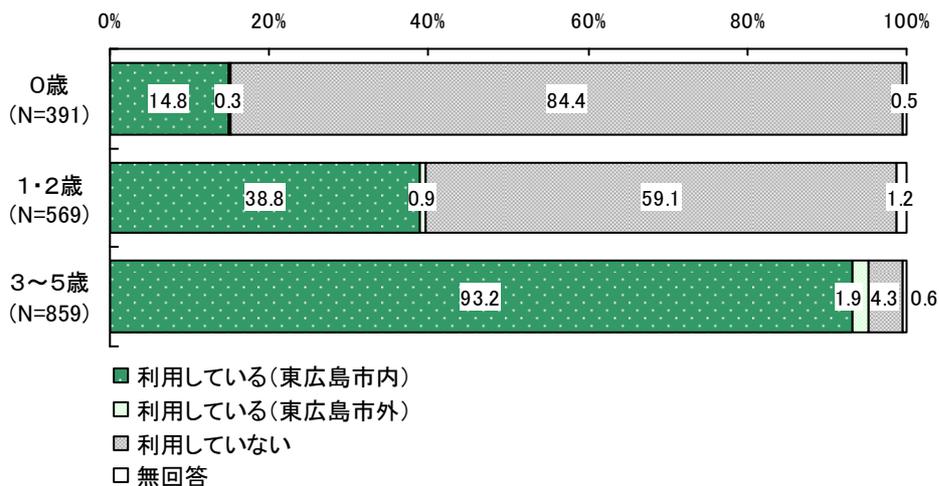
利用している教育・保育事業は、「認可保育所」が55.9%で最も高く、次いで「幼稚園」が31.5%、「認定こども園」が6.6%となっている。

年齢区別にみると、0歳、1・2歳は「認可保育所」が高くなっているが、3～5歳では「認可保育所」に続いて、「幼稚園」が高くなっている。

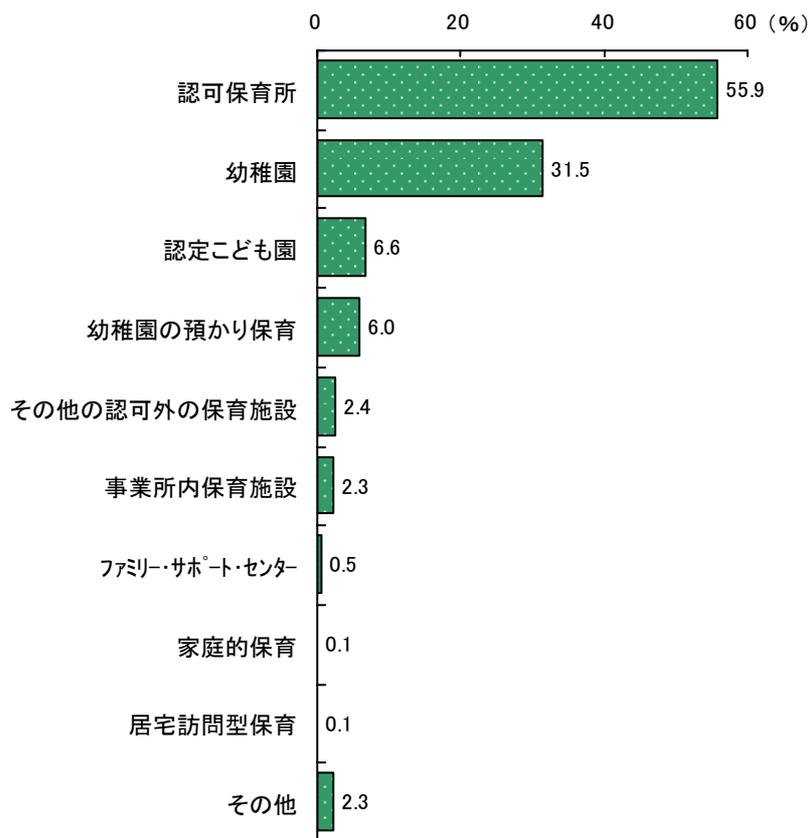
〔図 教育・保育事業の利用状況〕



〔図 教育・保育事業の利用状況/年齢区分別〕



〔図 利用している教育・保育事業〕



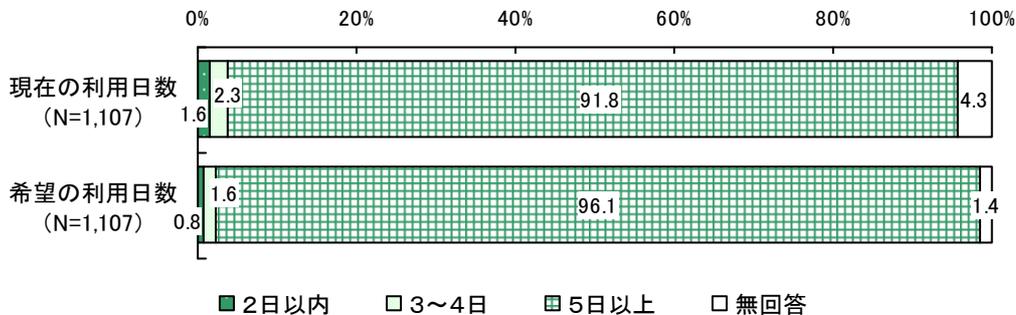
〔図 利用している教育・保育事業/年齢区分別～上位5項目～〕 (％)

	回答数 (人)	認可保育所	幼稚園	認定こども園	その他の認可 外の保育施設	事業所内 保育施設
0歳	59	72.9	1.7	6.8	1.7	10.2
1・2歳	226	76.5	4.0	3.5	3.5	4.0
3～5歳	817	48.7	40.8	7.2	2.1	0.6

(2) 利用日数

事業の1週当たりの現在の利用日数は「5日以上」が91.8%、希望の利用日数は「5日以上」が96.1%となっている。

〔図 1週当たりの利用日数〕



(3) 利用時間

事業の現在の利用開始時間は、「8時台」が55.6%で最も高く、次いで「9時台」が22.7%、「7時台」が15.3%であり、希望開始時間は、現在の利用開始時間と比較して「7時台」が高くなっている。

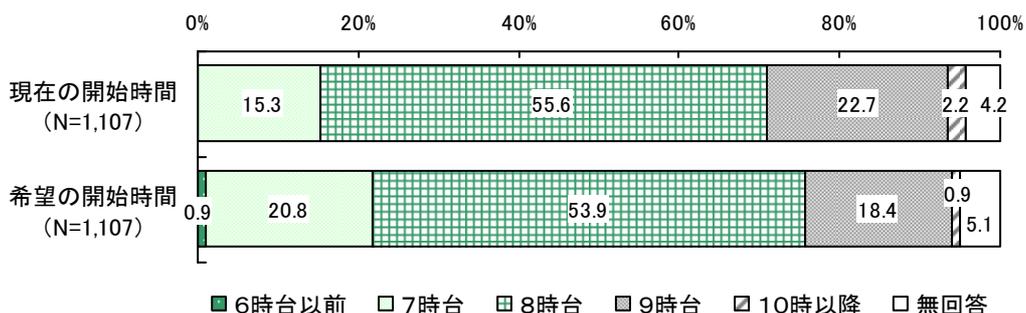
事業の現在の利用終了時間は、「17時台」が25.4%で最も高く、次いで「14時台」が24.7%であり、希望終了時間は、現在と比較して「14時台」が低くなり、「15時台」、「16時台」、「18時台」、「19時以降」が高くなっている。

事業別にみると、認定こども園では、現在の利用終了時間は「14時台」が32.9%で最も高くなっているが、希望終了時間では、「14時台」が5.5%と低くなり、「16時台」が30.1%、「17時台」が24.7%など、16時以降の割合が高くなっている。

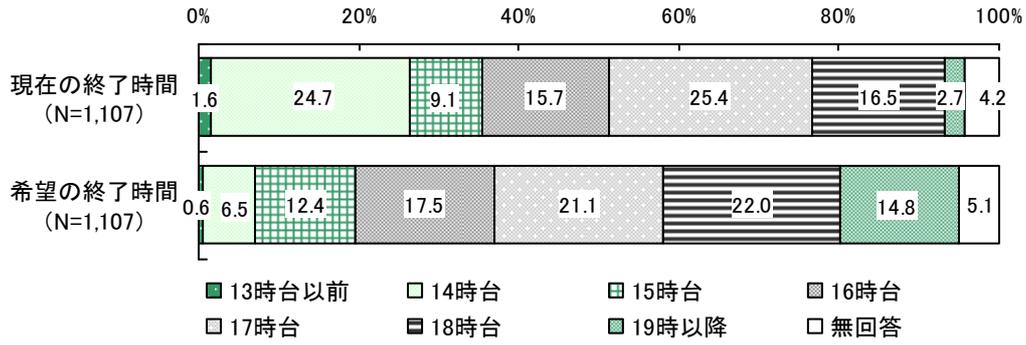
幼稚園では、現在の利用終了時間は「14時台」が69.2%で最も高くなっているが、希望終了時間では、「14時台」が17.9%と低くなり、「15時台」が32.0%、「16時台」が23.1%など、15時以降の割合が高くなっている。

認可保育所(園)では、現在の利用終了時間は、「17時台」が40.0%で最も高くなっているが、希望終了時間では、現在よりも「16時台」、「17時台」が低くなり、「19時以降」が22.8%と高くなっている。

〔図 利用開始時間〕

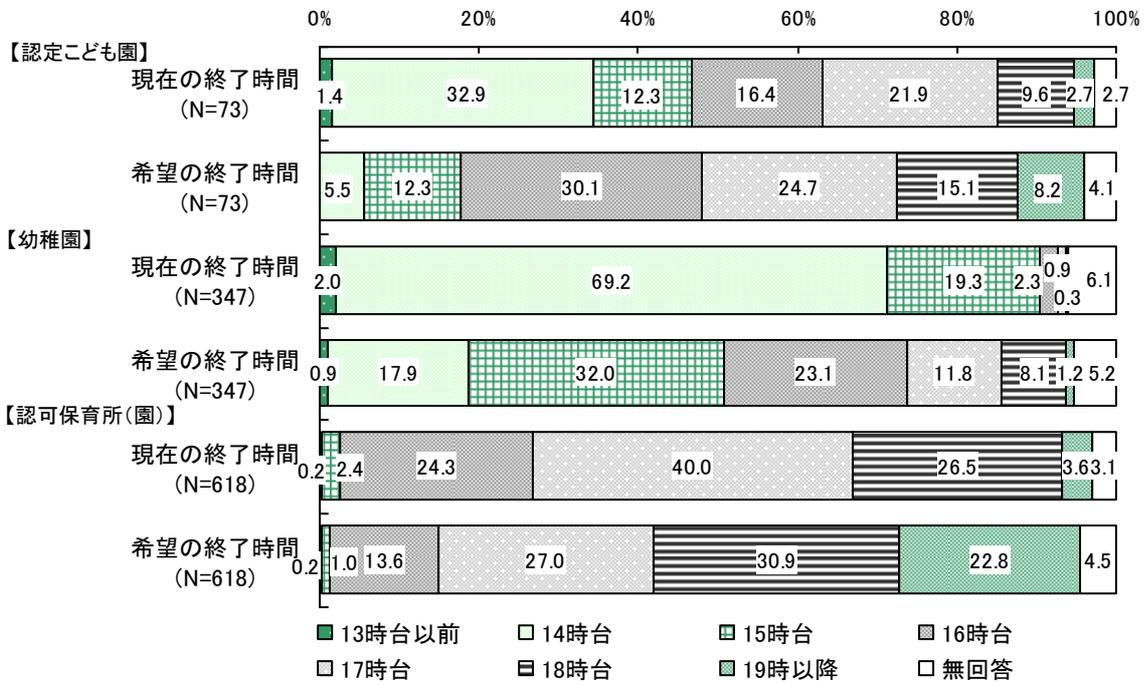


〔図 利用終了時間〕



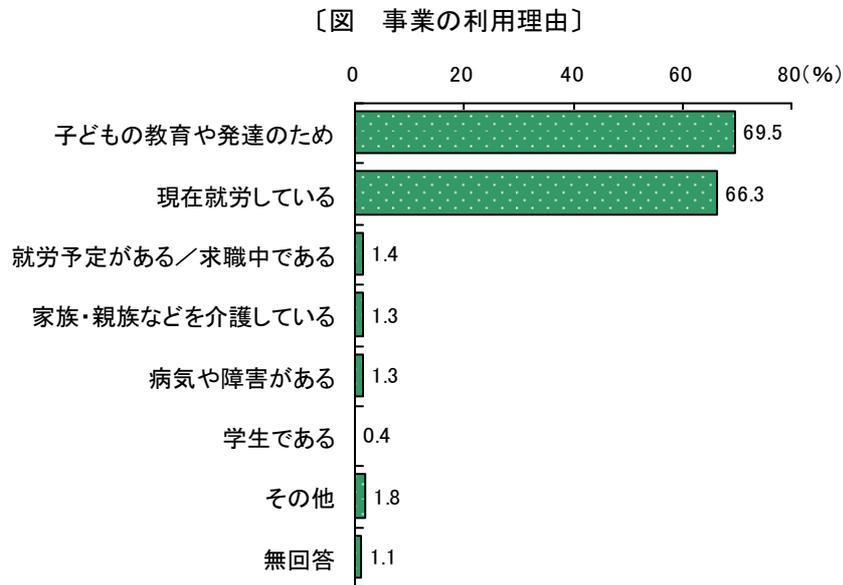
〔図 利用終了時間/利用事業別〕

(認定こども園・幼稚園・認可保育所(園)の利用者)



(4) 事業の利用理由

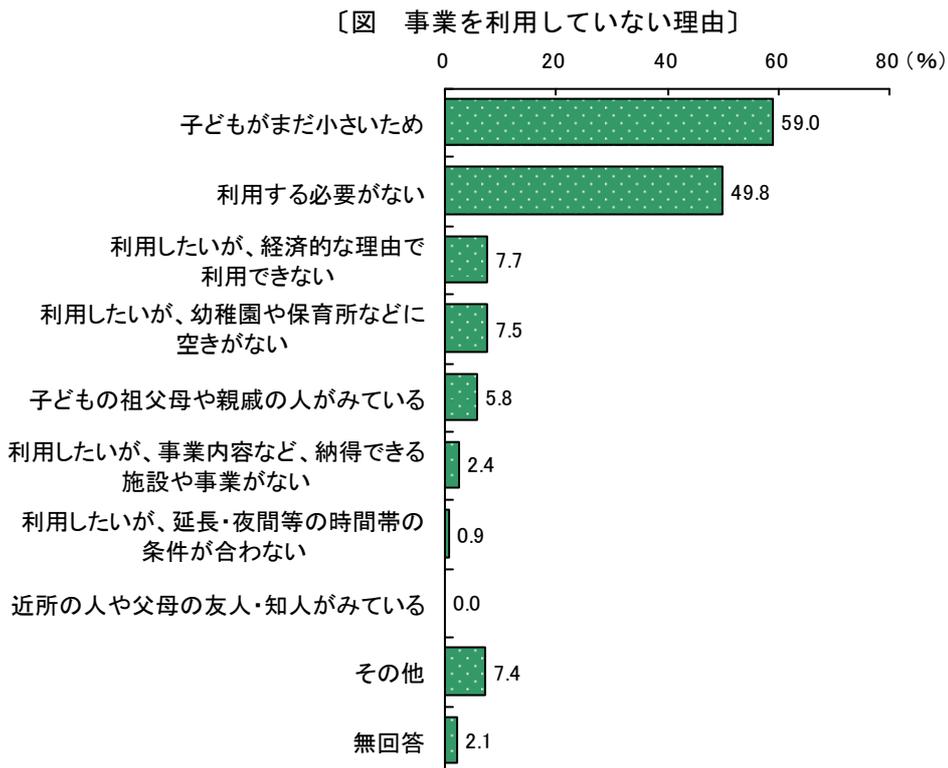
教育・保育事業の利用理由は、「子どもの教育や発達のため」との回答割合が 69.5%で最も高く、次いで「現在就労している」(66.3%)となっている。



(5) 事業を利用していない理由

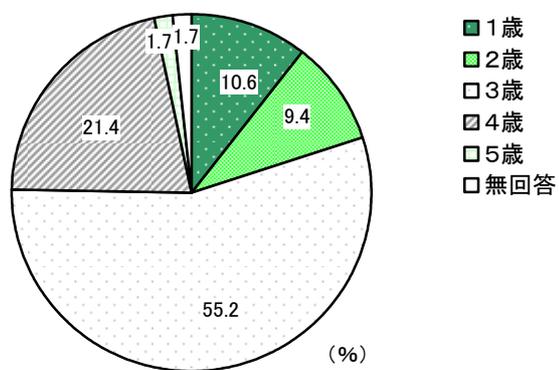
現在、教育・保育事業を利用していない理由は、「子どもがまだ小さいため」との回答割合が 59.0%と最も高く、次いで「利用する必要がない」(49.8%)となっている。

また、「利用したいが、経済的な理由で利用できない」、「利用したいが、幼稚園や保育所などに空きがない」との、利用したい意向があるが利用できていない回答もあがっている。



現在、教育・保育事業を利用していない理由として「子どもがまだ小さいため」と回答した場合、利用しようと考えている子どもの年齢は「3歳」が最も高く55.2%となっている。

〔図 利用しようと考えている子どもの年齢（就学前児童）〕
（利用していない理由が「子どもがまだ小さいため」と回答した家庭）



5 教育・保育事業の利用希望（就学前児童）

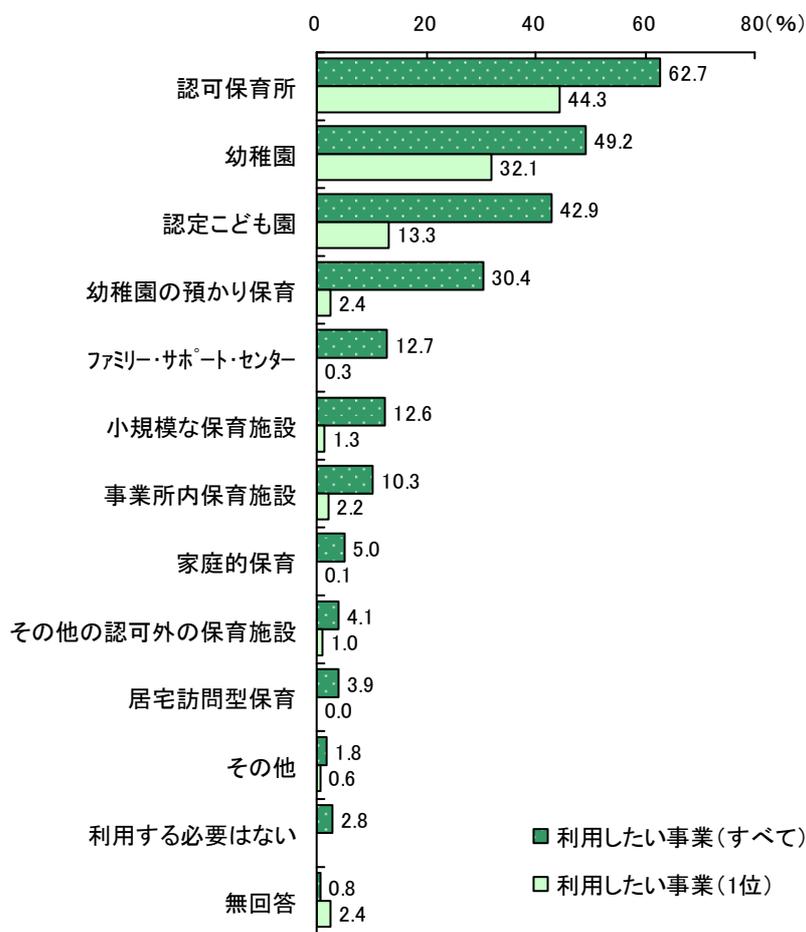
（1）教育・保育事業の利用希望

平日、定期的に利用したい教育・保育事業は、「認可保育所」（62.7%）、「幼稚園」（49.2%）、「認定こども園」（42.9%）、「幼稚園の預かり保育」（30.4%）の順で高くなっている。

また、希望する教育・保育事業のうち、希望する順位が1位の事業は、「認可保育所」が44.3%で最も高く、次いで「幼稚園」が32.1%、「認定こども園」が13.3%となっている。

希望する順位が1位の事業を年齢区分別にみると、すべての年齢で「認可保育所」が最も高くなっている。

〔図 利用を希望する事業〕



〔図 利用を希望する事業/年齢区分別～上位8項目～〕

(%)

	回答数 (人)	認可保育所	幼稚園	認定こども園	事業所内保育施設	小規模な保育施設	その他の認可外の保育施設	ファミリー・サポート・センター	家庭的保育
0歳	359	45.1	30.6	14.2	5.0	1.7	1.4	0.3	-
1・2歳	541	47.9	33.6	12.2	1.5	0.9	0.6	0.6	0.4
3～5歳	854	41.9	36.7	13.9	1.4	1.1	1.1	0.1	-

(2) 利用希望場所

利用を希望する事業の実施場所について、すべての事業で7割以上が市内の事業の希望となっている。

〔図 利用を希望する事業の実施場所〕

(%)

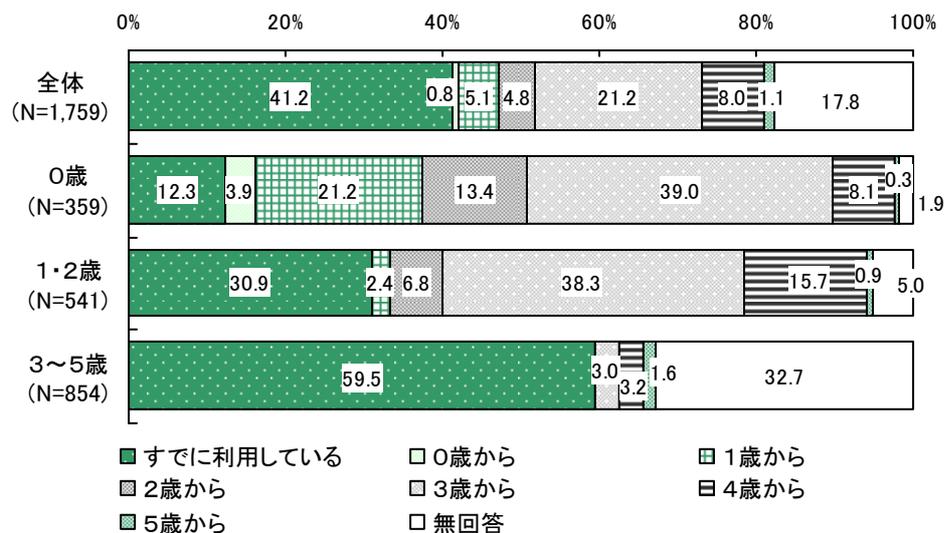
	回答数 (人)	東広島市内	東広島市外	無回答
認定こども園	782	71.5	1.5	27.6
幼稚園	910	80.4	1.8	18.5
幼稚園の預かり保育	555	75.7	1.3	23.6
認可保育所	1143	86.4	2.1	12.7
家庭的保育	92	80.4	2.2	19.6
小規模な保育施設	229	70.7	1.7	29.3
事業所内保育施設	186	76.3	6.5	19.4
居宅訪問型保育	72	84.7	4.2	13.9
その他の認可外の保育施設	76	84.2	1.3	15.8

(3) 利用を希望する年齢

利用を希望する子どもの年齢について、「すでに利用している」を除くと、「3歳から」が21.2%で最も高く、次いで「4歳から」が8.0%、「1歳から」が5.1%となっている。

年齢区別にみると、0歳では「0歳から」が3.9%、「1歳から」が21.2%、「2歳から」が13.4%となっている。

〔図 利用を希望する子どもの年齢/年齢区分別〕

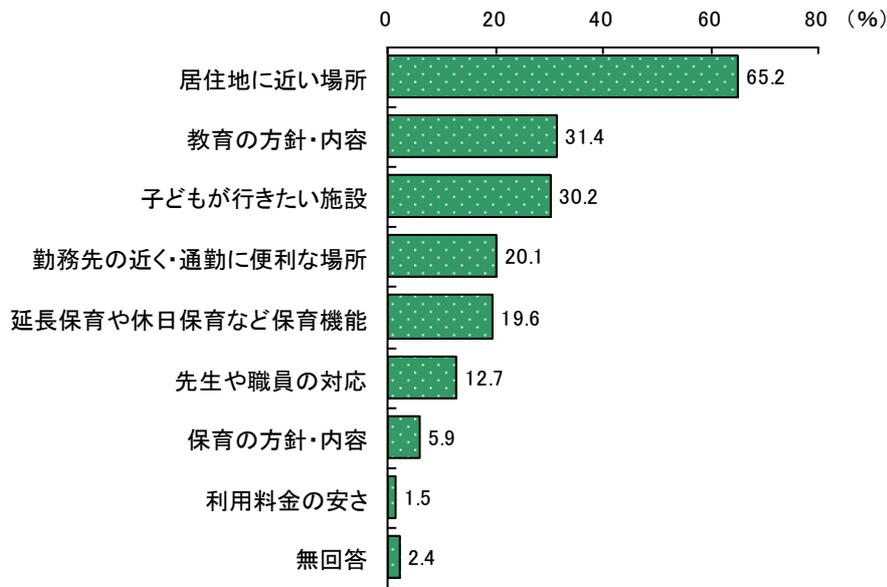


(4) 事業を選択する際に重視すること

事業を選択する際に重視することについて、「居住地に近い場所」が65.2%で最も高く、次いで「教育の方針・内容」(31.4%)、「子どもが行きたい施設」(30.2%)となっている。

希望事業別にみると、「居住地に近い場所」は認可保育所で、「教育の方針・内容」は幼稚園で、「勤務先の近く・通勤に便利な場所」は認可保育所、事業所内保育施設で高くなっている。

〔図 事業を選択する際に重視すること〕



〔図 事業を選択する際に重視すること/希望事業別～上位6項目～〕

(%)

	回答数 (人)	居住地に近い場所	教育の方針・内容	子どもが行きたい施設	勤務先の近く・通勤に便利な場所	延長保育や休日保育など保育機能	先生や職員の対応
認定こども園	237	59.1	36.7	31.2	22.4	24.5	12.2
幼稚園	605	56.7	51.7	34.7	4.1	12.4	21.8
認可保育所	783	77.1	15.3	27.8	31.5	24.3	6.6
事業所内保育施設	38	39.5	26.3	18.4	57.9	23.7	15.8
その他の認可外の保育施設	17	58.8	41.2	29.4	17.6	23.5	-

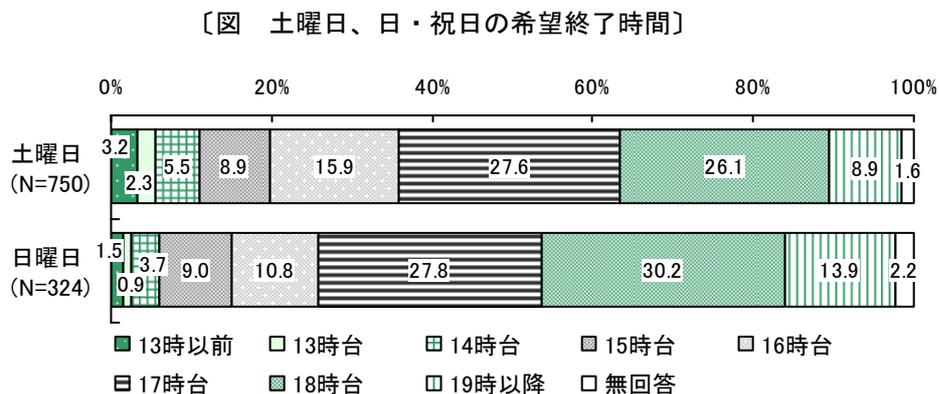
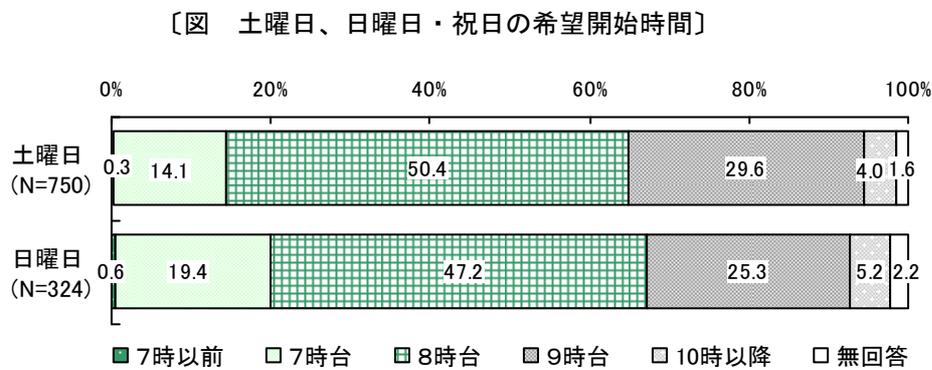
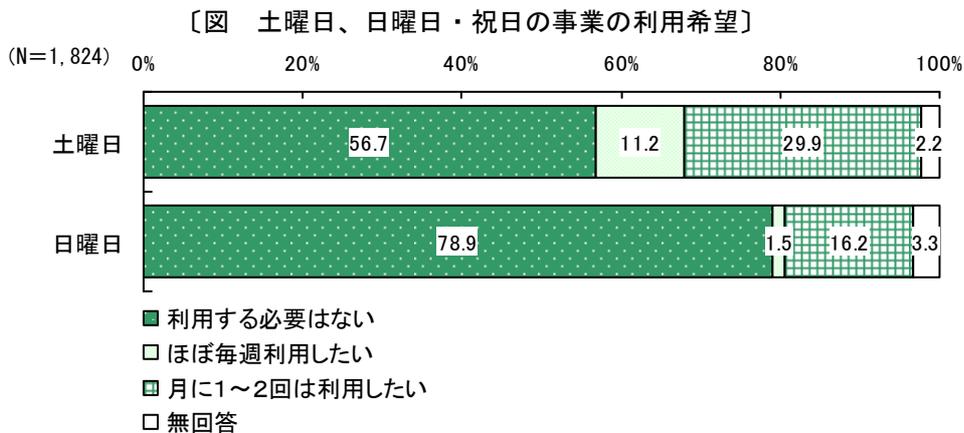
(5) 土曜日、日曜日、祝日の事業の利用希望

土曜日の事業の利用希望は、「ほぼ毎週利用したい」との回答割合は11.2%、「月に1～2回は利用したい」との回答割合は29.9%となっている。

利用希望時間について、開始時間は、「8時台」(50.4%)が最も高く、次いで「9時台」(29.6%)、終了時間は「17時台」(27.6%)が最も高く、次いで「18時台」(26.1%)となっている。

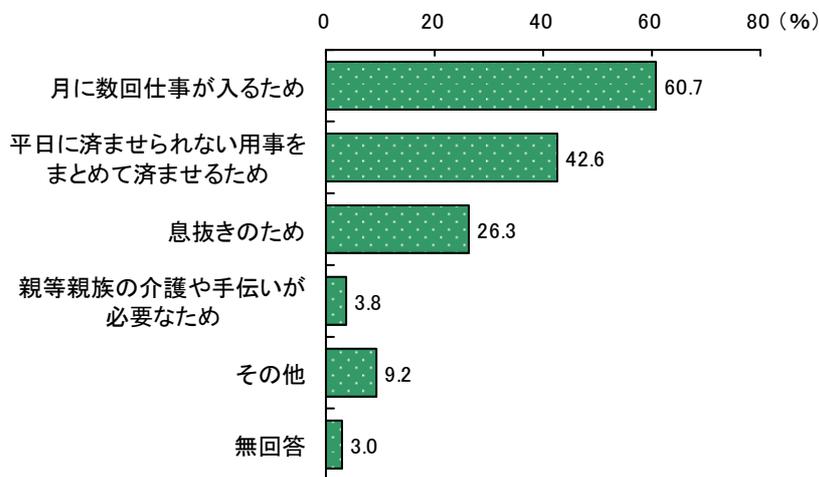
日曜日・祝日の事業の利用希望は、「ほぼ毎週利用したい」との回答割合は1.5%、「月に1～2回は利用したい」との回答割合は16.2%となっている。

利用希望時間について、開始時間は「8時台」(47.2%)が最も高く、次いで「9時台」(25.3%)、終了時間は「18時台」(30.2%)が最も高く、次いで「17時台」(27.8%)となっている。



土曜日、日曜日等に時々利用したい場合の理由について、「月に数回仕事が入るため」との回答割合が 60.7%と最も高く、次いで「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」(42.6%)、「息抜きのため」(26.3%)となっている。

〔図 土曜日、日曜日・祝日に時々事業を利用したい理由〕



(6) 長期休暇中の事業の利用希望 (幼稚園を利用している家庭)

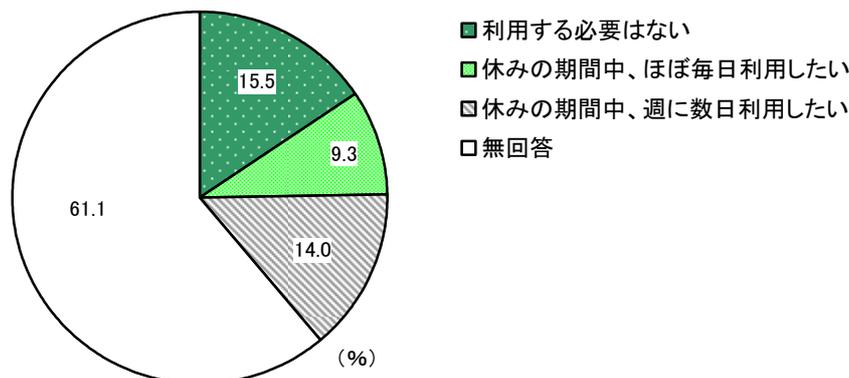
幼稚園を利用している家庭の長期休暇中の事業の利用希望は、「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」との回答割合は 9.3%、「休みの期間中、週に数日利用したい」との回答割合は 14.0%となっている。

利用希望時間について、開始時間は「9時台」(43.4%)が最も高く、次いで「8時台」(41.1%)、終了時間は「17時台」(20.0%)が最も高く、次いで「15時台」(19.7%)となっている。

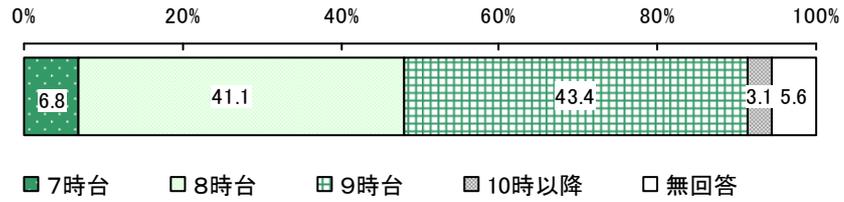
長期休暇中に週に数日事業を利用したい場合の理由について、「買い物等の用事をまとめて済ませるため」との回答割合が 44.1%と最も高く、次いで「息抜きのため」(40.6%)、「週に数回仕事が入るため」(40.2%)となっている。

〔図 長期休暇中の事業の利用希望〕

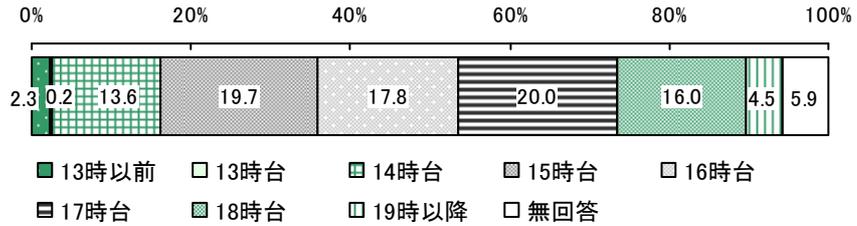
(幼稚園を利用している子どものみ)



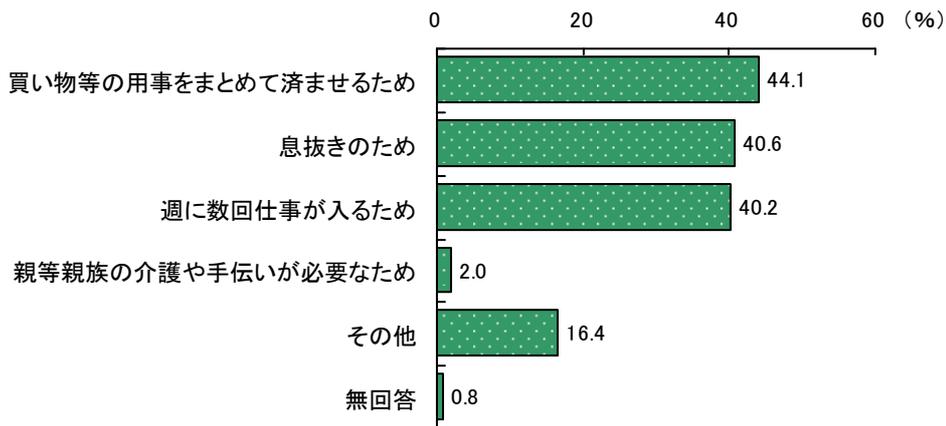
〔図 長期休暇中の希望開始時間〕



〔図 長期休暇中の希望終了時間〕



〔図 長期休暇中に週に数日事業を利用したい理由〕



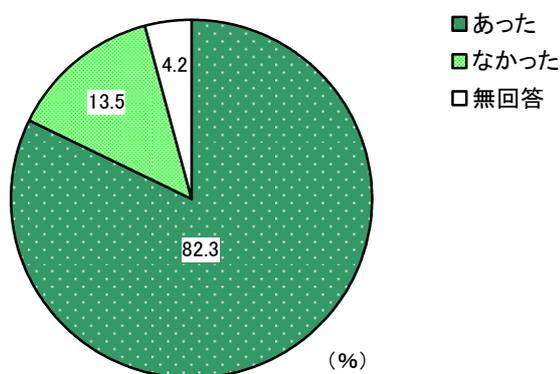
6 不定期の保育事業の利用意向（就学前児童）

（1）子どもが病気の際の対応

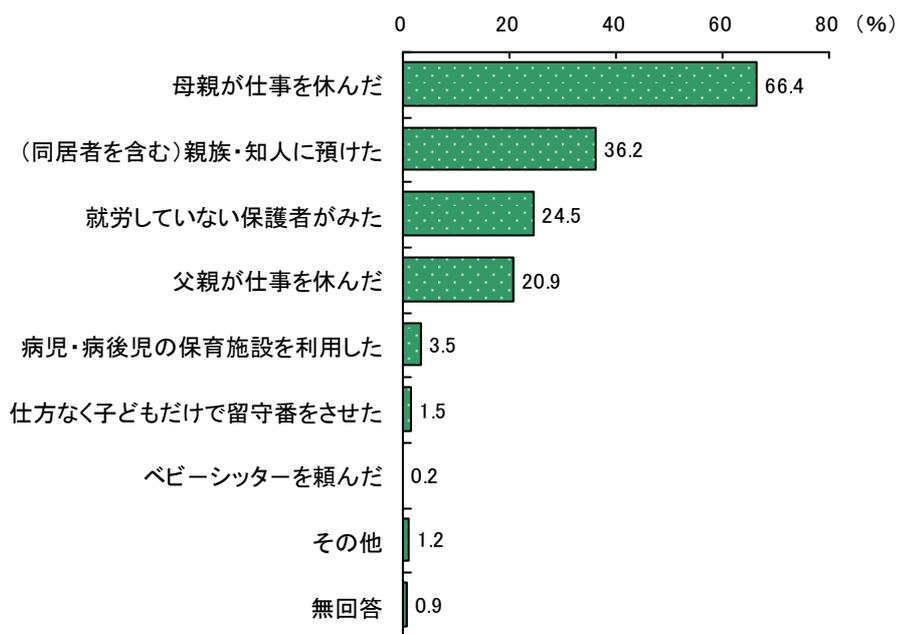
病気やケガで教育・保育事業を利用できなかったことが、「あった」との回答割合は 82.3% となっている。

その際の対応は、「母親が仕事を休んだ」との回答割合が 66.4%で最も高く、次いで「(同居者を含む) 親族・知人に預けた」(36.2%)、「就労していない保護者がみた」(24.5%) となっている。

〔図 子どもが病気で教育・保育事業を休んだ経験の有無〕
 (定期的に教育・保育事業を利用している家庭)



〔図 子どもが病気で教育・保育事業を休んだ際の対応〕



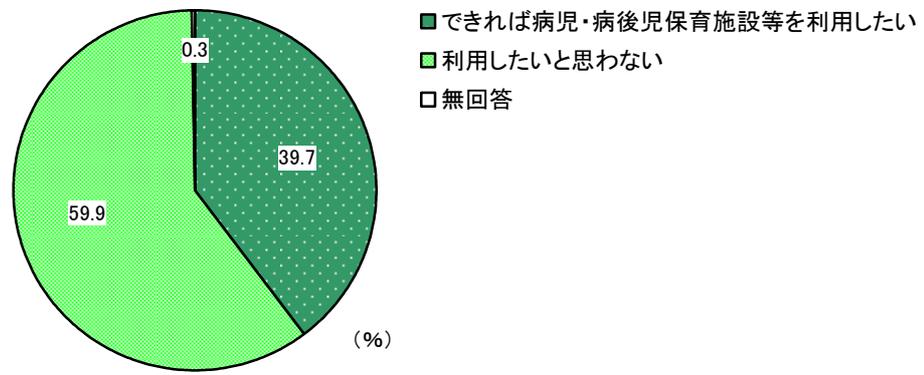
(2) 病児・病後児保育施設等の利用意向

母親や父親が仕事を休んで子どもをみた経験がある家庭の、病児・病後児保育施設等の利用意向は、「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」との回答割合は 39.7%となっている。

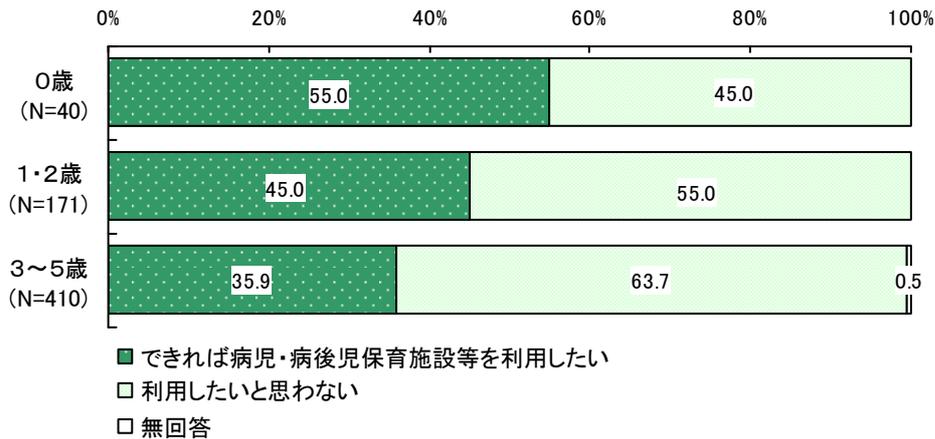
年齢区分別にみると、年齢が低いほど、「利用したい」との回答割合が高くなっている。

病児・病後児保育施設等の利用意向がある家庭の希望する事業形態は、「小児科に併設した施設で子どもを保育する事業」が 84.3%で高くなっている。

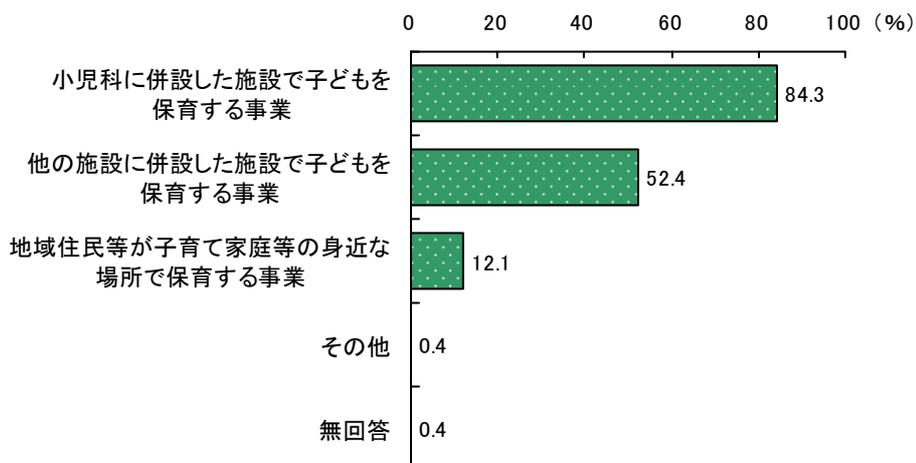
〔図 子どもが病気の際の病児・病後児保育施設等の利用希望〕
(子どもが病気の際に母親・父親が仕事を休んだ経験がある家庭)



〔図 子どもが病気の際の病児・病後児保育施設等の利用希望/年齢区分別〕
(子どもが病気の際に母親・父親が仕事を休んだ経験がある家庭)

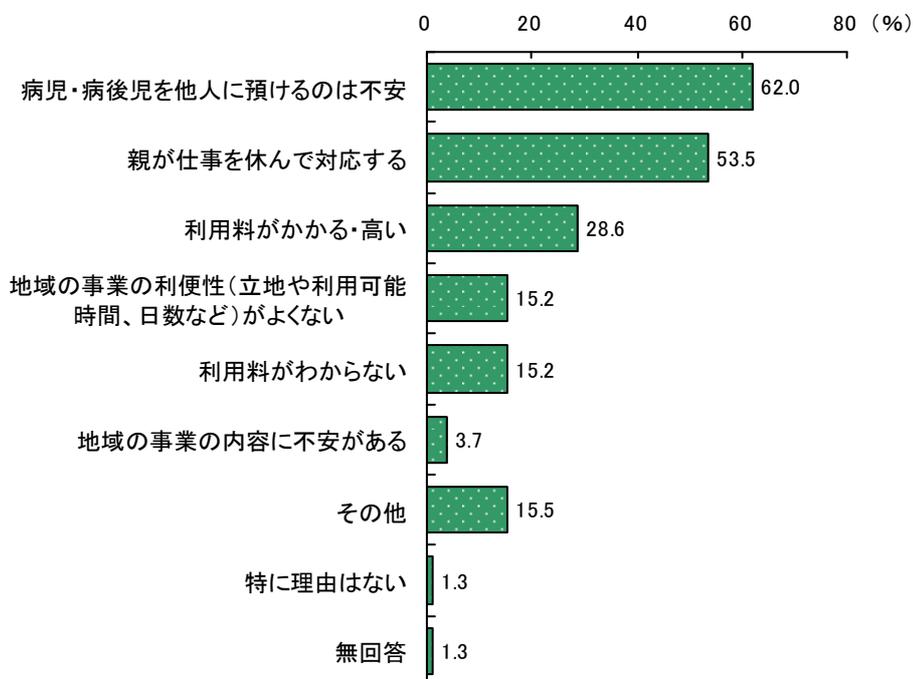


〔図 病気の際に子どもを預ける場合に希望する事業形態〕
 (病児・病後児保育施設を利用したいと回答した家庭)



病児・病後児保育施設等を利用したいと思わない理由は、「病児・病後児を他人に預けるのは不安」との回答割合が 62.0%で最も高く、次いで「親が仕事を休んで対応する」(53.5%)となっているが、「利用料がかかる・高い」、「地域の事業の利便性がよくない」との、事業の問題をあげる回答もあがっている。

〔図 病児・病後児保育施設等を利用したいと思わない理由〕

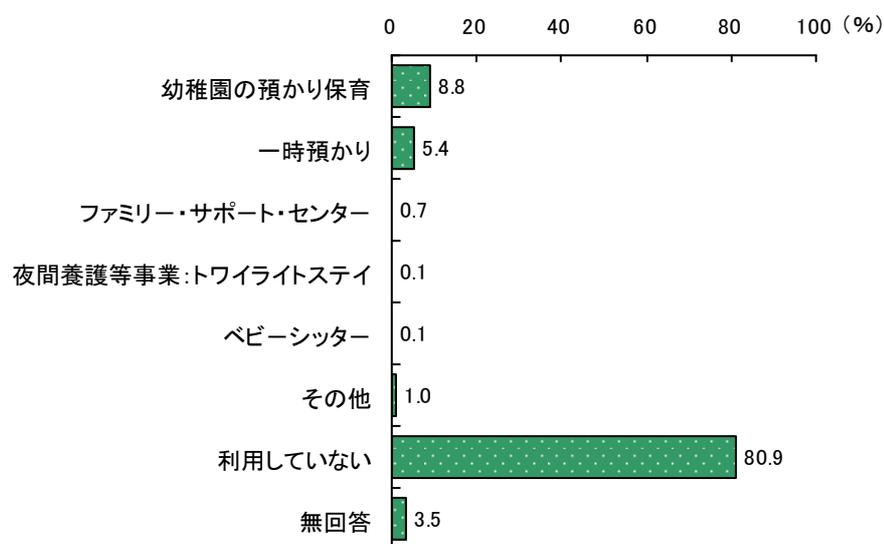


(3) 一時的な保育サービスの利用状況

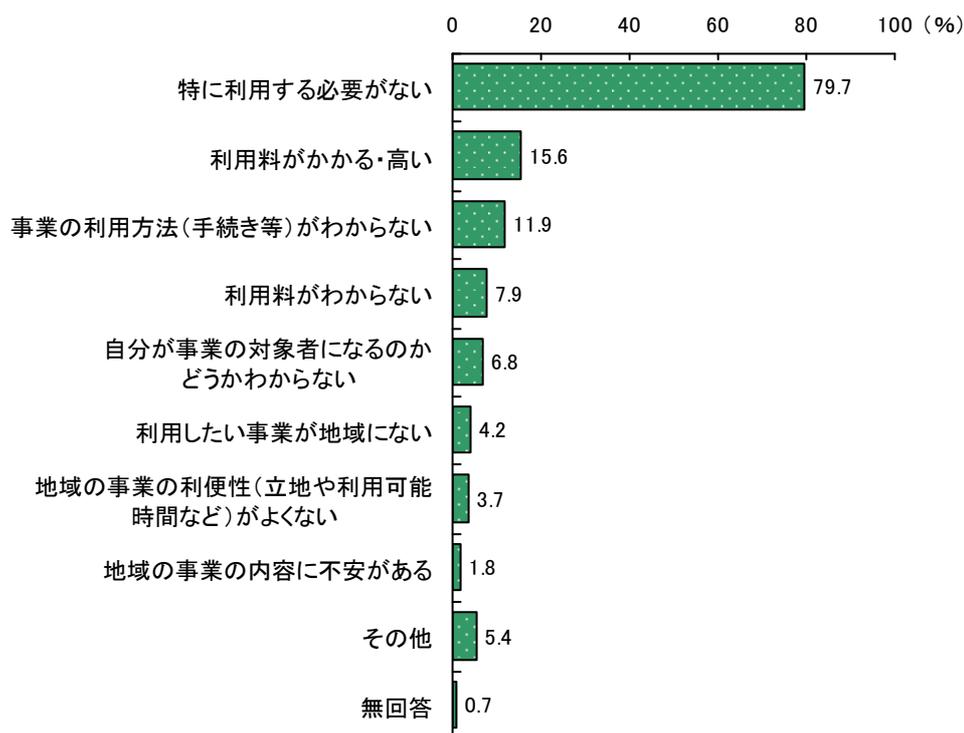
一時的な保育サービスを利用した経験について、「利用していない」、「無回答」を除くと16.1%であり、利用した事業は「幼稚園の預かり保育」が8.8%、「一時預かり」が5.4%となっている。

一時的な保育サービスを利用していない理由について、「特に利用する必要がない」との回答割合が79.7%と約8割にのぼっているが、「事業の利用方法(手続き等)がわからない」、「利用料がわからない」、「自分が事業の対象者になるのかどうかわからない」という、事業の情報が周知されていない回答もあがっている。

〔図 一時的な保育サービスの利用状況〕



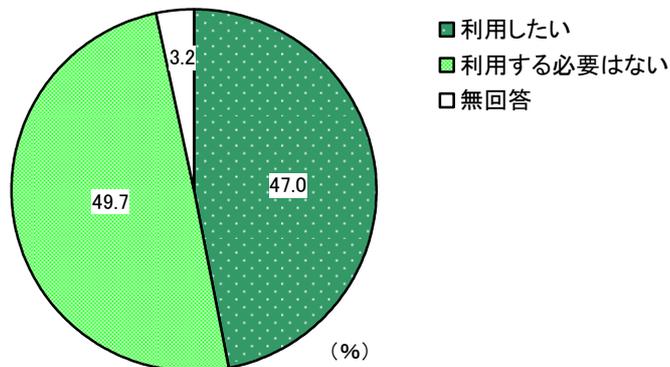
〔図 一時的な保育サービスを利用していない理由〕



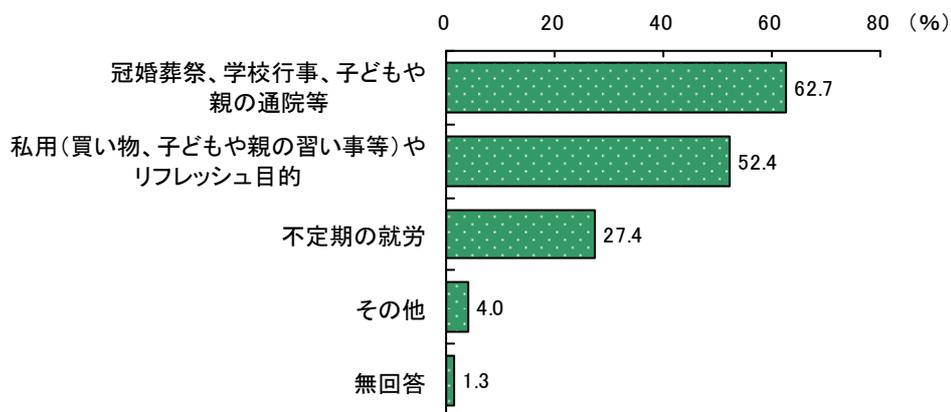
(4) 一時的な保育サービスの利用意向

一時的な保育サービスを今後、「利用したい」との回答割合は47.0%であり、その理由は「冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院等」との回答割合が62.7%と最も高く、次いで「私用（買い物、子どもや親の習い事等）やリフレッシュ目的」（52.4%）となっている。

〔図 一時的な保育サービスの利用意向〕



〔図 利用する理由〕

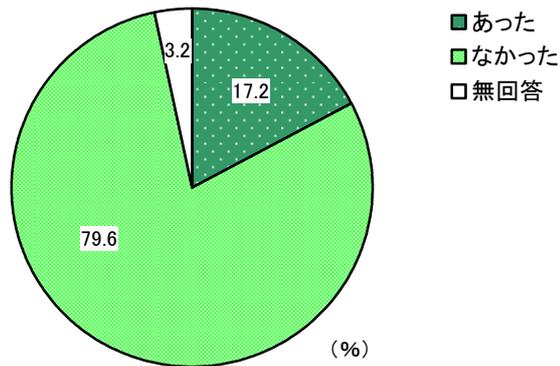


(5) 泊りがけで子どもを預けた経験の有無

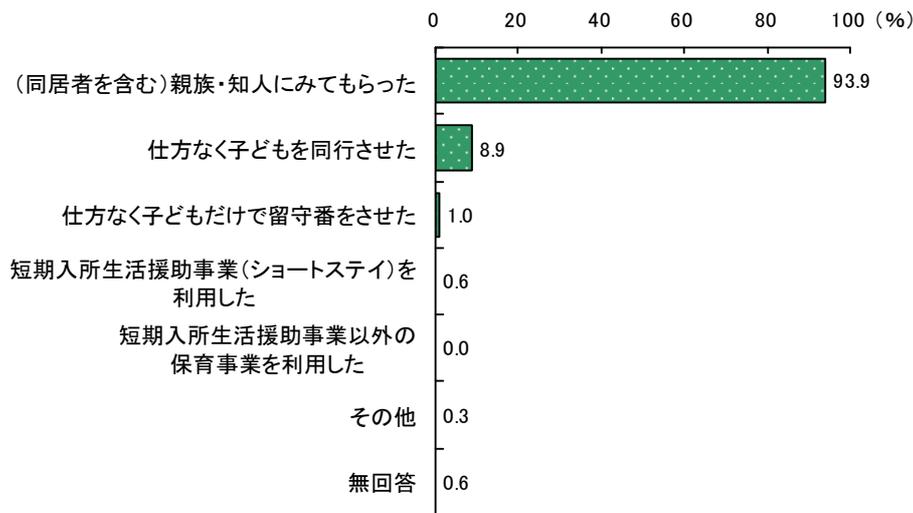
保護者の用事により子どもを泊りがけで預けた経験が「あった」との回答割合は17.2%であり、その際の対応は「(同居者を含む)親族・知人にみてもらった」との回答割合が93.9%であり、事業を利用した割合はわずかである。

また、親族や知人にみてもらったが、「非常に困難」との回答割合は7.5%となっている。

〔図 泊りがけで子どもを預けた経験の有無〕

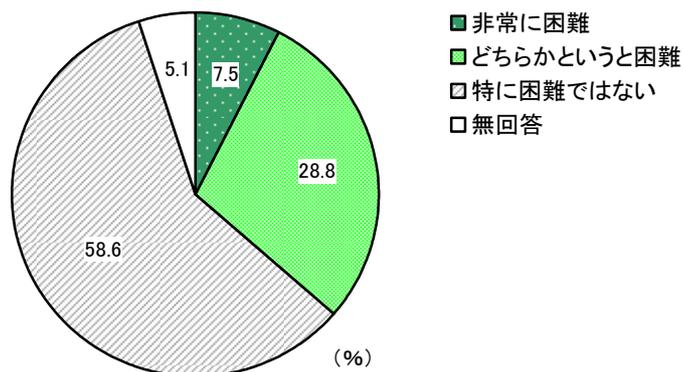


〔図 泊りがけで子どもを預けた際の対応〕



〔図 泊りがけで子どもを預けた際の困難度〕

(親族・知人にみてもらった経験がある家庭)



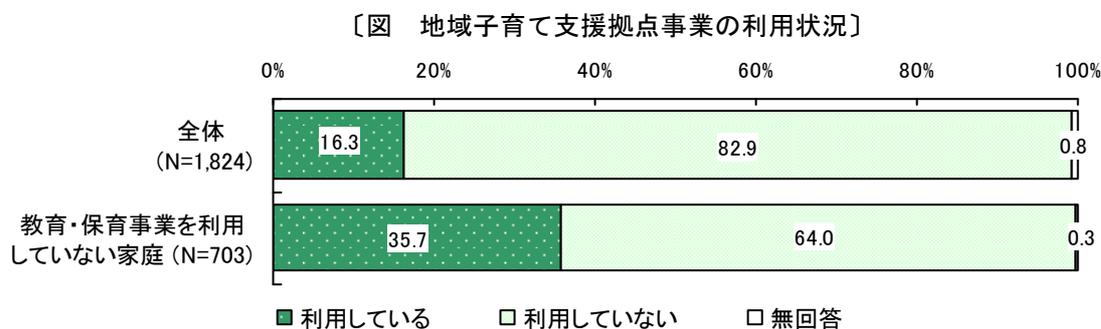
7 地域の子育て支援サービスの利用状況（就学前児童）

（1）地域子育て支援拠点事業の利用状況

地域子育て支援拠点事業の利用状況について、「利用している」との回答割合は全体で16.3%、定期的な教育・保育事業を利用していない家庭で35.7%となっている。

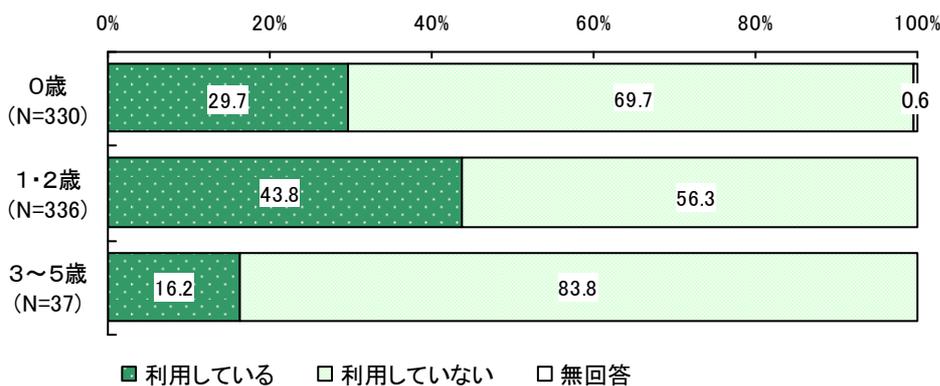
定期的な教育・保育事業を利用していない家庭について年齢区分別にみると、「利用している」との回答割合は1・2歳で高くなっている。

地域子育て支援拠点事業でよく利用する施設は、「キッズプラザ東広島ゆめもくば」が最も高く、よく利用する理由としては、「身近な地域で実施しているため」との回答割合が67.7%と最も高く、次いで「指導員の対応がよいため」（51.5%）、「通うのに便利であるため（公共交通機関・駐車場等）」（34.0%）となっている。



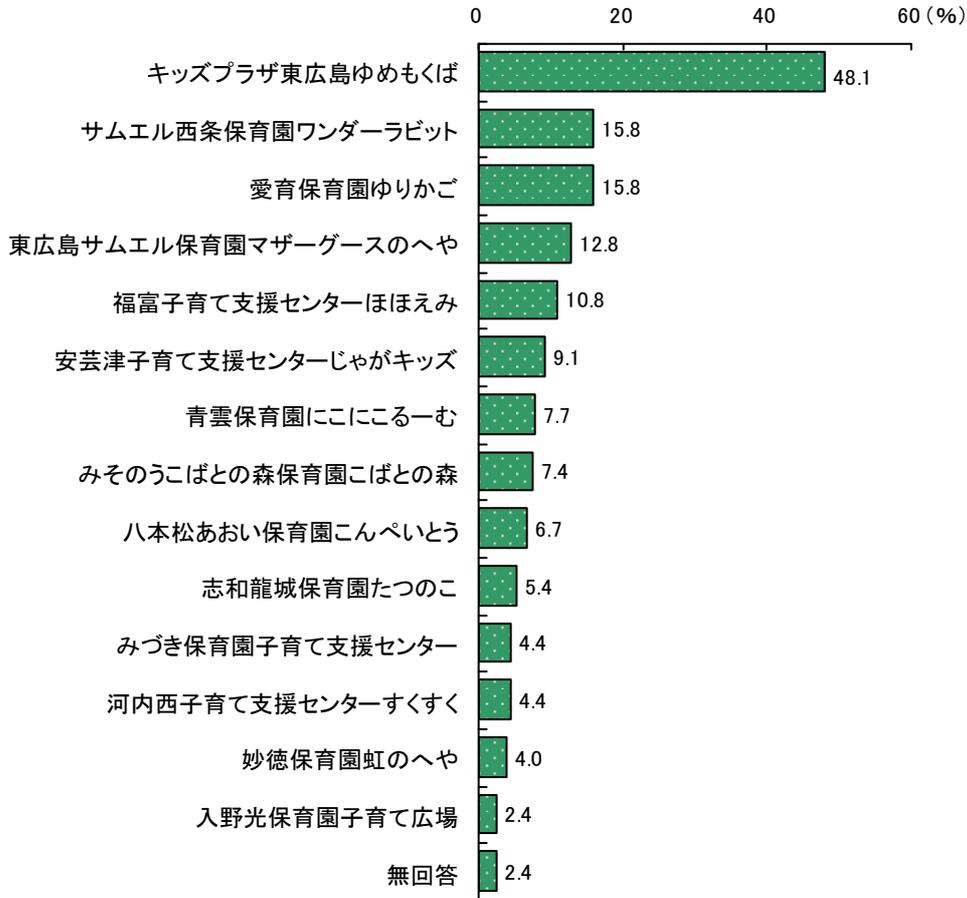
〔図 地域子育て支援拠点事業の利用状況/年齢区分別〕

（教育・保育事業を利用していない家庭）

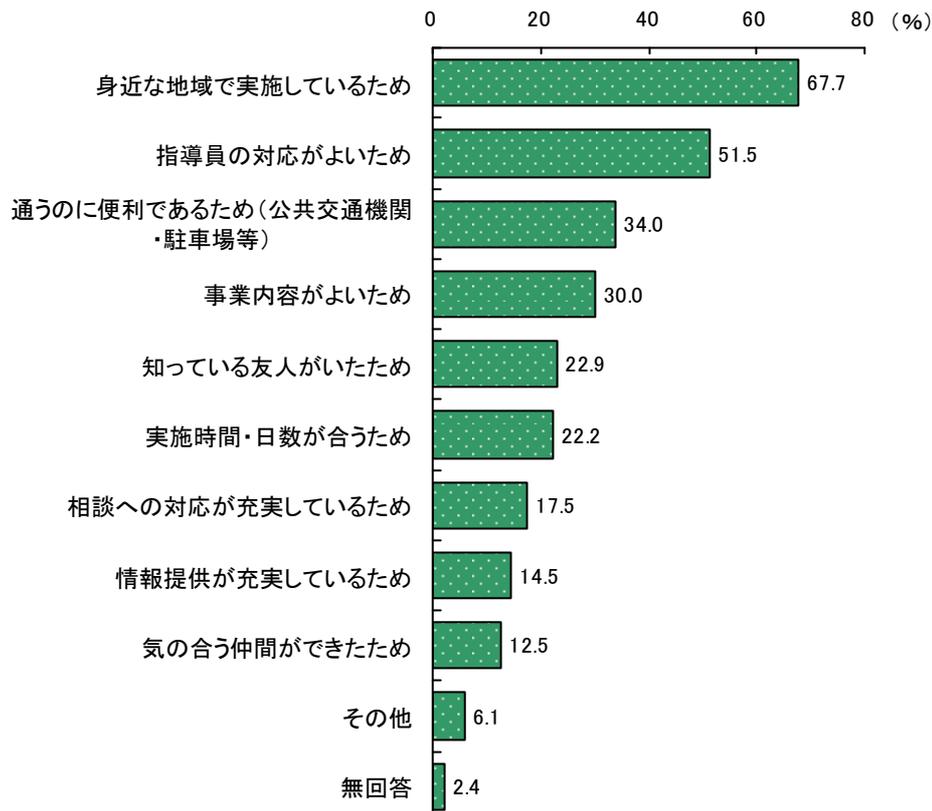


〔図 よく利用する施設〕

(地域子育て支援拠点事業を利用している家庭)



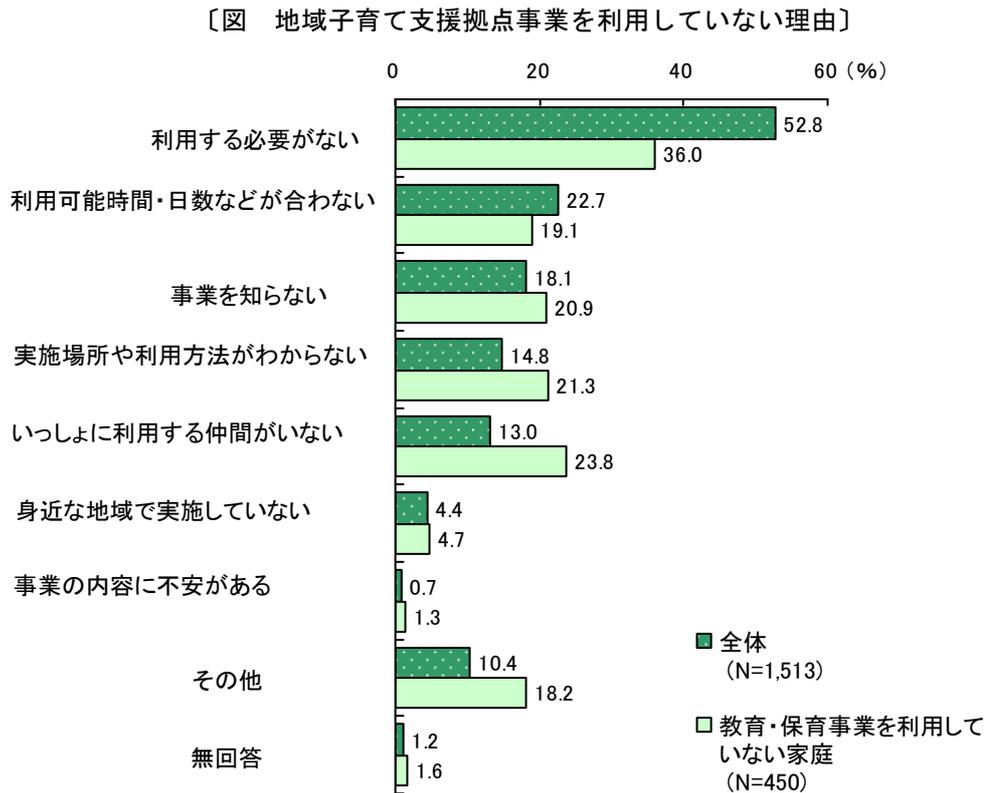
〔図 施設をよく利用する理由〕



(2) 地域子育て支援拠点事業を利用していない理由

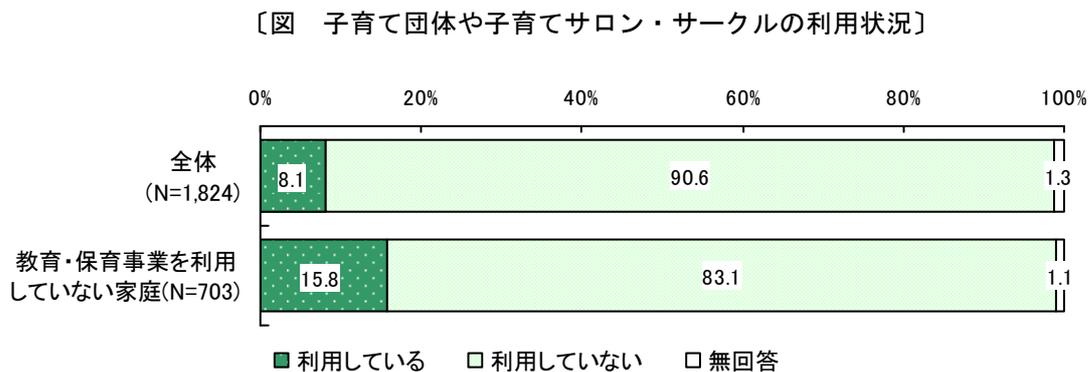
地域子育て支援拠点事業を利用していない理由について、全体、定期的な教育・保育事業を利用していない家庭ともに「利用する必要がない」との回答割合が最も高くなっている。

また、教育・保育事業を利用していない家庭では、「いっしょに利用する仲間がない」、「実施場所や利用方法がわからない」、「事業を知らない」、「利用可能時間・日数などが合わない」との回答割合がいずれも2割前後となっている。



(3) 子育て団体や子育てサロン・サークルの利用状況

子育て団体や子育てサロン・サークルの利用状況について、「利用している」との回答割合は、全体で8.1%、定期的な教育・保育事業を利用していない家庭で15.8%となっている。

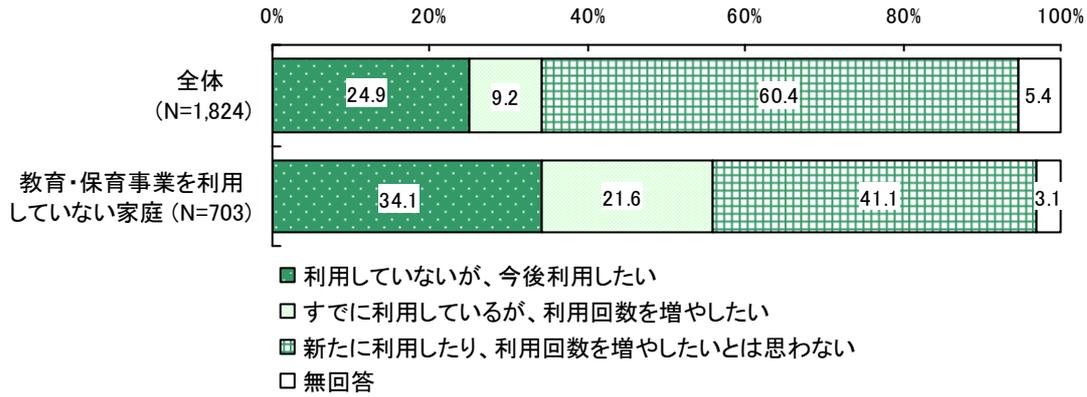


(4) 地域子育て支援拠点事業の今後の利用意向

地域子育て支援拠点事業の今後の利用意向について、「利用していないが、今後利用したい」との回答割合は、全体で 19.0%、定期的な教育・保育事業を利用していない家庭で 34.1%となっている。

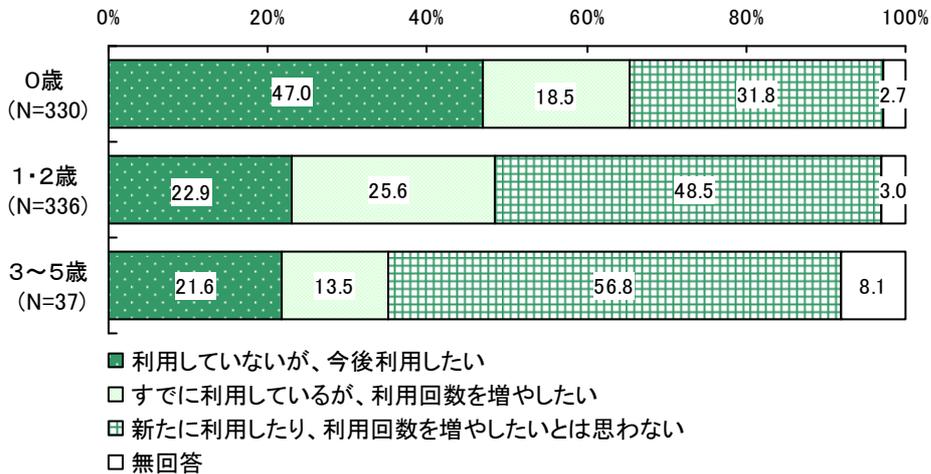
定期的な教育・保育事業を利用していない家庭について年齢区分別にみると、0歳では「利用していないが、今後利用したい」との回答割合が 47.0%となっている。

〔図 地域子育て支援拠点事業の利用意向/教育・保育事業の利用状況別〕



〔図 地域子育て支援拠点事業の利用希望/年齢区分別〕

(教育・保育事業を利用していない家庭)

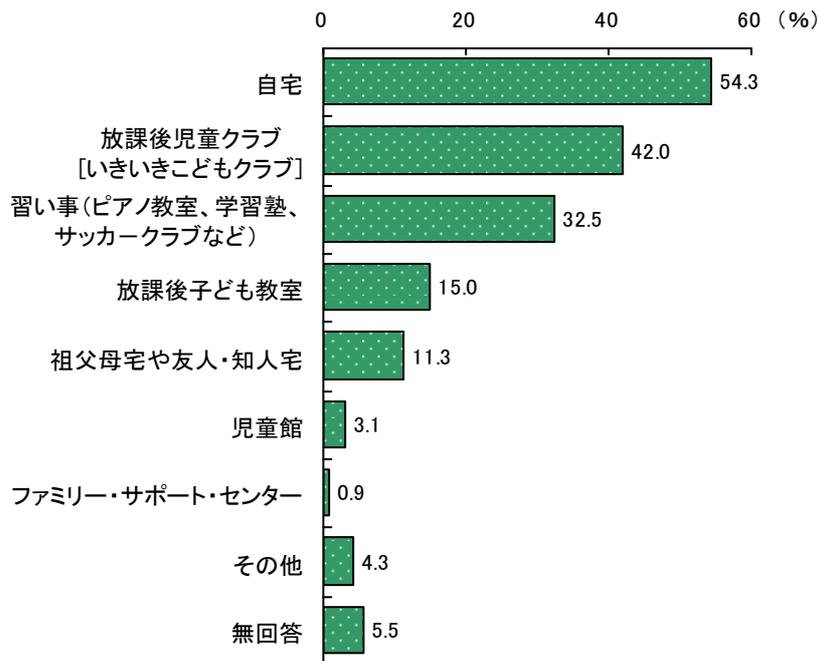


8 小学校就学後の希望する放課後の過ごし方（5歳児）

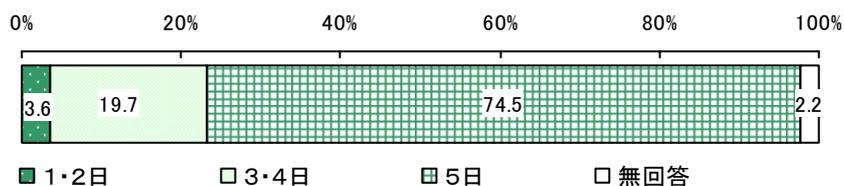
小学校就学後の低学年の放課後の過ごし方として、「放課後児童クラブ（いきいきこどもクラブ）」をあげた割合は42.0%となっている。

利用希望日数は1週当たり「5日」、利用希望終了時間は「18時台」、「17時台」の割合が高くなっている。

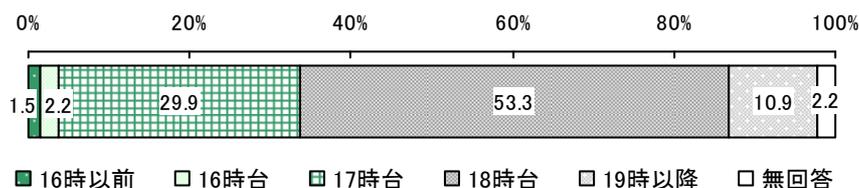
〔図 子どもの小学校就学後（低学年）の希望する放課後の過ごし方〕



〔図 放課後児童クラブの1週当たりの利用希望日数〕



〔図 放課後児童クラブの利用希望終了時間〕



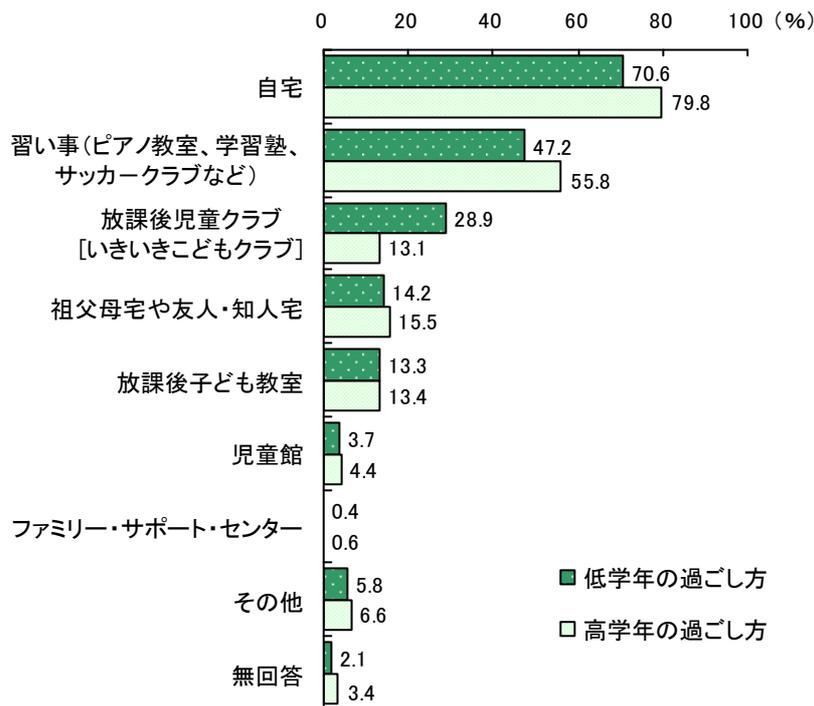
9 放課後児童クラブの利用意向（小学生）

（1）希望する放課後の過ごし方

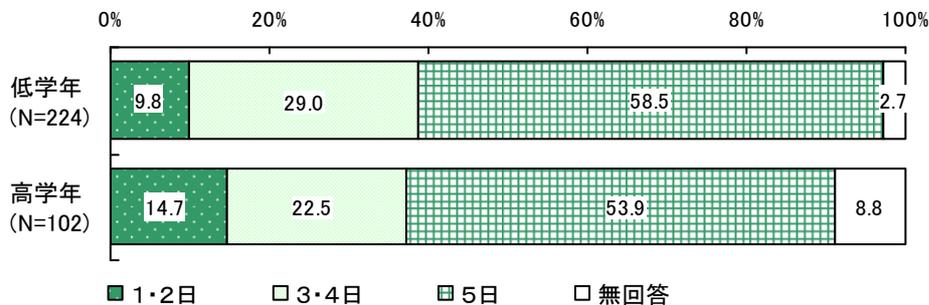
小学生の希望する放課後の過ごし方として、「放課後児童クラブ（いきいきこどもクラブ）」をあげた割合は、低学年のうちは28.9%、高学年では13.1%となっている。

利用希望日数は1週当たり「5日」、利用希望終了時間は「18時台」の割合が高くなっている。

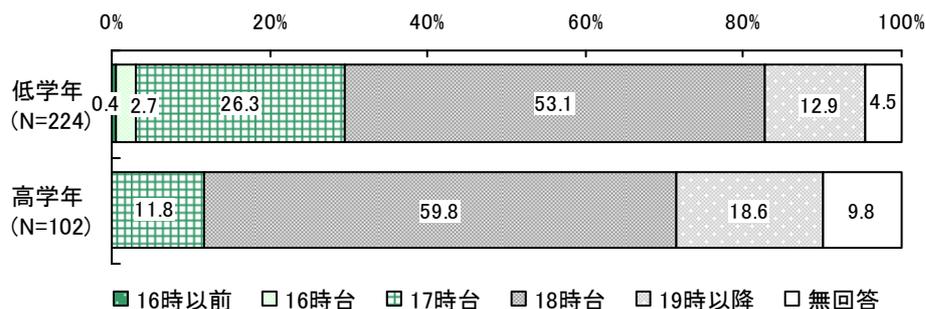
〔図 希望する放課後の過ごし方〕



〔図 放課後児童クラブの1週当たりの利用希望日数〕



〔図 放課後児童クラブの利用希望終了時間〕



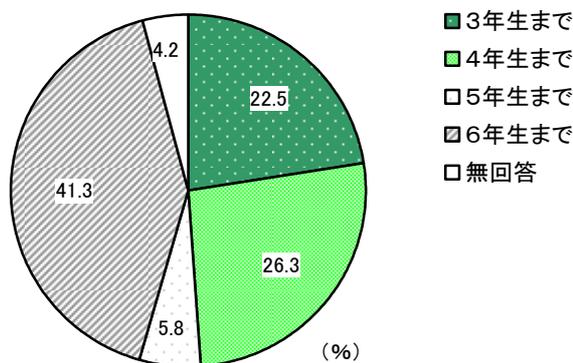
(2) 利用学年延長の意向

放課後児童クラブを何年生まで利用したいかについて、「6年生まで」との回答割合が41.3%と最も高くなっている。

学年別にみると、学年があがるほど、利用を希望する学年が高くなっている。

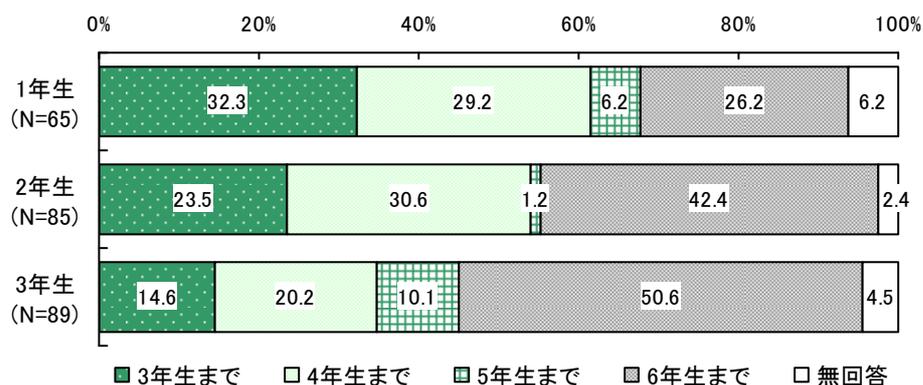
〔図 放課後児童クラブの利用希望学年〕

(放課後の希望の過ごし方で放課後児童クラブを回答した家庭)



〔図 放課後児童クラブの利用希望学年/学年別〕

(放課後の希望の過ごし方で放課後児童クラブを回答した家庭)



(3) 平日・土曜日の利用時間延長の希望

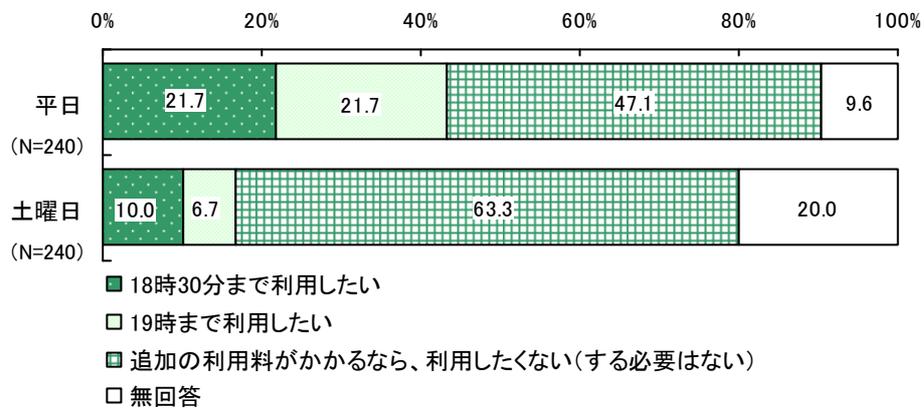
放課後児童クラブの18時以降の利用意向について、平日は、「18時30分まで利用したい」との回答割合が21.7%、「19時まで利用したい」との回答割合が21.7%となっている。

学年別にみると、「18時30分まで利用したい」との回答割合は2・3年生で、「19時まで利用したい」との回答割合は1年生で高くなっている。

土曜日は、「18時30分まで利用したい」との回答割合が10.0%、「19時まで利用したい」との回答割合が6.7%となっている。

〔図 平日・土曜日の利用時間延長の希望〕

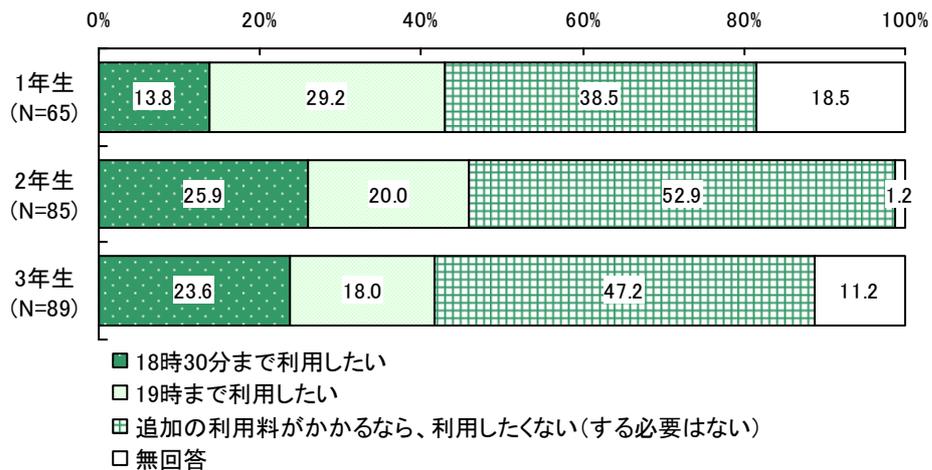
(放課後の希望の過ごし方で放課後児童クラブを回答した家庭)



〔図 平日の利用時間延長の希望/学年別〕

(放課後の希望の過ごし方で放課後児童クラブを回答した家庭)

〈平日〉



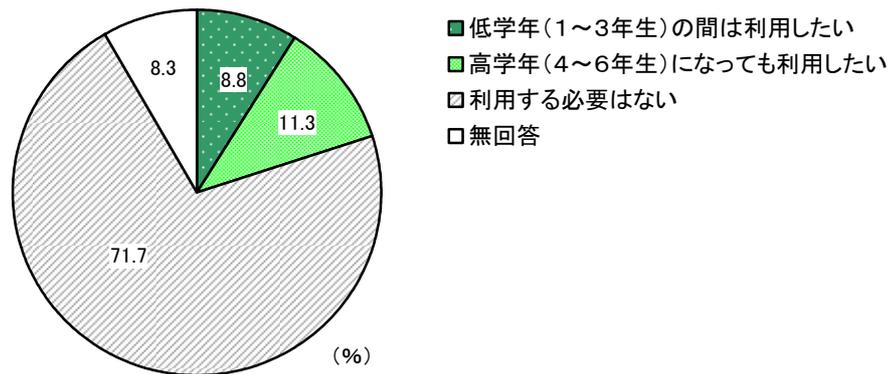
(4) 日曜日の利用意向

放課後児童クラブの日曜日の利用意向について、「低学年（1～3年生）の間は利用したい」との回答割合が8.8%、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」との回答割合が11.3%となっている。

希望開始時間は「8時台」が、希望終了時間は「18時台」が最も高くなっている。

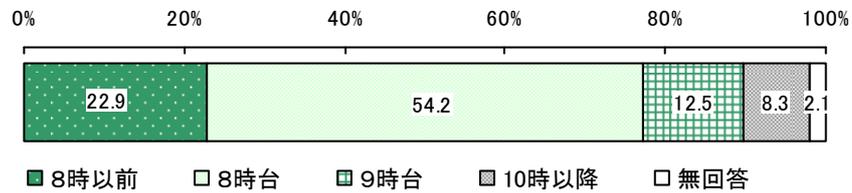
〔図 日曜日の利用意向〕

(放課後の希望の過ごし方で放課後児童クラブを回答した家庭)



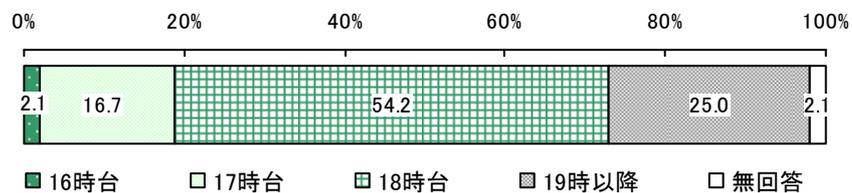
〔図 日曜日の利用希望開始時間〕

(日曜日に利用したいと回答した家庭)



〔図 日曜日の利用希望終了時間〕

(日曜日に利用したいと回答した家庭)



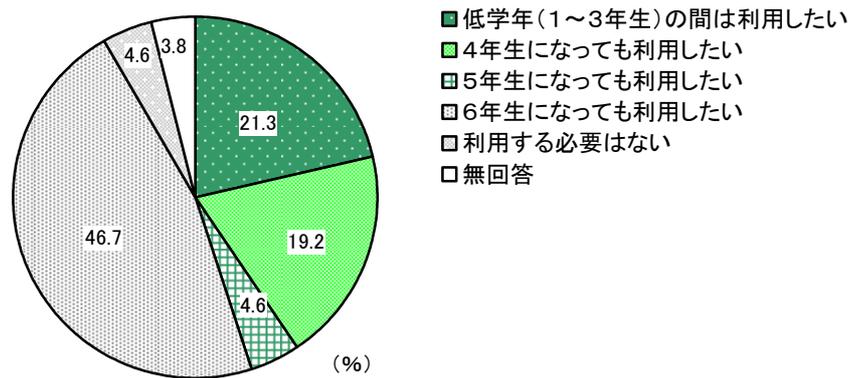
(5) 長期休暇中の利用意向

放課後児童クラブの長期休暇中の利用意向について、「6年生になっても利用したい」との回答割合が46.7%と最も高く、次いで「低学年(1～3年生)の間は利用したい」(21.3%)、「4年生になっても利用したい」(19.2%)となっている。

希望開始時間は「8時台」が、希望終了時間は「18時台」が最も高くなっている。

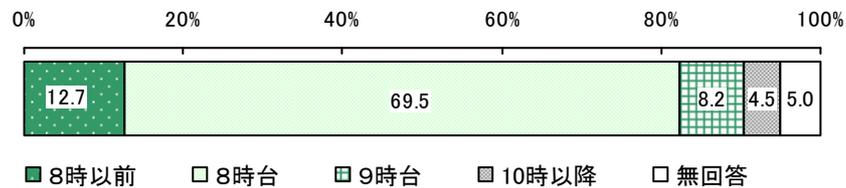
〔図 長期休暇中の利用意向〕

(放課後の希望の過ごし方で放課後児童クラブを回答した家庭)



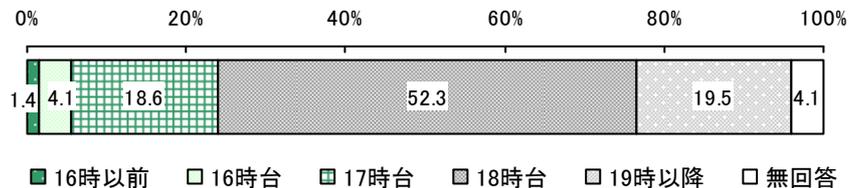
〔図 長期休暇中の利用希望開始時間〕

(放課後の希望の過ごし方で放課後児童クラブを回答した家庭)



〔図 長期休暇中の利用希望終了時間〕

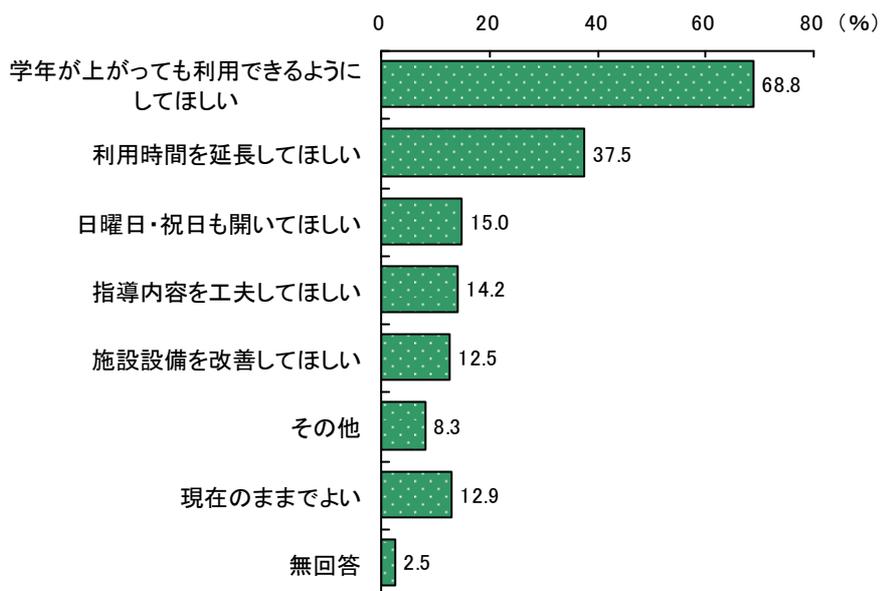
(放課後の希望の過ごし方で放課後児童クラブを回答した家庭)



(6) 放課後児童クラブに対する要望

放課後児童クラブに対する要望として、「学年が上がっても利用できるようにしてほしい」との回答割合が 68.8%と最も高く、次いで「利用時間を延長してほしい」(37.5%) となっている。

〔図 放課後児童クラブに対する要望〕
(放課後の希望の過ごし方で放課後児童クラブを回答した家庭)



10 職場の両立支援制度

(1) 仕事と生活の両立

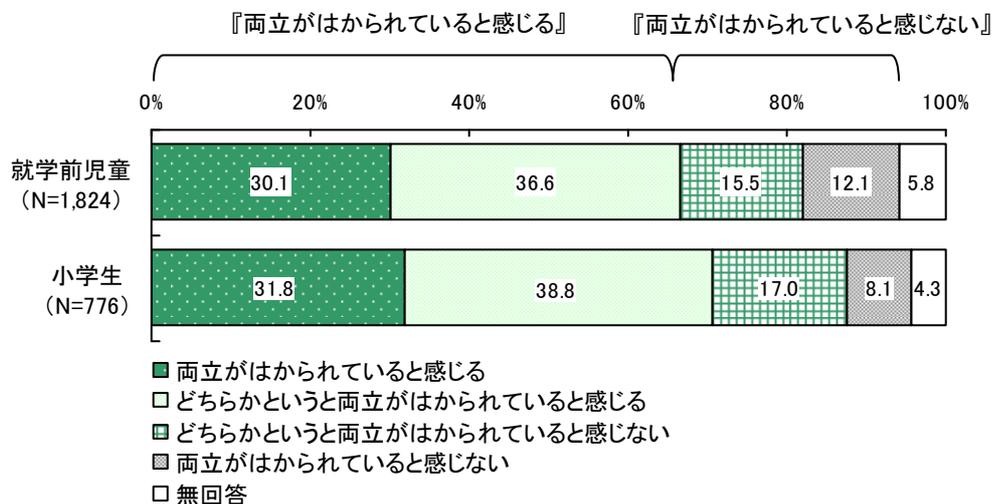
対象児童の家庭において、仕事と生活の『両立がはかられていると感じる』（「両立がはかられていると感じる」＋「どちらかという両立がはかられていると感じる」）割合は就学前児童で66.7%、小学生で70.6%となっている。

前回調査と比較すると、『両立がはかられていると感じる』割合は、就学前児童で20.9ポイント、小学生で12.4ポイント上昇している。

就労状況別にみると、『両立がはかられていると感じる』割合は、共働きである家庭とひとり親家庭で就労している家庭で高くなっている。

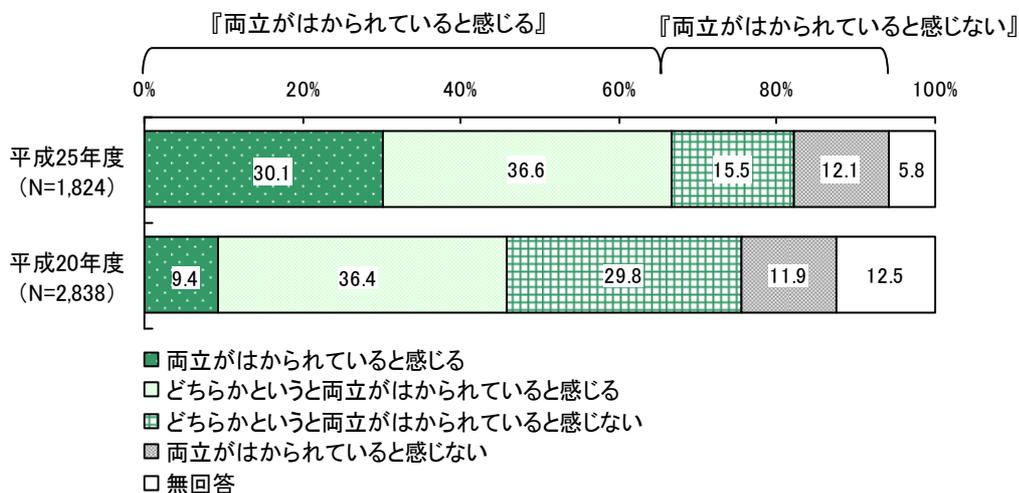
* 今回調査では、設問に「家庭では」という表現を追加している。

〔図 仕事と生活の両立がはかられているか〕

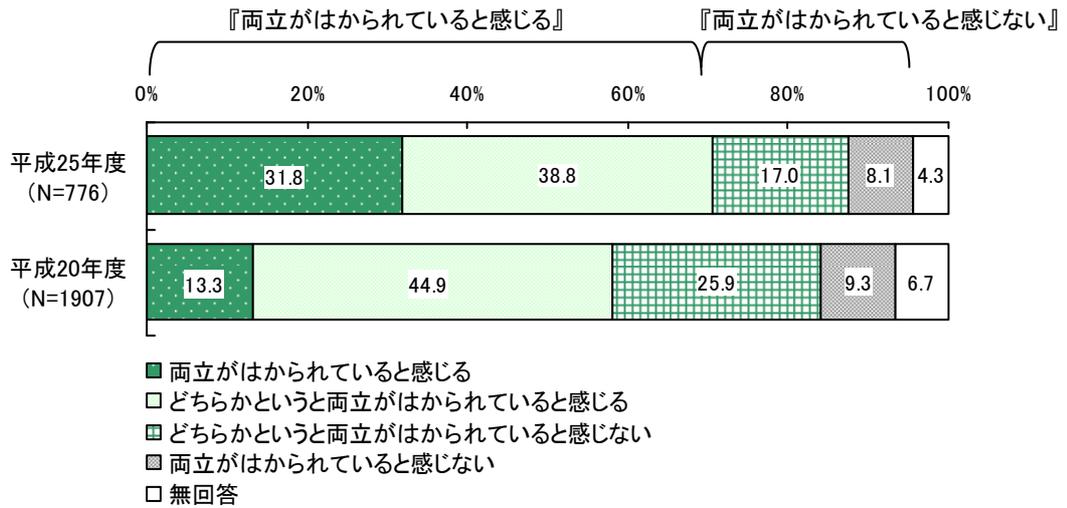


〔図 仕事と生活の両立がはかられているか/前回調査との比較〕

(就学前児童)

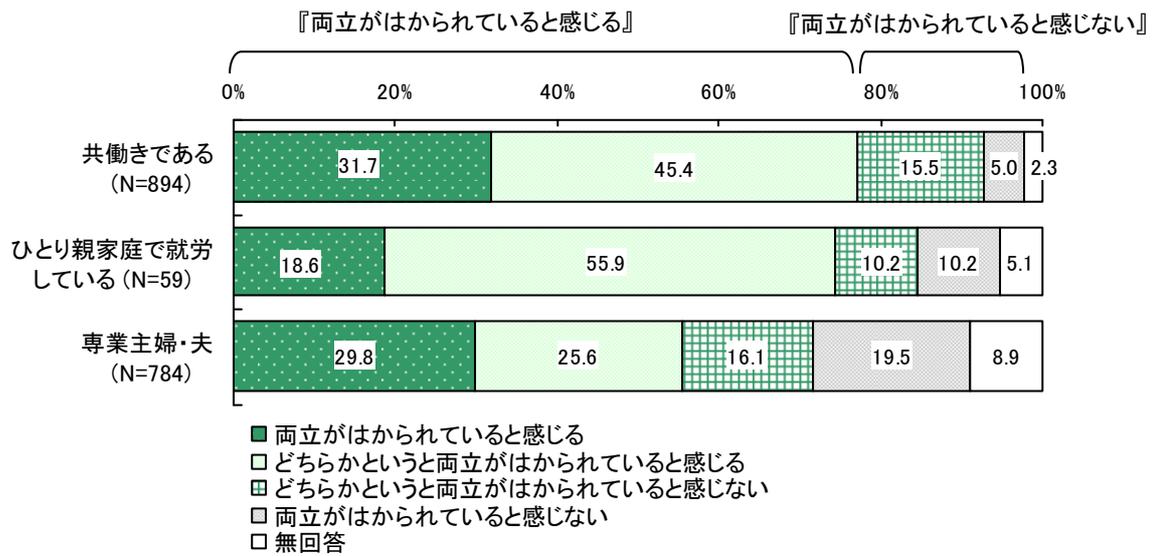


(小学生)



〔図 仕事と生活の両立がはかられているか/就労状況別〕

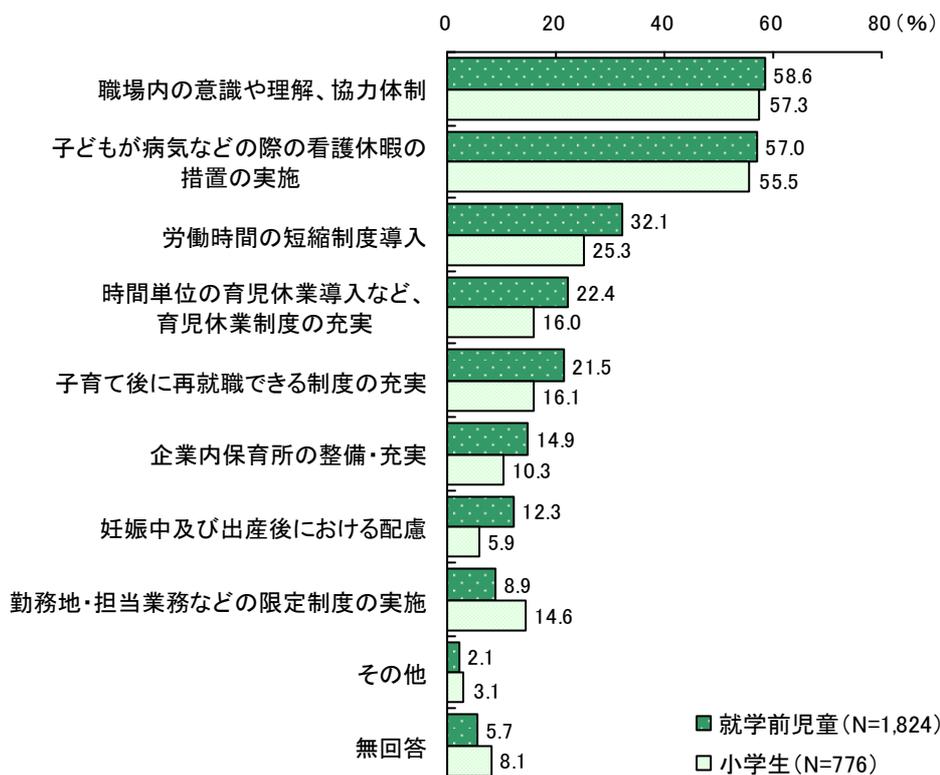
(就学前児童)



(2) 仕事と子育ての両立のために職場に求めること

仕事と子育ての両立のために職場に求めることとして、「職場内の意識や理解、協力体制」との回答割合が就学前児童で58.6%、小学生で57.3%、「子どもが病気などの際に看護休暇の措置の実施」との回答割合が就学前児童で57.0%、小学生で55.5%と上位となっている。

〔図 仕事と子育ての両立のために職場に求めること〕



(3) 育児休業の取得状況

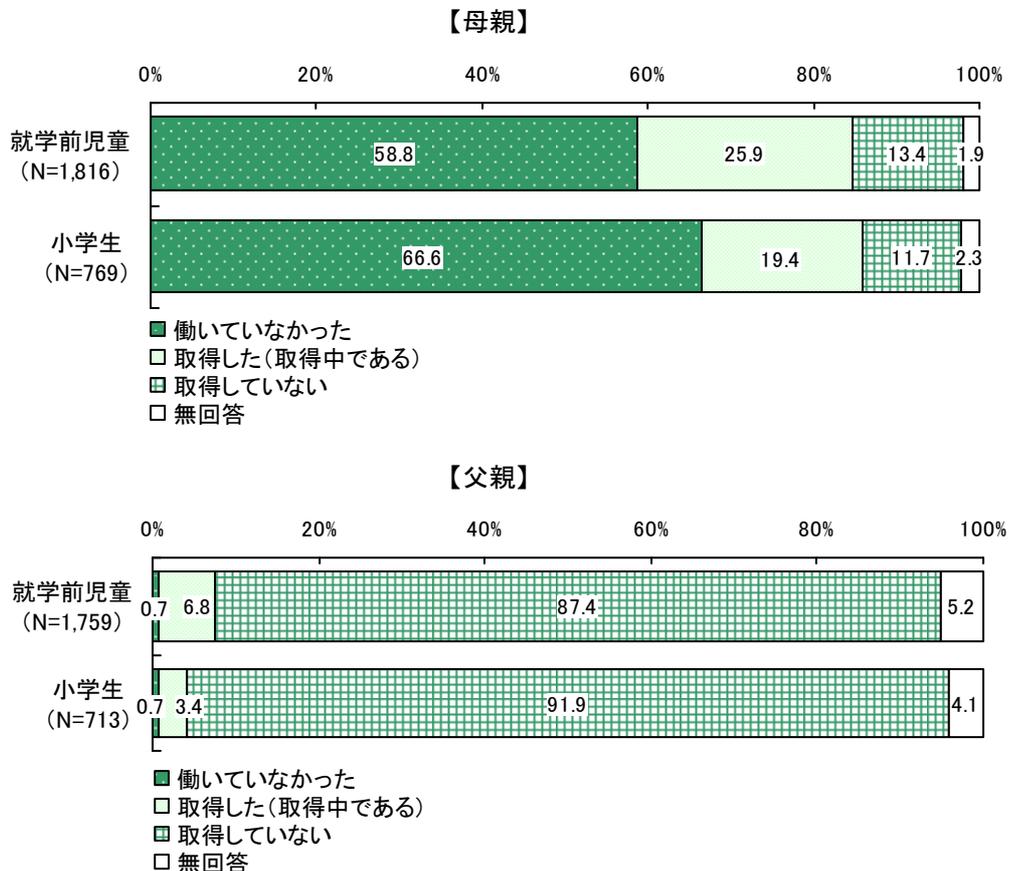
母親の育児休業の取得状況について、「取得した（取得中である）」との回答割合は、就学前児童では25.9%、小学生では19.2%となっており、育児休業の取得期間は「1年以内」（就学前児童49.0%、小学生46.3%）が最も高くなっている。

父親の育児休業の取得状況について、「取得した（取得中である）」との回答割合は、就学前児童では6.5%、小学生では3.5%となっており、育児休業の取得期間は「7日以内」（就学前児童79.8%、小学生87.5%）が最も高くなっている。

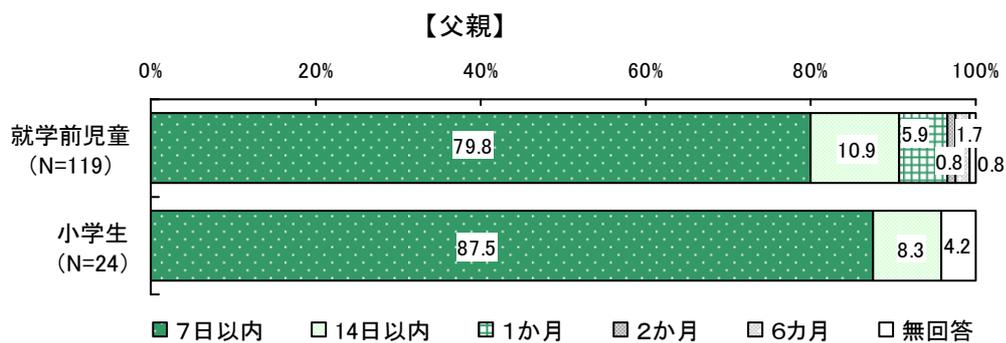
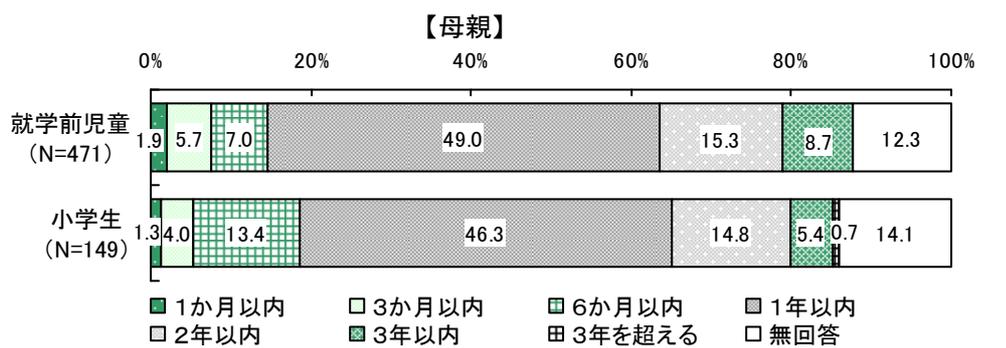
また、母親の育児休業を取得していない理由について、「子育てや家事に専念するため退職した」（就学前児童42.6%、小学生45.1%）との回答割合が最も高く、次いで「職場に育児休業の制度がなかった（就業規則に定めがなかった）」（就学前児童22.1%、小学生18.7%）、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」（就学前児童16.0%、小学生15.4%）となっている。

父親の育児休業を取得していない理由について、「配偶者が無職など、制度を利用する必要がなかった」（就学前児童41.6%、小学生46.1%）、「仕事が忙しかった」（就学前児童41.0%、小学生37.0%）、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」（就学前児童31.5%、小学生28.3%）との回答割合が高くなっている。

〔図 育児休業の取得状況〕



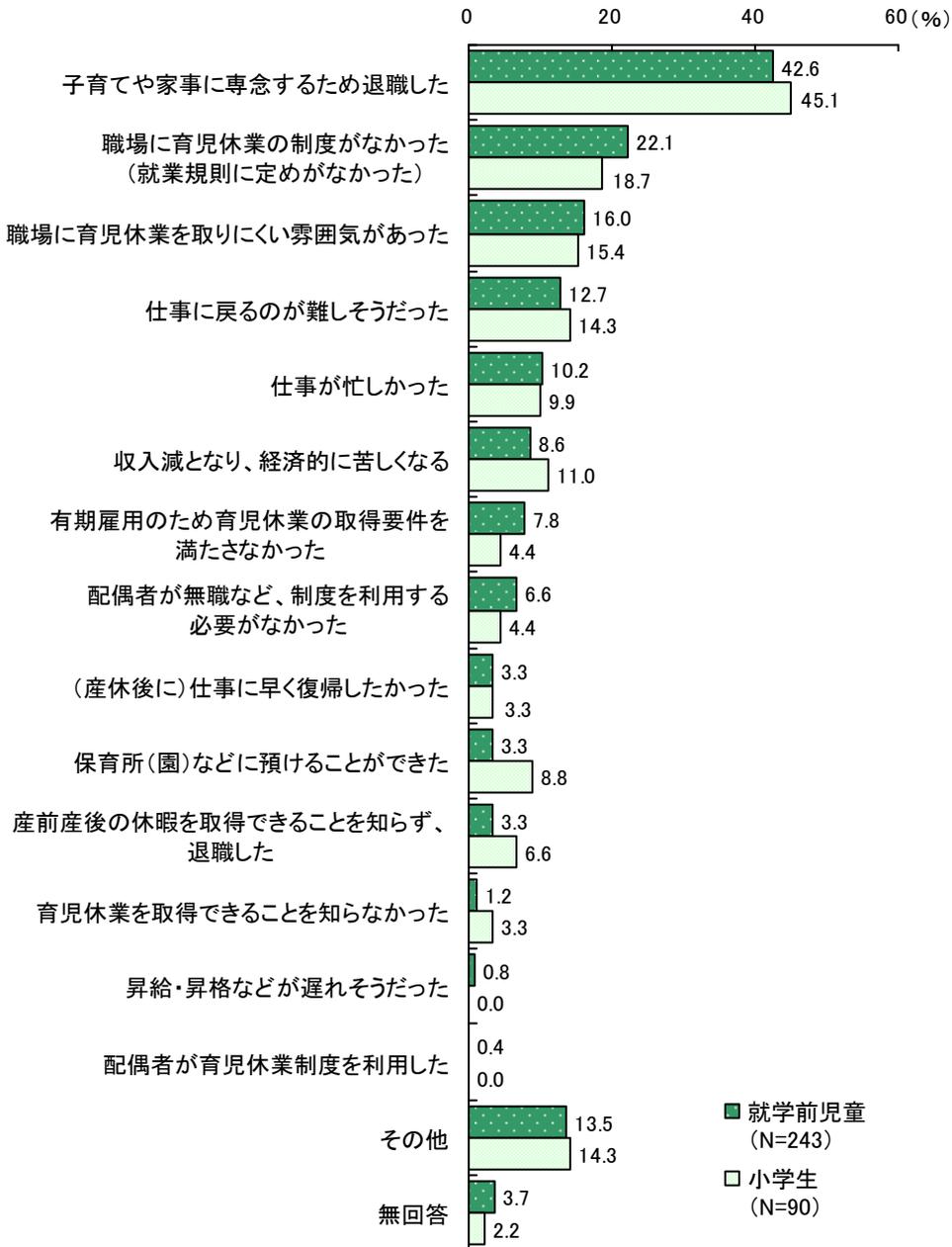
〔図 育児休業の取得期間〕
 (育児休業を取得した保護者)



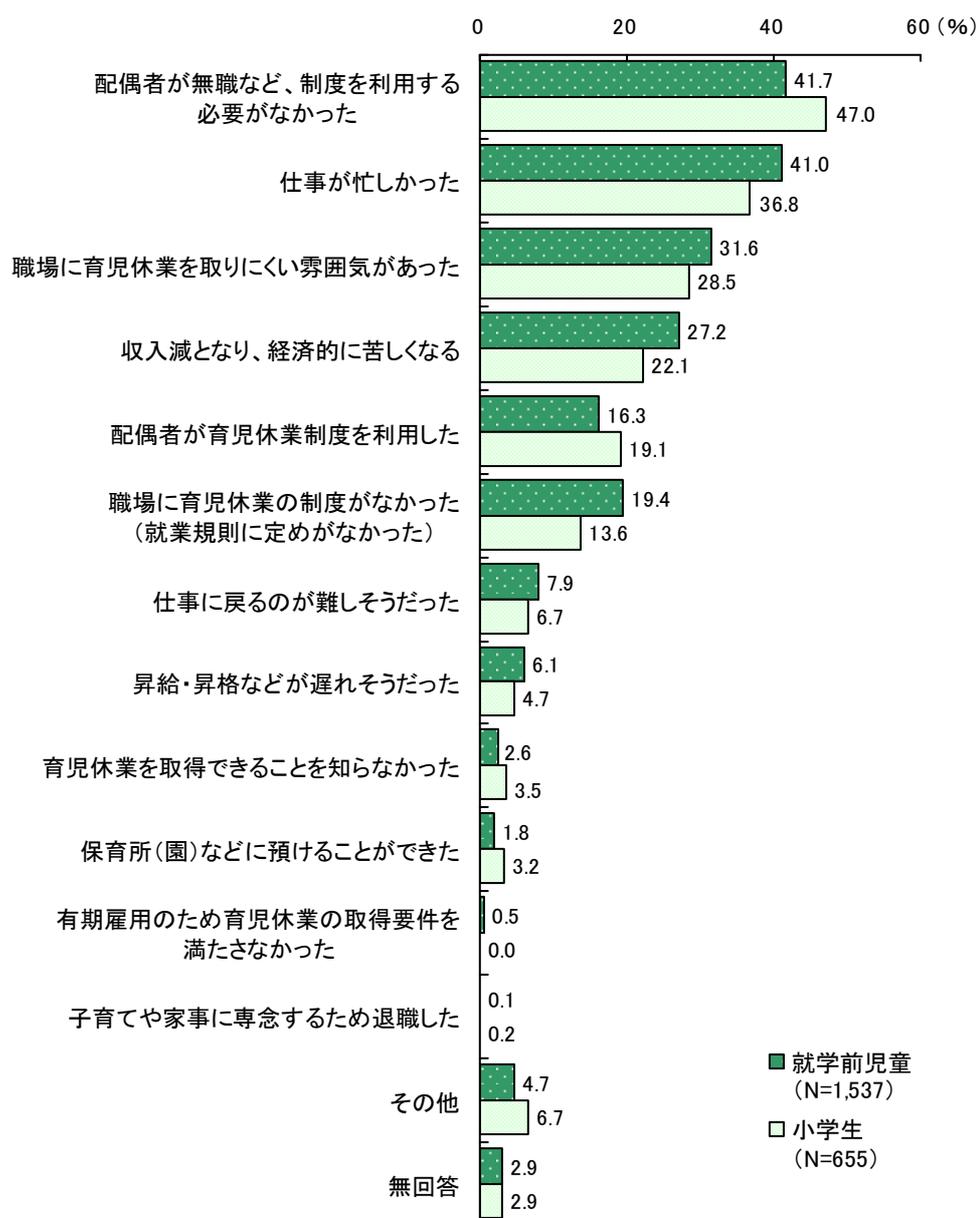
〔図 育児休業を取得していない理由〕

（育児休業を取得していない保護者）

【母親】



【父親】



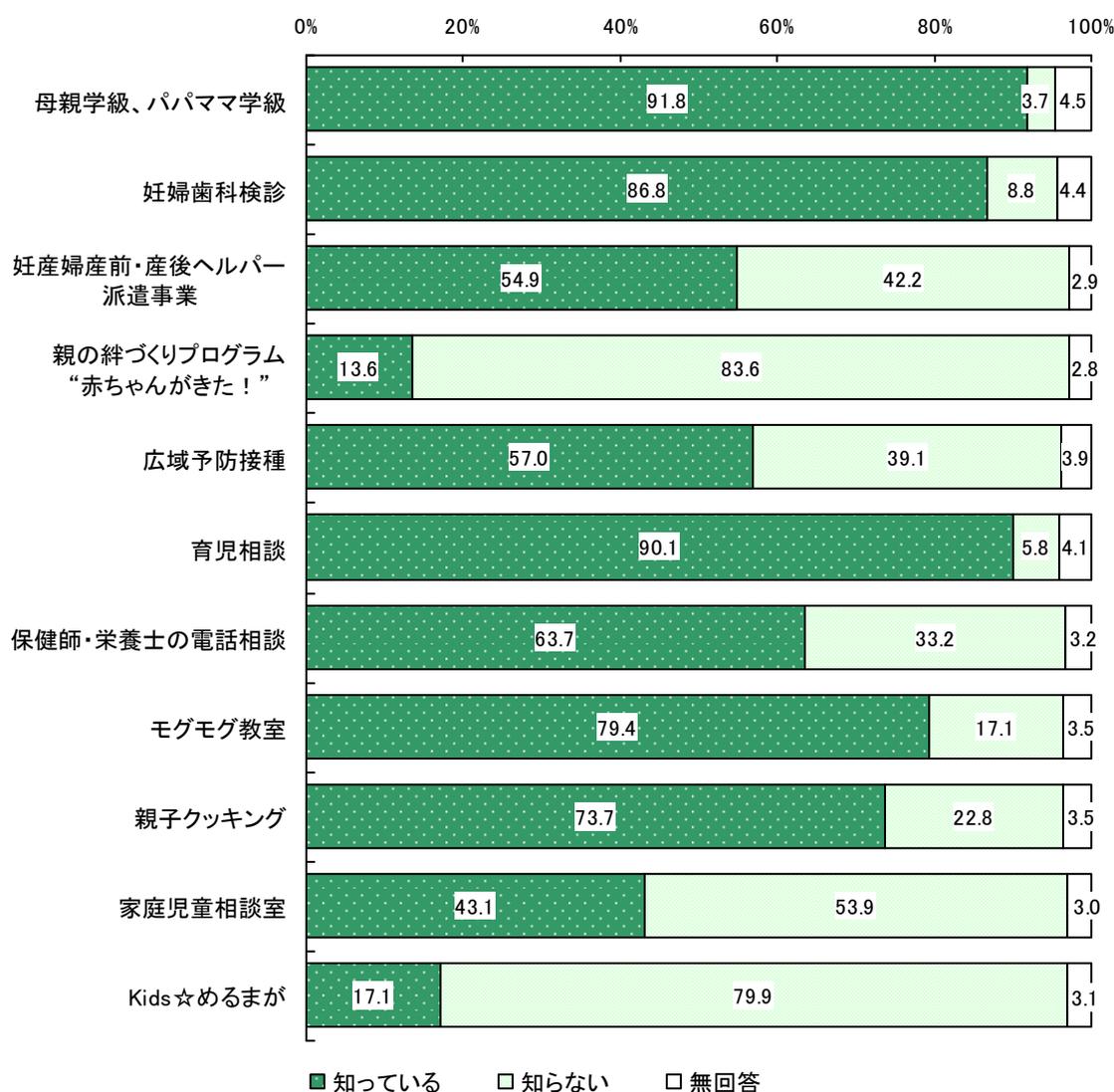
1.1 地域の子育て支援サービスの認知度・利用状況

(1) 地域の子育て支援サービスの認知度

「知っている」との回答割合が高い事業やサービスは、「母親学級、パパママ学級」(91.8%)、「育児相談」(90.1%)、「妊婦歯科検診」(86.8%)、「モグモグ教室」(79.4%)、「親子クッキング」(73.7%)となっている。

一方、「知らない」との回答割合が高い事業やサービスは、「親の絆づくりプログラム“赤ちゃんがきた!”」(83.6%)、「Kids☆めるまが」(79.9%)、「家庭児童相談室」(53.9%)となっている。

[図 子育て支援サービスの認知度]

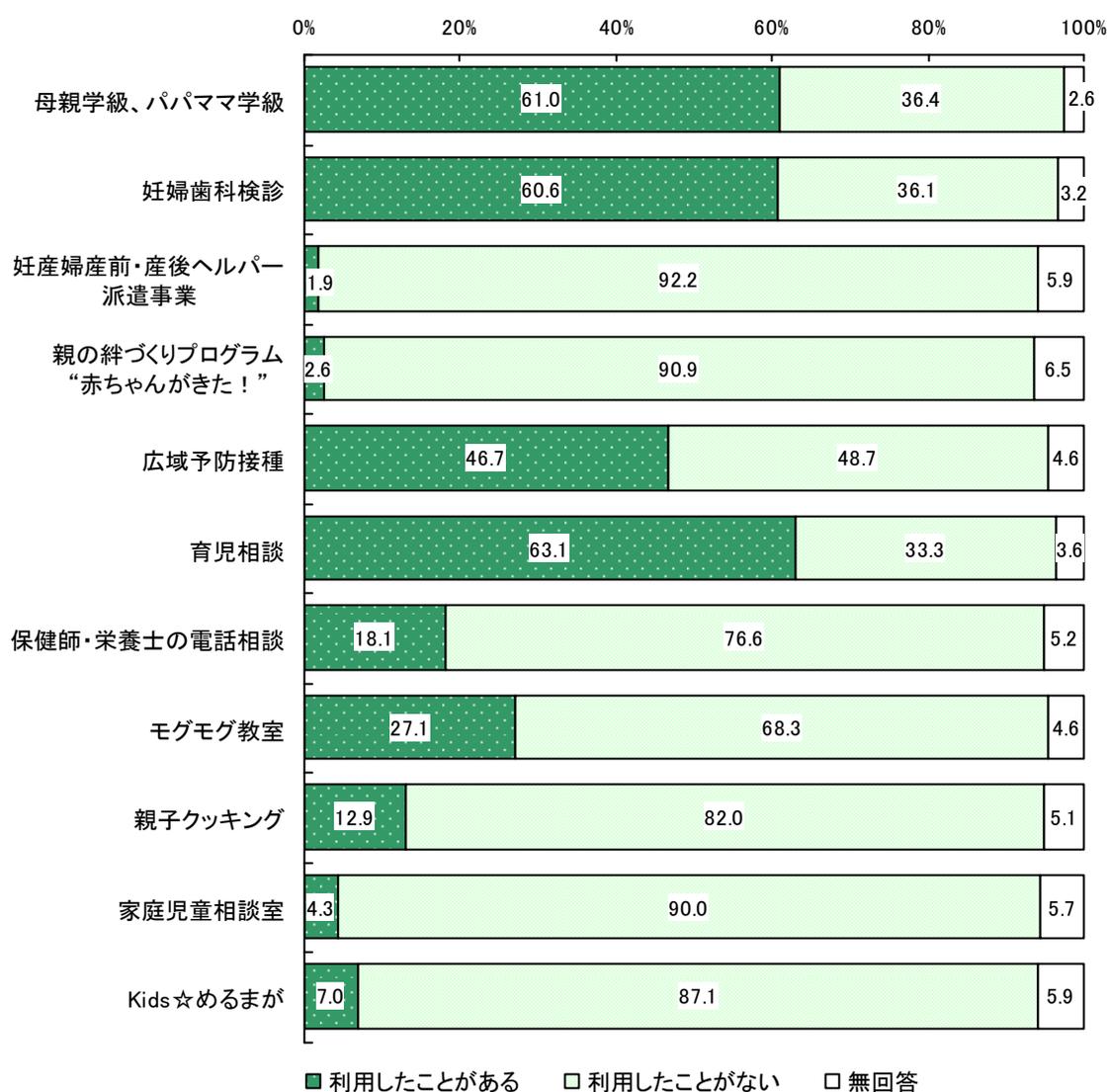


(2) 地域の子育て支援サービスの利用状況

「利用したことがある」との回答割合が高い事業やサービスは、「育児相談」(63.1%)、「母親学級、パパママ学級」(61.0%)、「妊婦歯科検診」(60.6%)となっている。

一方、「利用したことがない」との回答割合が高い事業やサービスは、「妊産婦産前・産後ヘルパー派遣事業」(92.2%)、「親の絆づくりプログラム“赤ちゃんがきた!”」(90.9%)、「家庭児童相談室」(90.0%)となっている。

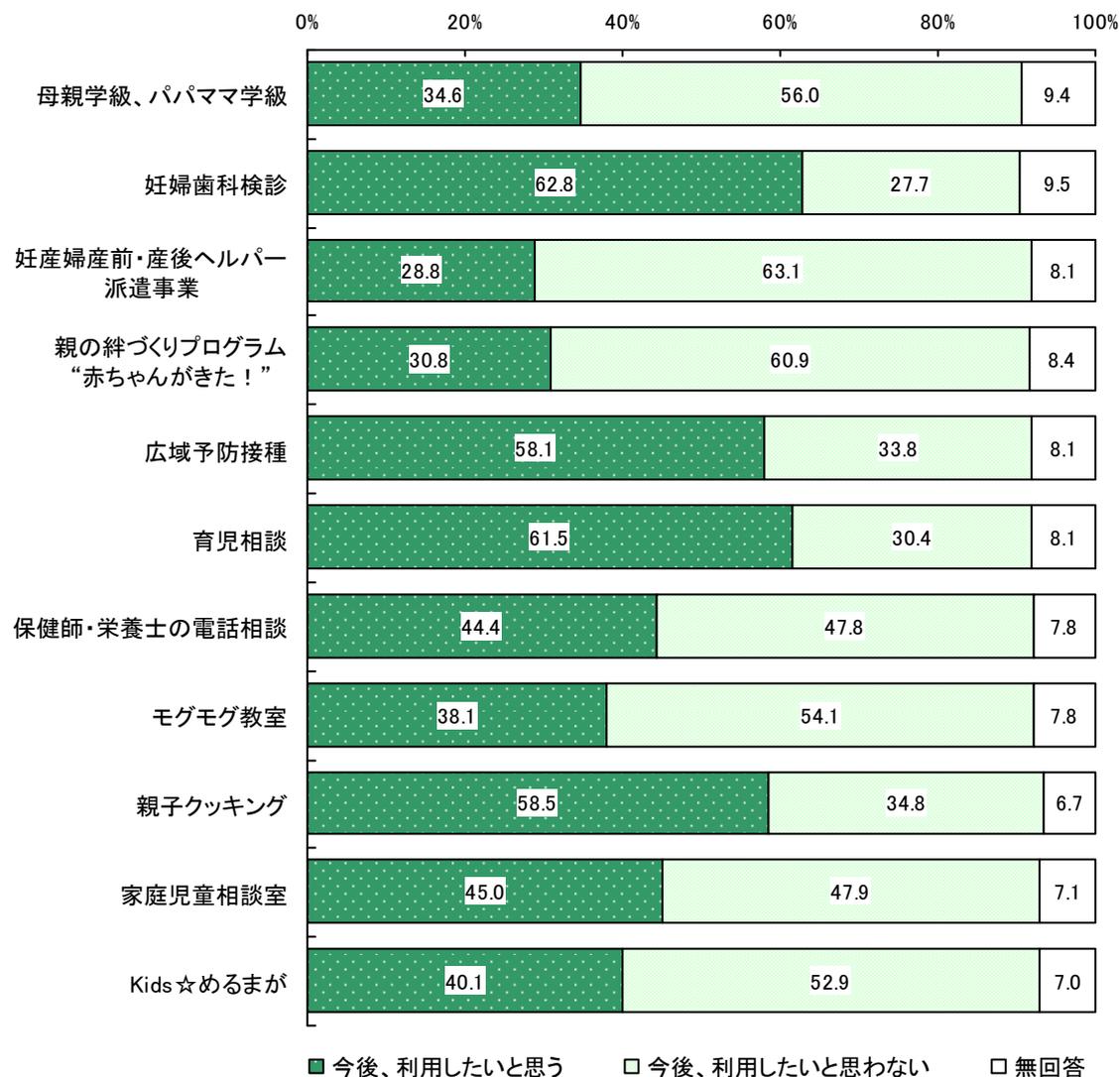
〔図 子育て支援サービスの利用状況〕



(3) 地域の子育て支援サービスの利用意向

「今後、利用したいと思う」との回答割合が高い事業やサービスは、「妊婦歯科検診」(62.8%)、「育児相談」(61.5%)、「親子クッキング」(58.5%)、「広域予防接種」(58.1%) となっている。

〔図 子育て支援サービスの利用意向〕



12 子育て全般

(1) 理想と現実の子どもの人数

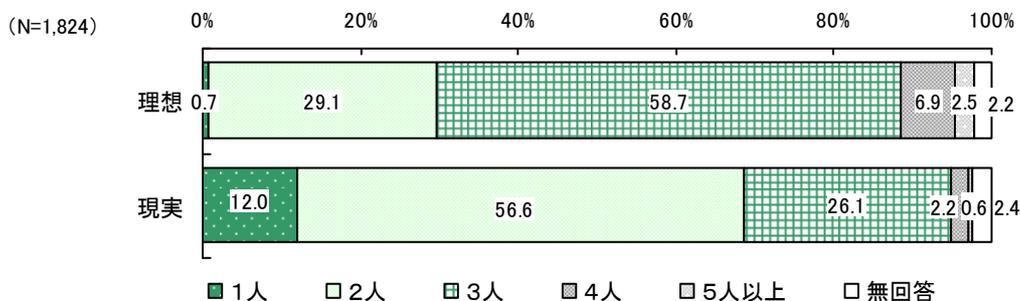
理想の子どもの人数と現実の子どもの人数について、理想では「3人」が最も高く、就学前児童で 58.7%、小学生で 50.0%となっているが、現実では「2人」が最も高く、就学前児童で 56.6%、小学生で 61.1%となっている。

現実の子どもの人数が理想の人数よりも少ない理由は、「経済的な負担が大きいから」との回答割合が最も高く、就学前児童で 70.7%、小学生で 67.7%となっている。

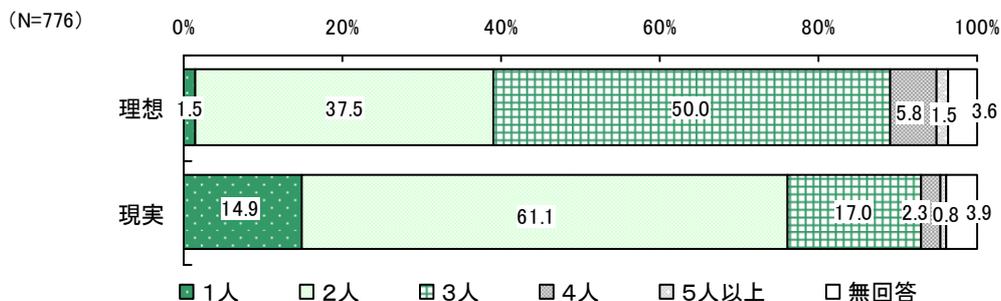
また、「仕事と子育ての両立が難しいから」との回答割合は第4位であり、就学前児童で 23.8%、小学生で 24.2%となっている。

〔図 理想と現実の子どもの人数〕

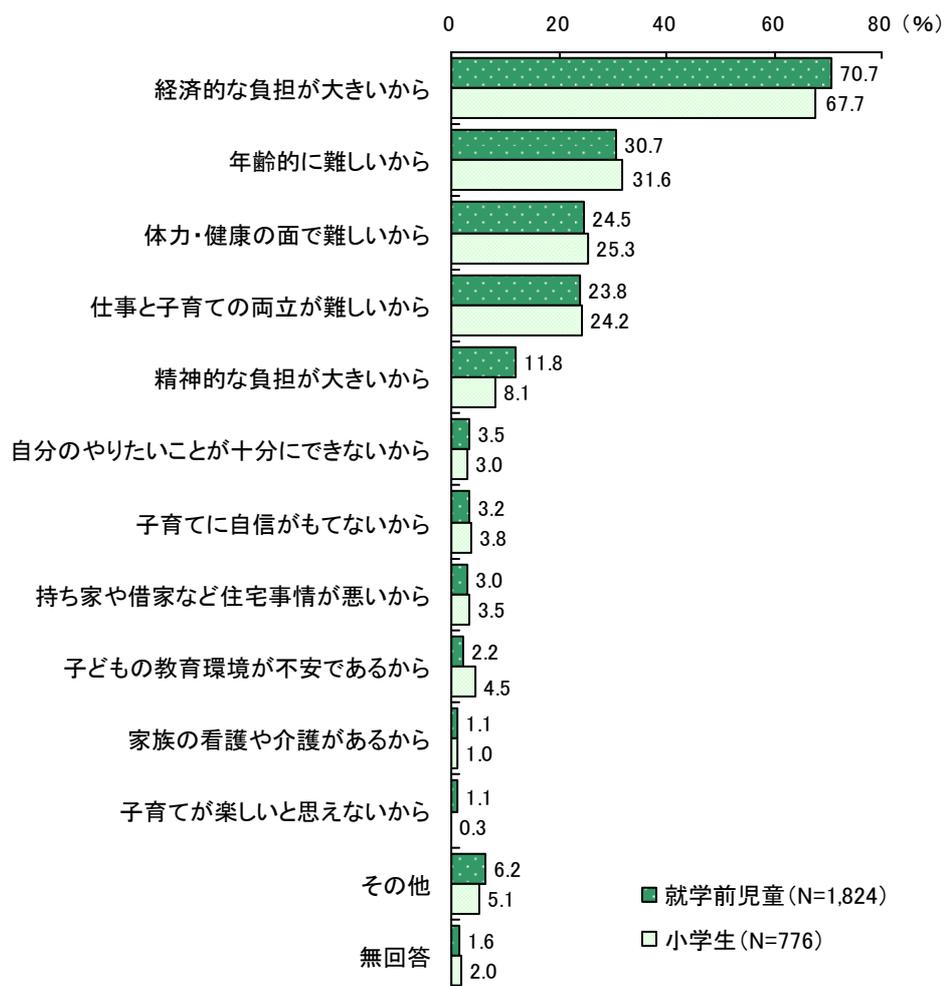
(就学前児童)



(小学生)



〔図 現実の子どもの人数が理想の人数よりも少ない理由〕



(2) 子育てのしやすさの評価

東広島市は子育てがしやすいまちだと、『思う』（「子育てがしやすいまちだと思う」+「どちらかということ子育てがしやすいまちだと思う」）割合は就学前児童で73.3%、小学生で68.2%となっている。

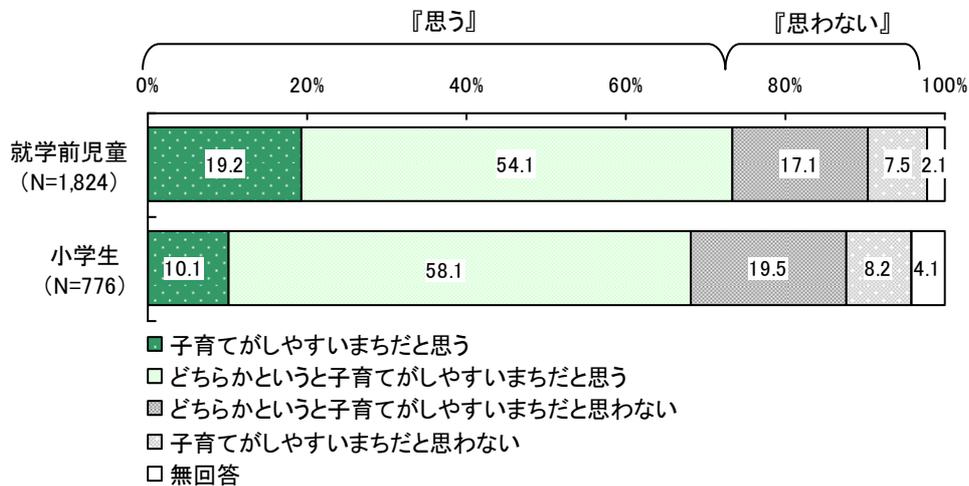
前回調査と比較すると、『思う』割合は、就学前児童で8.5ポイント、小学生で2.9ポイント上昇している。

年齢区分別にみると、大きな差はみられない。

地域や社会の支えの感じ方別にみると、支えを感じている家庭で、相談窓口の満足度別にみると、利用しやすいと思う家庭で『思う』割合が高くなっている。

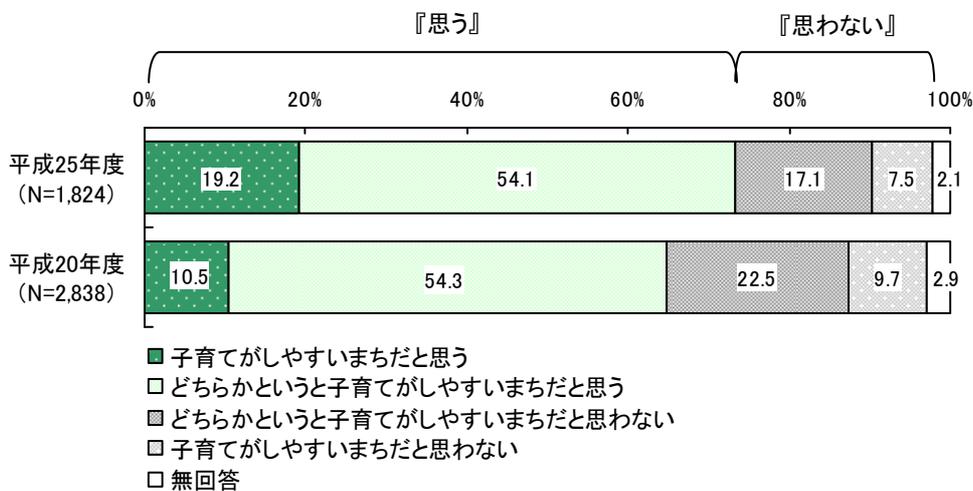
地区別にみると、『思う』割合は、福富地区、安芸津地区、黒瀬地区、河内地区で低くなっている。

〔図 東広島市は子育てがしやすいまちだと思うか〕

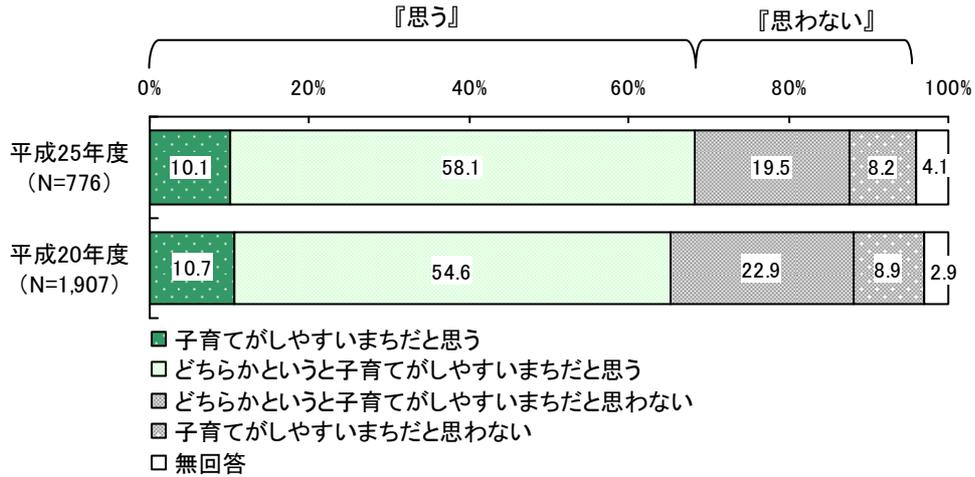


〔図 東広島市は子育てがしやすいまちだと思うか/前回調査との比較〕

(就学前児童)

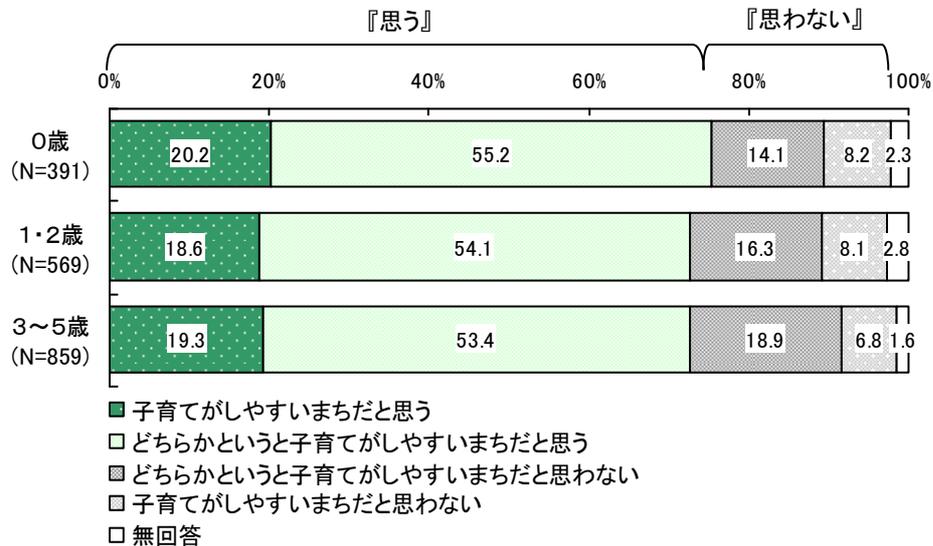


(小学生)



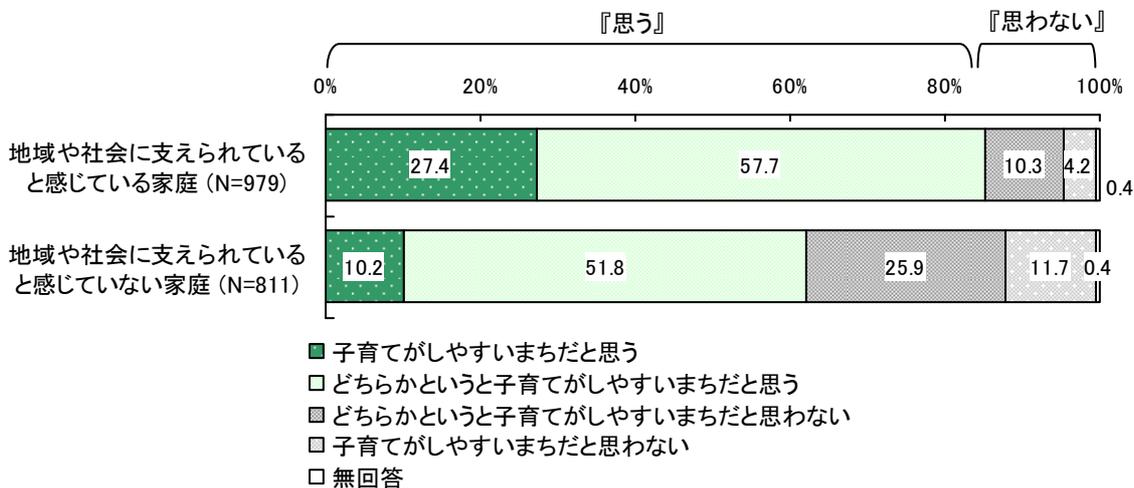
〔図 東広島市は子育てがしやすいまちだと思ふか/年齢区分別〕

(就学前児童)

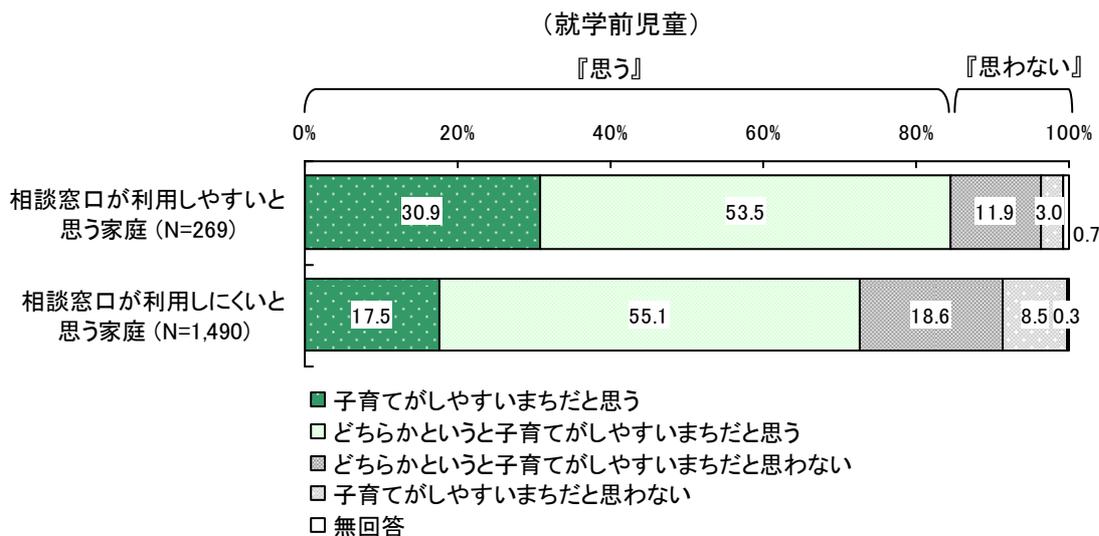


〔図 東広島市は子育てがしやすいまちだと思ふか/地域や社会の支えの感じ方別〕

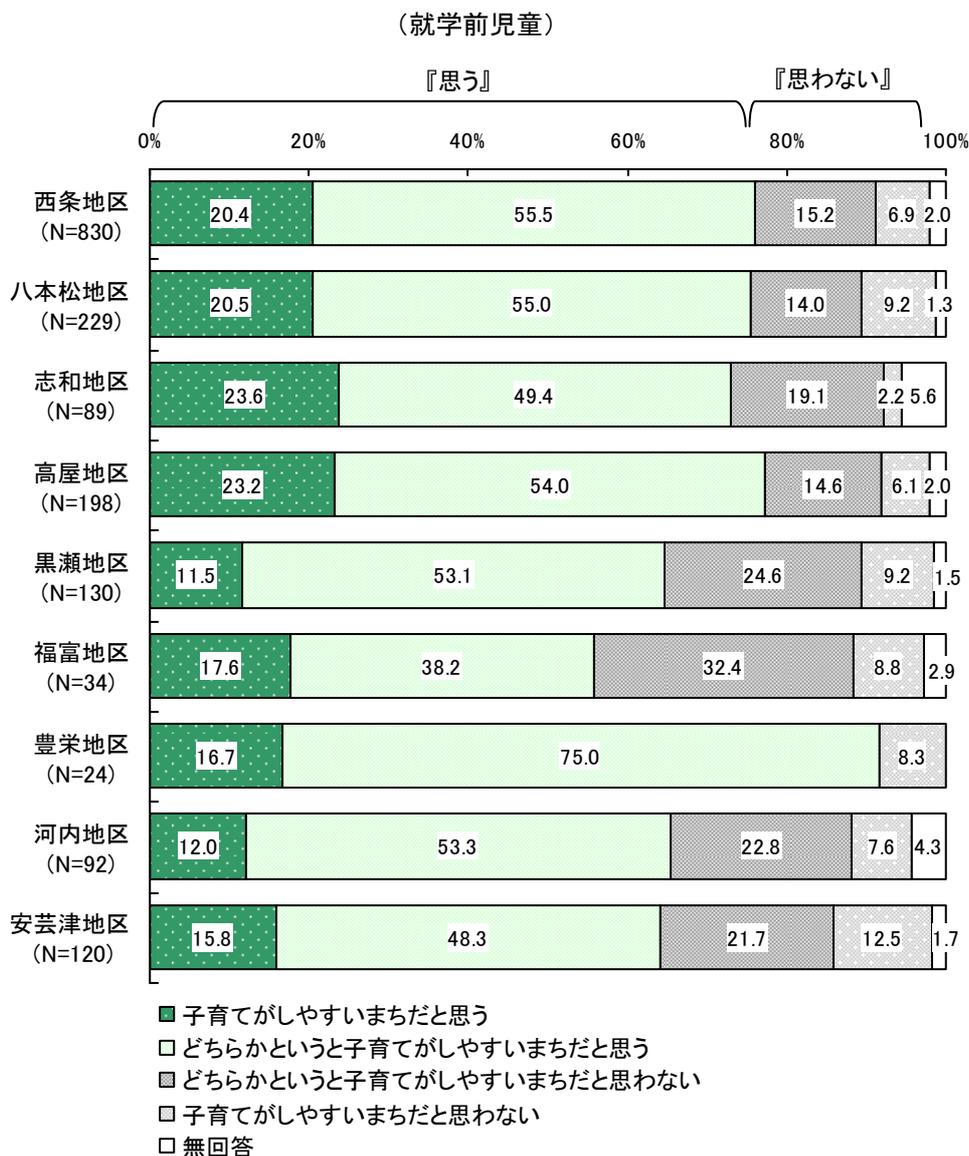
(就学前児童)



〔図 東広島市は子育てがしやすいまちだと思うか/相談窓口の満足度別〕

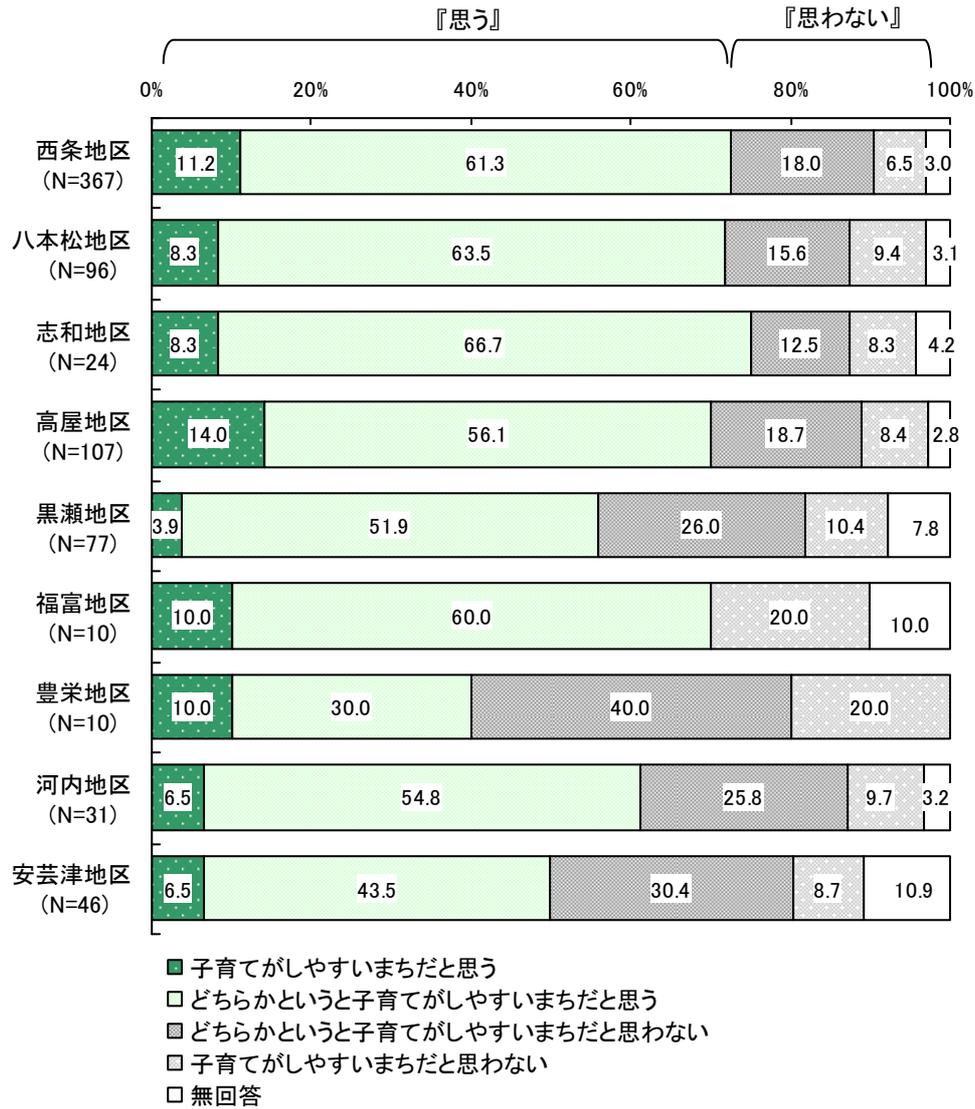


〔図 東広島市は子育てがしやすいまちだと思うか/地区別〕



〔図 東広島市は子育てがしやすいまちだと思うか/地区別〕

(小学生)



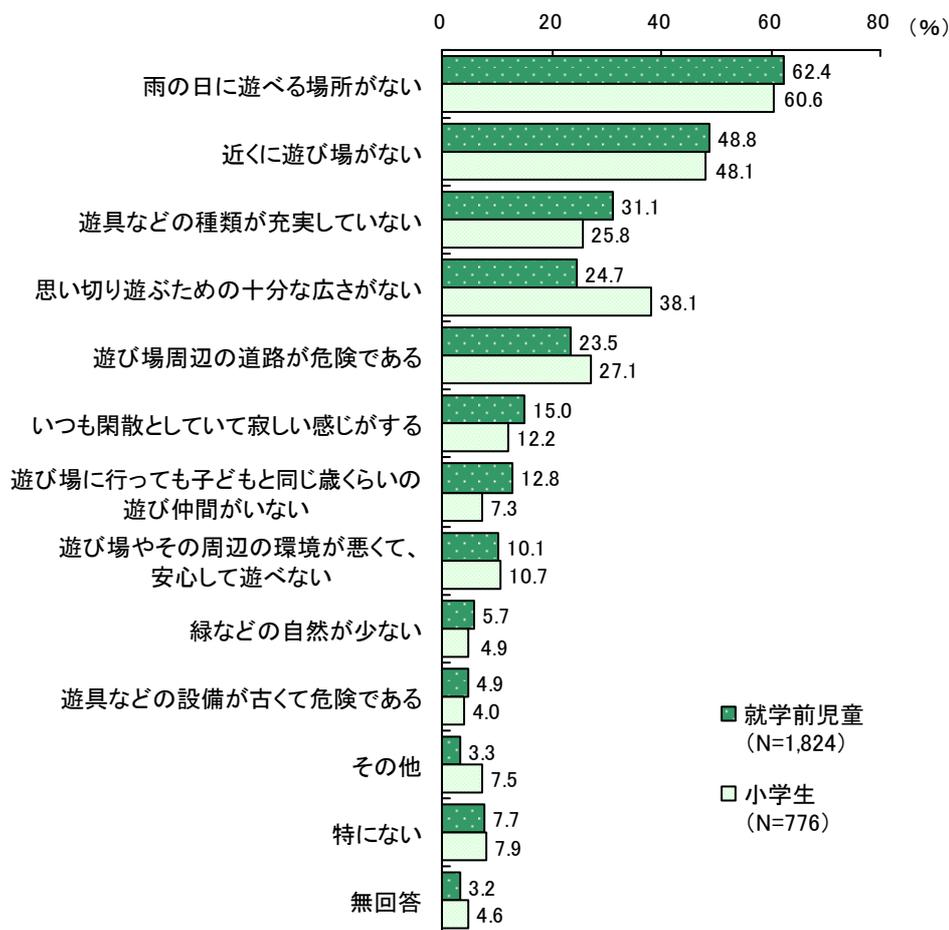
(3) 子どもの遊び場について感じる事

地域の遊び場について感じる事として、「雨の日に遊べる場所がない」(就学前児童 62.4%、小学生 60.6%) との回答割合が最も高く、次いで「近くに遊び場がない」(就学前児童 48.8%、小学生 48.1%) となっている。

また、小学生では「思い切り遊ぶための十分な広さがない」(38.1%) との回答割合も高くなっている。

地区別にみると、「雨の日に遊べる場所がない」との回答割合は八本松地区で、「近くに遊び場がない」との回答割合は志和地区で高くなっている。

〔図 地域の遊び場について感じる事〕



〔図 地域の遊び場について感じる事/地区別～上位5項目～〕

(就学前児童)

(%)

	回答数 (人)	雨の日に遊べる場所がない	近くに遊び場がない	遊具などの種類が充実していない	思い切り遊ぶための十分な広さがない	遊び場周辺の道路が危険である
西条地区	830	64.0	45.8	26.7	27.6	29.2
八本松地区	229	71.6	45.4	28.8	31.9	27.5
志和地区	89	58.4	84.3	34.8	12.4	9.0
高屋地区	198	58.6	26.3	30.3	19.7	14.6
黒瀬地区	130	62.3	65.4	38.5	20.8	26.2
福富地区	34	38.2	20.6	2.9	2.9	14.7
豊栄地区	24	54.2	54.2	29.2	-	-
河内地区	92	63.0	45.7	42.4	8.7	12.0
安芸津地区	120	48.3	77.5	56.7	39.2	14.2

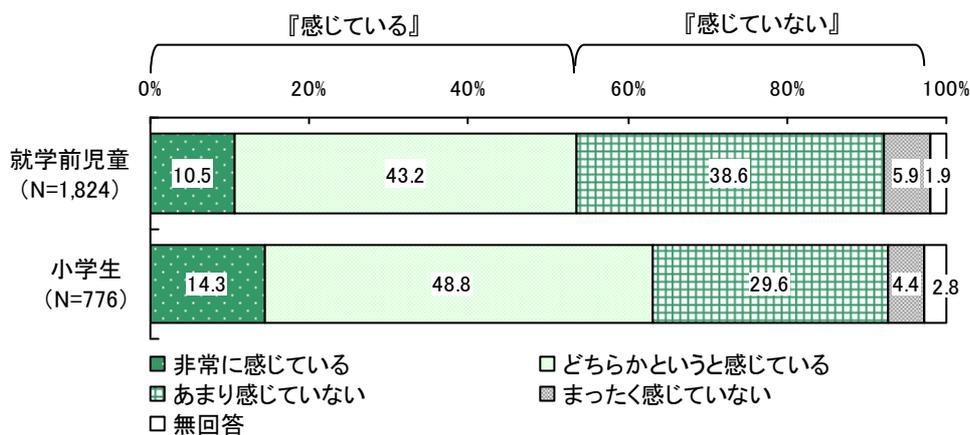
(4) 地域の支えへの評価

自分自身の子育てが地域の人々や社会全体に支えられていると『感じている』（「非常に感じている」+「どちらかというと感じている」）割合は就学前児童で 53.7%、小学生で 63.1%となっている。

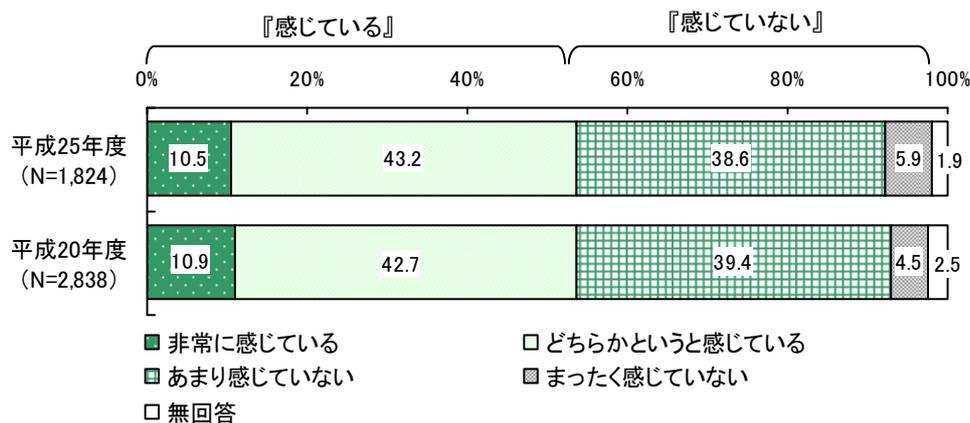
前回調査と比較すると、『感じている』割合は、就学前児童で 0.1 ポイント上昇、小学生で 2.3 ポイント低下している。

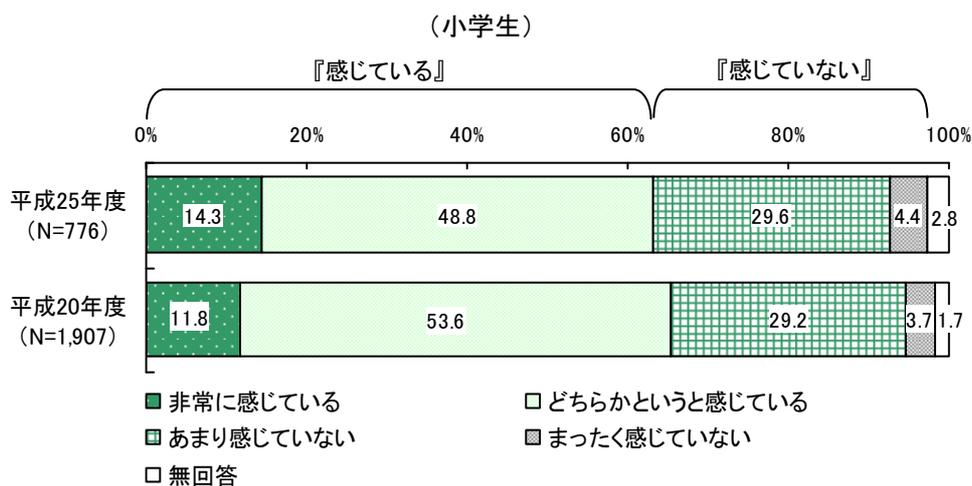
地区別にみると、『感じている』割合は、黒瀬地区で低くなっている。

〔図 子育てが地域の人々や社会全体に支えられていると感じるか〕

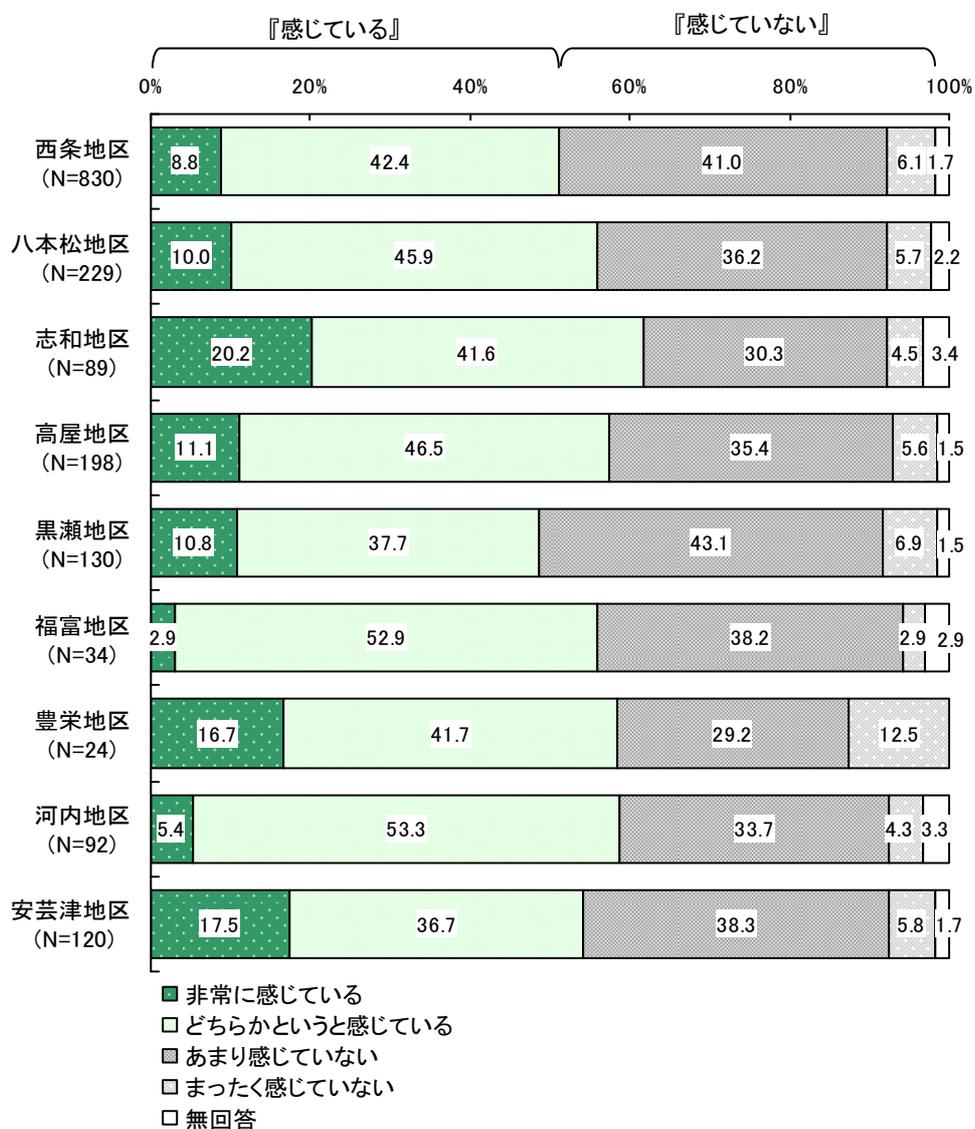


〔図 子育てが地域の人々や社会全体に支えられていると感じるか/前回調査との比較〕
(就学前児童)



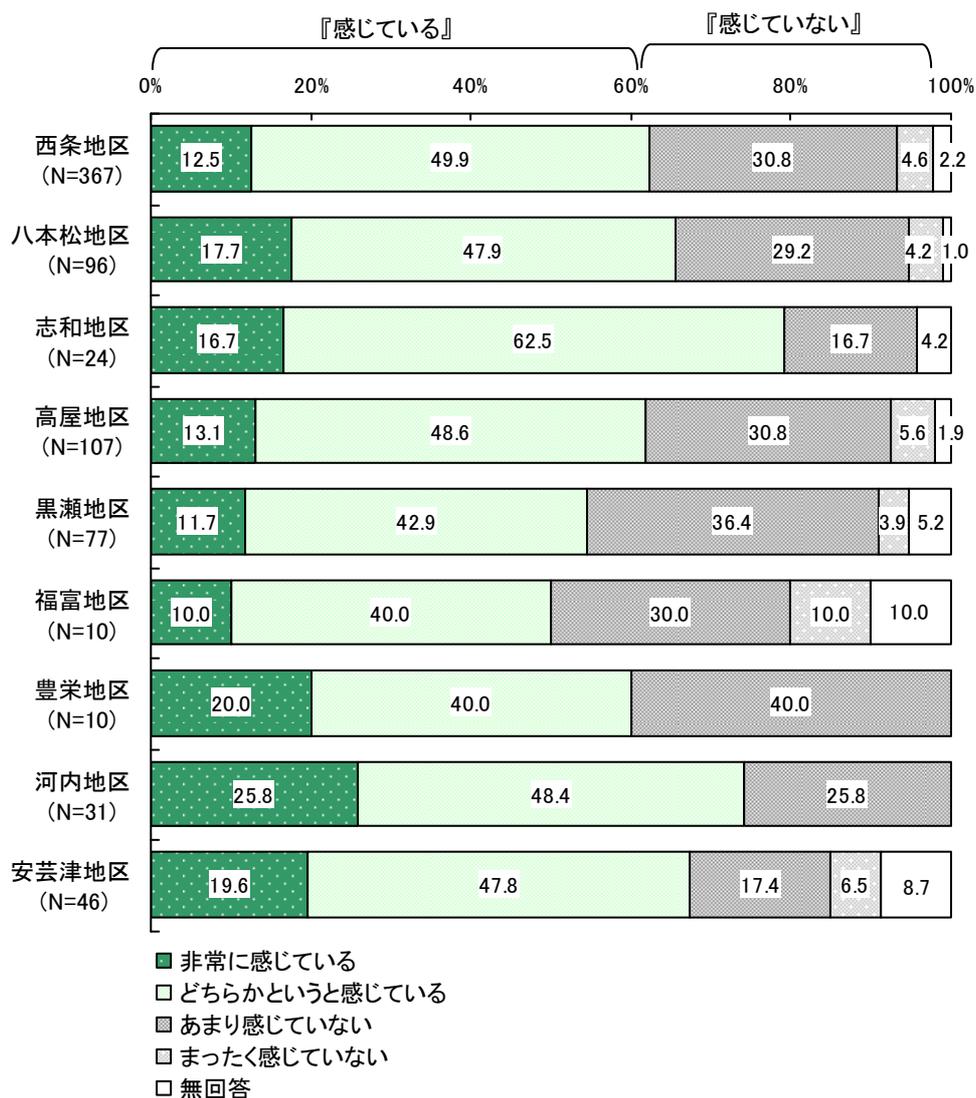


〔図 子育てが地域の人々や社会全体に支えられていると感じるか/地区別〕
(就学前児童)



〔図 子育てが地域の人々や社会全体に支えられていると感じるか/地区別〕

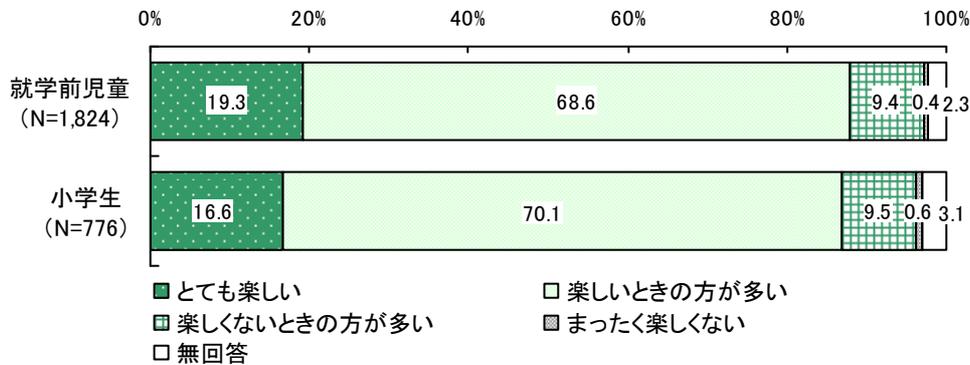
(小学生)



(5) 子育ての楽しさの感じ方

子育ての楽しさの感じ方について、「とても楽しい」との回答割合は就学前児童で 19.3%、小学生で 16.6%となっている。

〔図 子育ての楽しさの感じ方〕



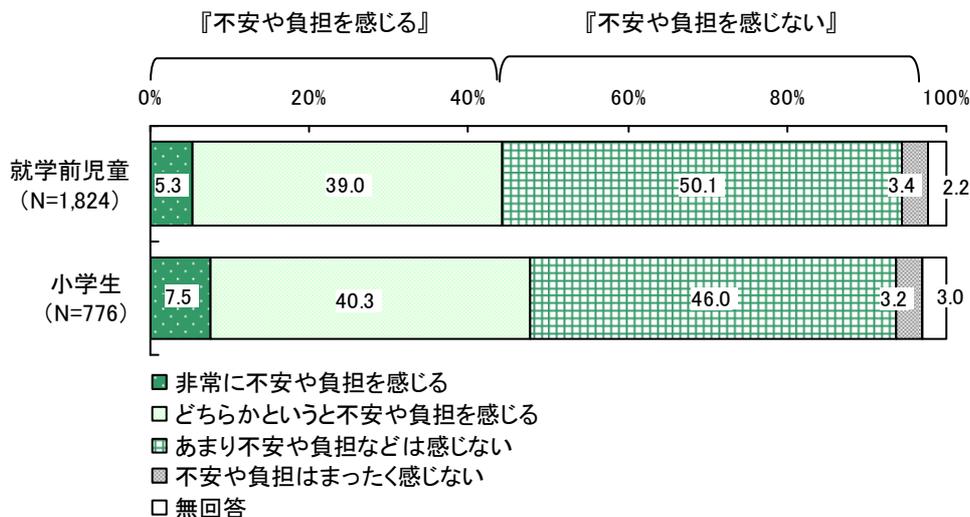
(6) 子育てに関する不安・負担感

子育てに『不安や負担を感じる』（「非常に不安や負担を感じる」+「どちらかという不安や負担を感じる」）割合は、就学前児童で 44.3%、小学生で 47.8%となっている。

前回調査と比較すると、『不安や負担を感じる』割合は、就学前児童で 2.2 ポイント上昇し、小学生で 0.5 ポイント上昇している。

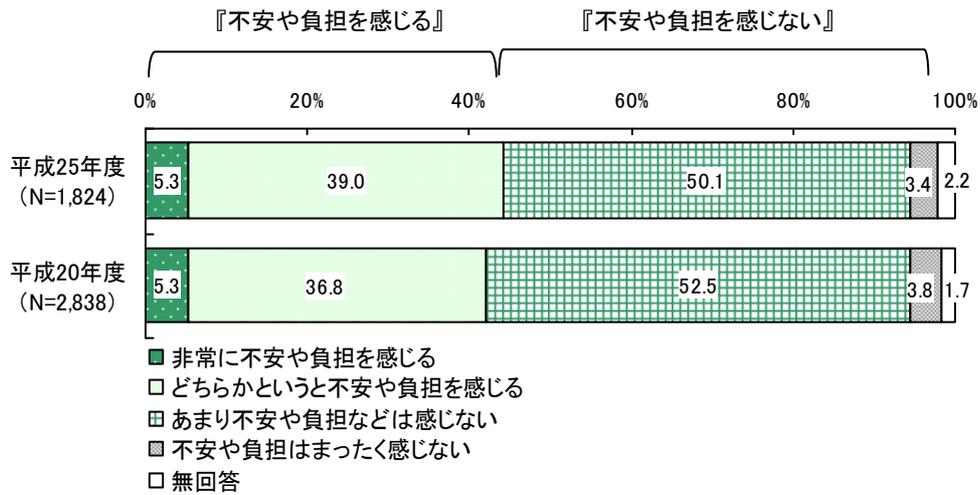
地域や社会の支えの感じ方別では、支えられていると感じていない家庭で、相談窓口の満足度別では利用しやすいと思わない家庭で、情報提供への満足度別では入手できていないと思う家庭で『不安や負担を感じる』割合が高くなっている。

〔図 子育てに関する不安・負担感の有無〕

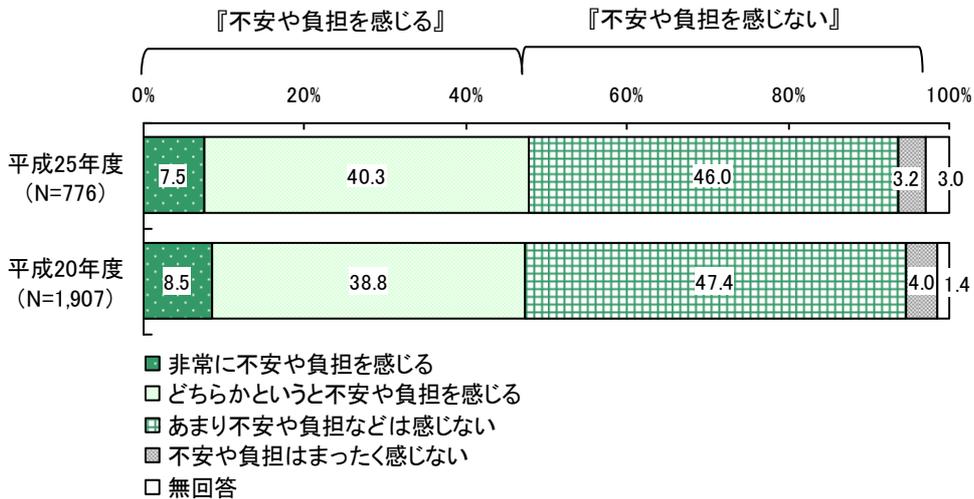


〔図 子育てに関する不安・負担感の有無/前回調査との比較〕

(就学前児童)

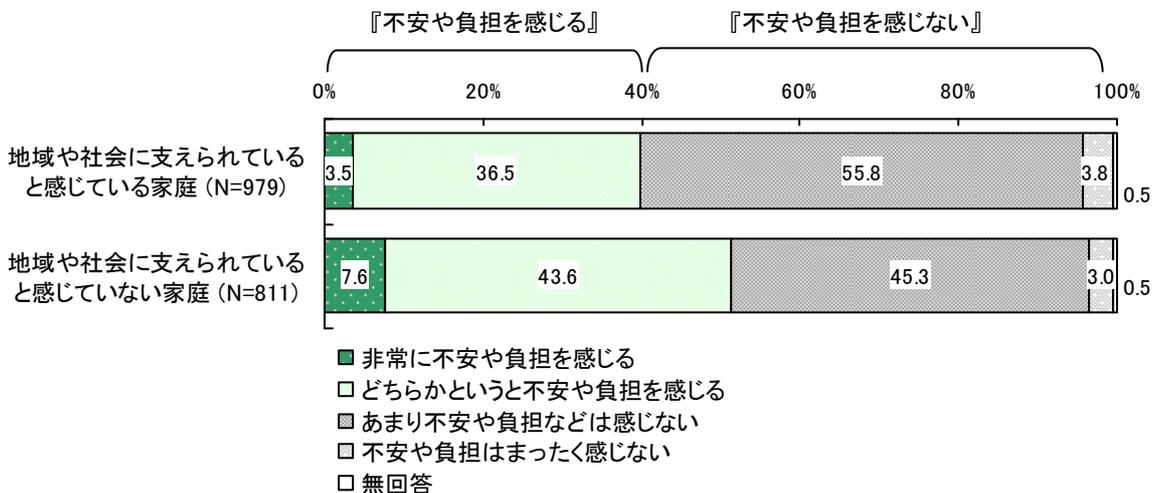


(小学生)



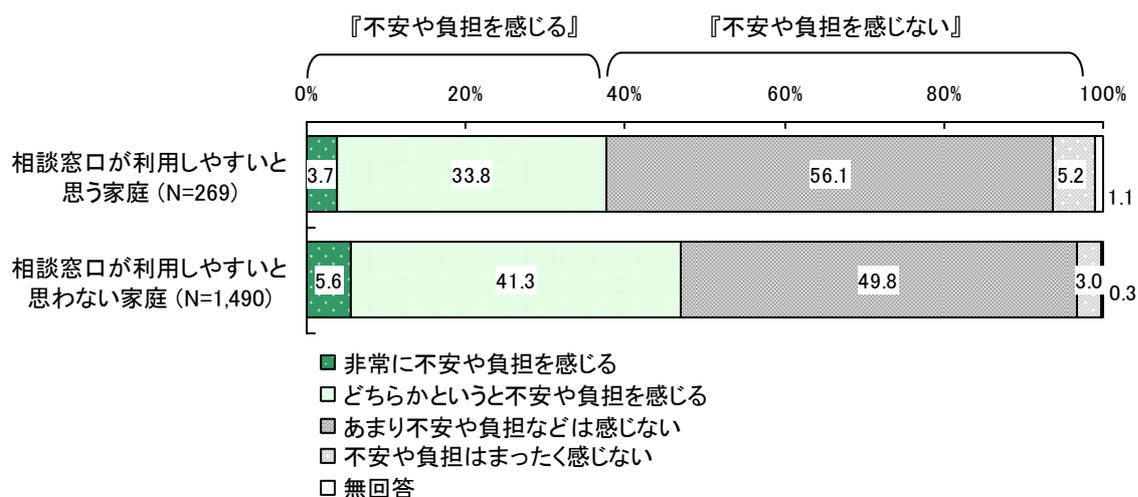
〔図 子育てに関する不安・負担感の有無/地域や社会の支えの感じ方別〕

(就学前児童)



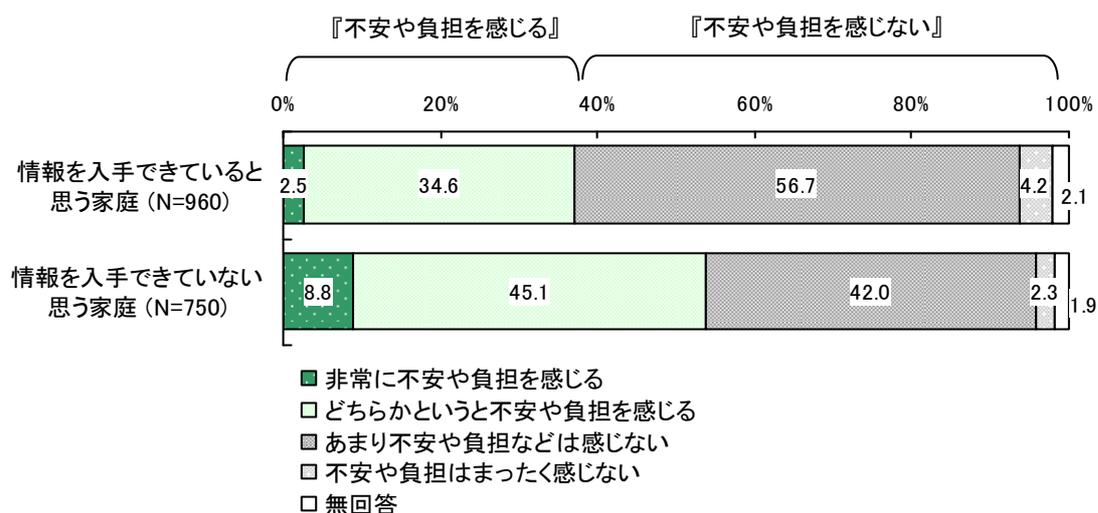
〔図 子育てに関する不安・負担感の有無/相談窓口の満足度別〕

(就学前児童)



〔図 子育てに関する不安・負担感の有無/情報提供への満足度別〕

(就学前児童)



(7) 子育てに関する相談相手

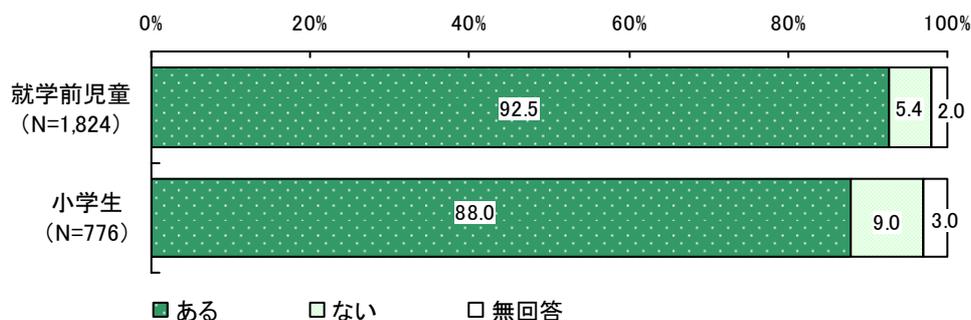
子育てをする上で気軽に相談できる相手（人・場所）について、「ある」との回答割合は就学前児童で92.5%、小学生で88.0%、「ない」との回答割合は就学前児童で5.4%、小学生で9.0%となっている。

両親の状況別にみると、母子家庭、父子家庭で「ない」との回答割合が15%前後となっている。

相談する人や場所として、「配偶者・パートナー」（就学前児童82.9%、小学生76.7%）が最も高く、次いで「祖父母等の親族」（就学前児童80.7%、小学生69.5%）、「友人や知人」（就学前児童78.7%、小学生76.6%）となっており、身近な親族や友人が高くなっている。

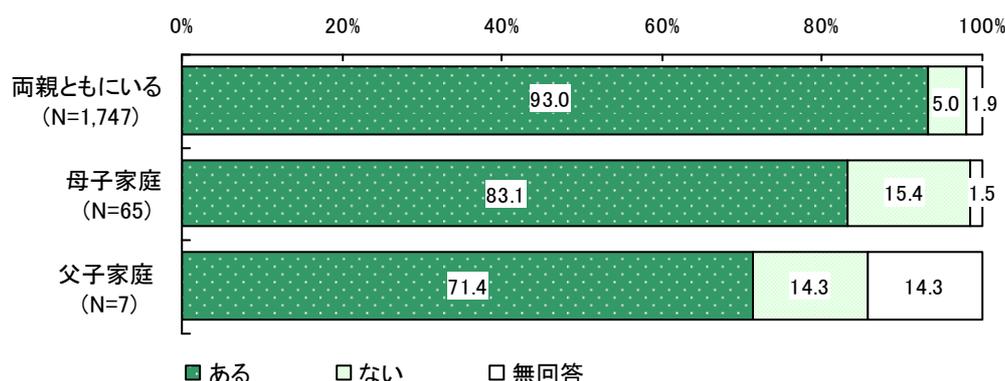
一方、親族や友人、知人以外では、「保育所（園）・幼稚園の先生」、「かかりつけの医師・看護師」、「子育て支援施設（地域子育て支援センター等）」が高くなっている。

〔図 相談相手・場所の有無〕

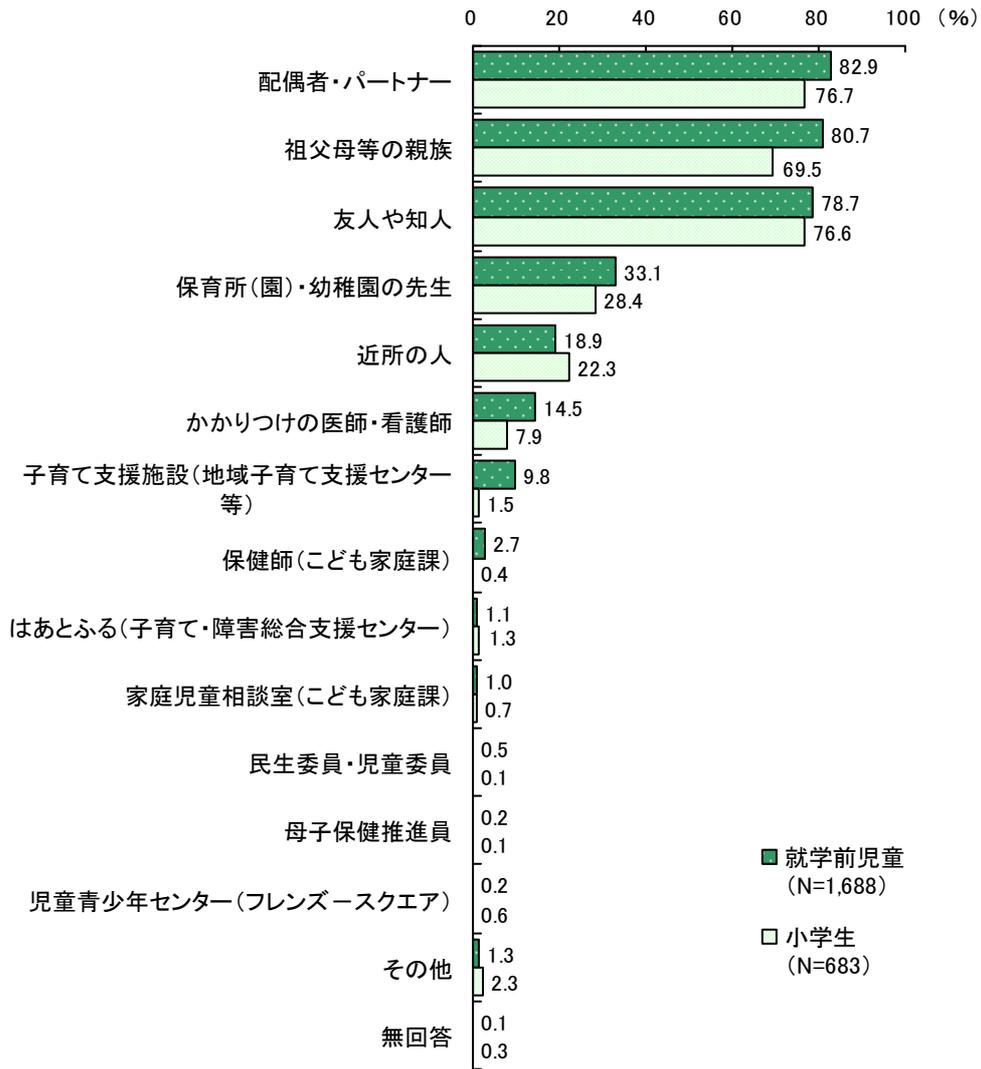


〔図 相談相手・場所の有無/両親の状況別〕

(就学前児童)



[図 相談相手]

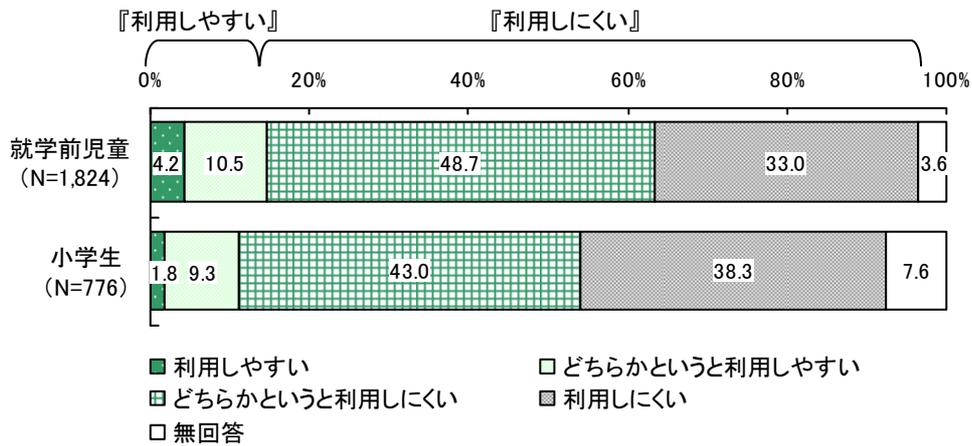


(8) 相談体制への満足度

相談体制への満足度について、『利用しやすい』（「利用しやすい」＋「どちらかという利用しやすい」）割合は就学前児童で14.7%、小学生で11.1%となっている。

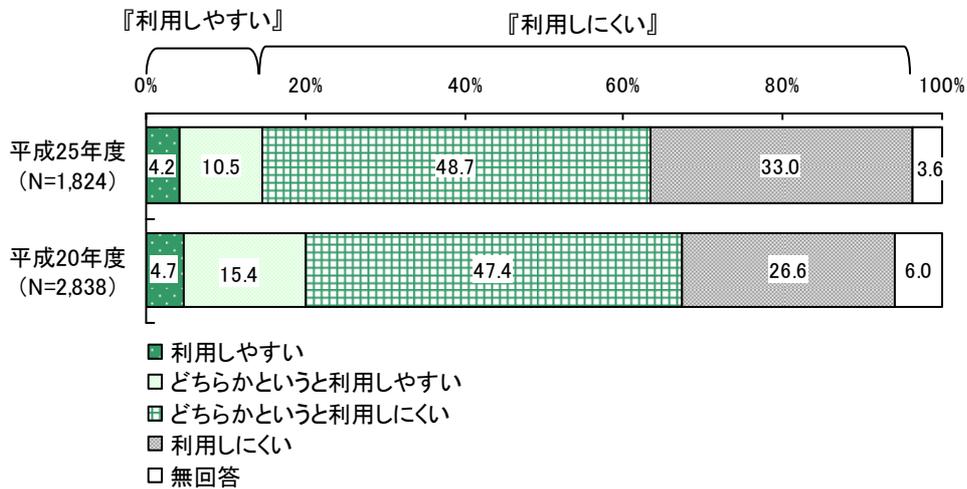
前回調査と比較すると、『利用しやすい』割合は、就学前児童で5.4ポイント、小学生で3.6ポイント低くなっている。

〔図 相談体制への満足度〕



〔図 相談体制への満足度/前回調査との比較〕

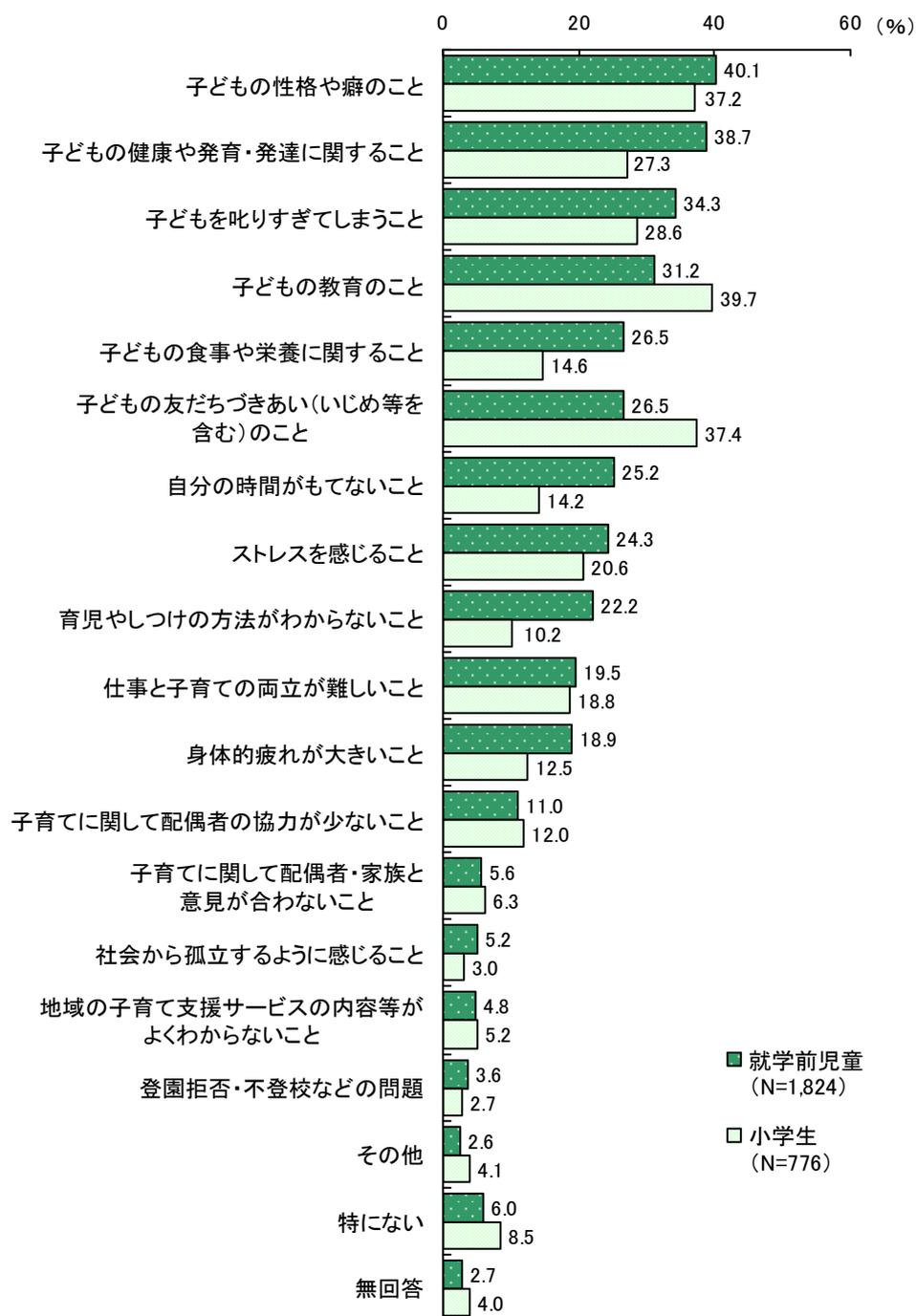
(就学前児童)



(9) 子育てに関する悩み

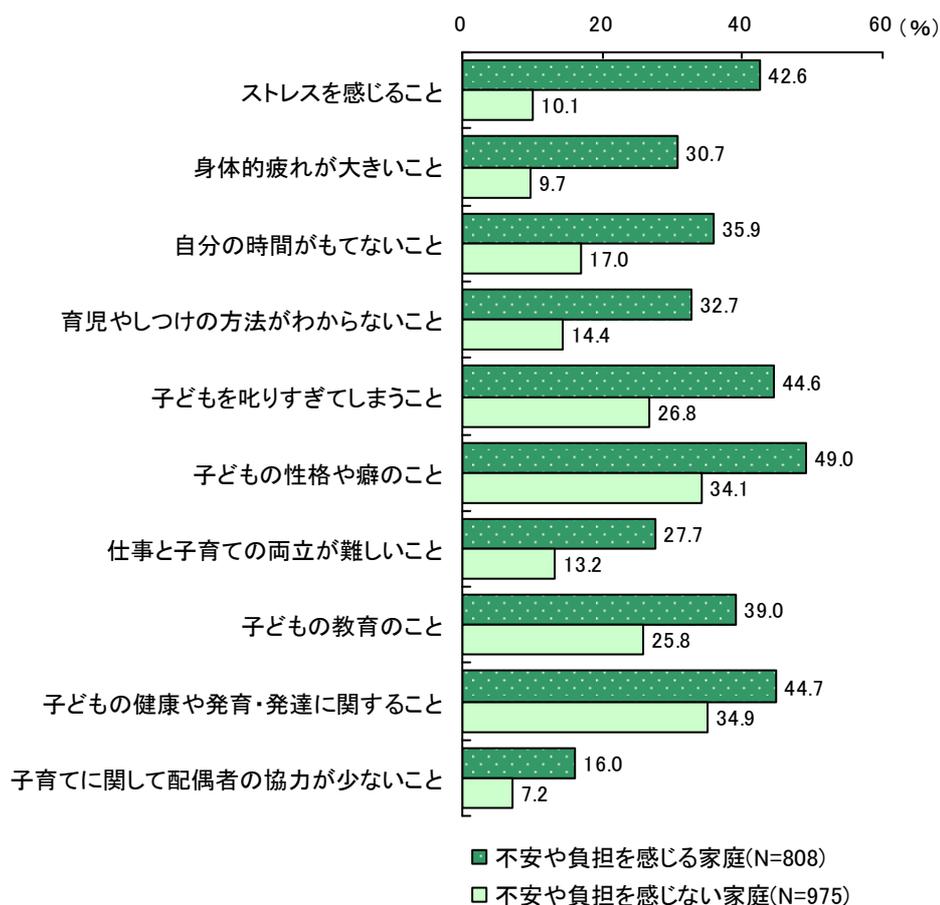
子育てに関する悩みについて、就学前児童では「子どもの性格や癖のこと」(40.1%)との回答割合が最も高く、次いで「子どもの健康や発育・発達に関すること」(38.7%)、「子どもを叱りすぎてしまうこと」(34.3%)となっており、小学生では「子どもの教育のこと」(39.7%)との回答割合が最も高く、次いで「子どもの友だちづきあい(いじめ等を含む)のこと」(37.4%)、「子どもの性格や癖のこと」(37.2%)となっている。

〔図 子育てに関する悩み〕



子育てに関する悩みについて、子育てに関する不安・負担感の有無別に差が多い項目順にみると、「ストレスを感じること」、「身体的疲れが大きいこと」、「自分の時間がもてないこと」、「育児やしつけの方法がわからないこと」、「子どもを叱りすぎてしまうこと」などについて、不安や負担を感じる家庭が感じない家庭の割合を上回っている。

〔図 子育てに関する悩み/子育てに関する不安・負担感の有無別〕
(就学前児童)

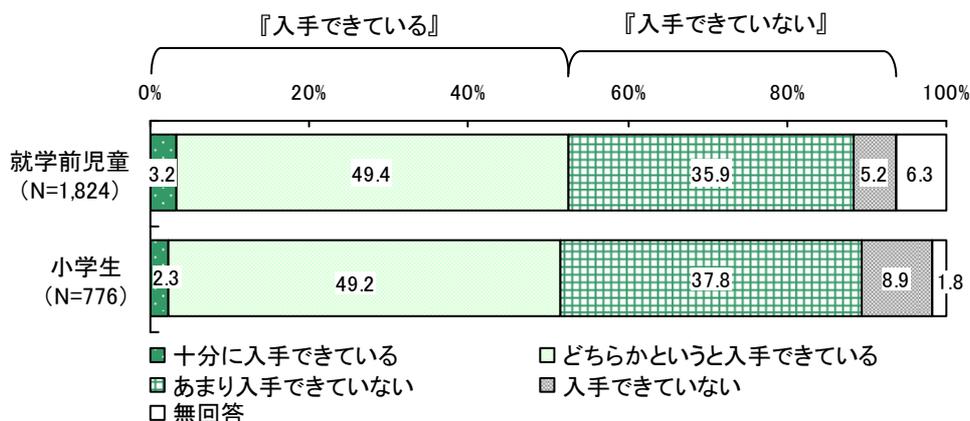


(10) 情報提供への満足度

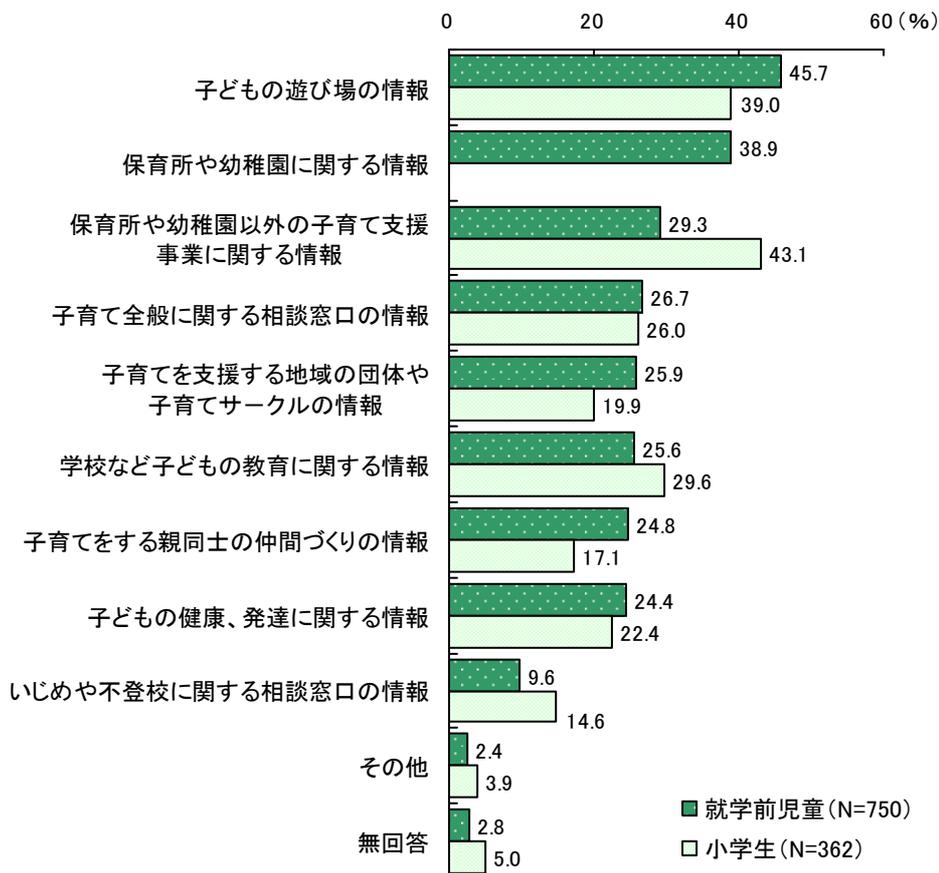
情報提供への満足度について、『入手できている』（「十分に入手できている」+「どちらかという」と入手できている）割合は、就学前児童で52.6%、小学生で51.5%となっている。

不足している情報について、就学前児童では「子どもの遊び場の情報」（45.7%）が最も高く、次いで「保育所や幼稚園に関する情報」（38.9%）、「保育所や幼稚園以外の子育て支援事業に関する情報」（29.3%）となっており、小学生では「保育所や幼稚園以外の子育て支援事業に関する情報」（43.1%）が最も高く、次いで「子どもの遊び場の情報」（39.0%）、「学校など子どもの教育に関する情報」（29.6%）となっている。

〔図 情報提供への満足度〕



〔図 不足している情報〕

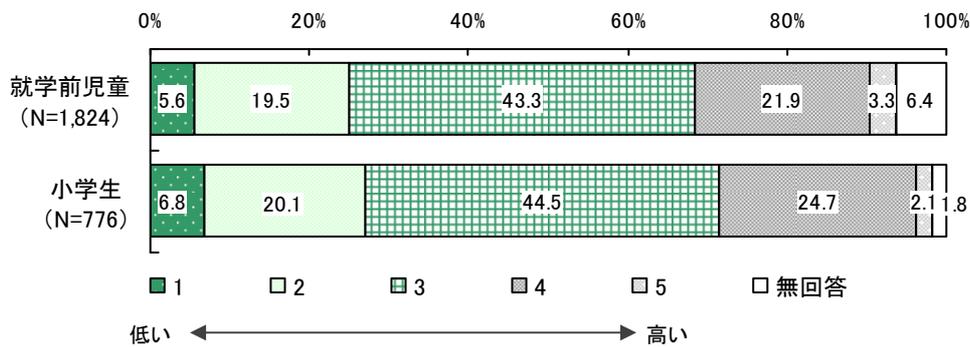


(11) 子育ての環境や支援への満足度

子育ての環境や支援への満足度について、満足度が高い（「5」＋「4」）割合は就学前児童で25.2%、小学生で26.8%、満足度が低い（「1」＋「2」）割合は就学前児童で25.1%、小学生で26.9%とほぼ同様の値となっており、中間である「3」の割合が4割以上を占めている。

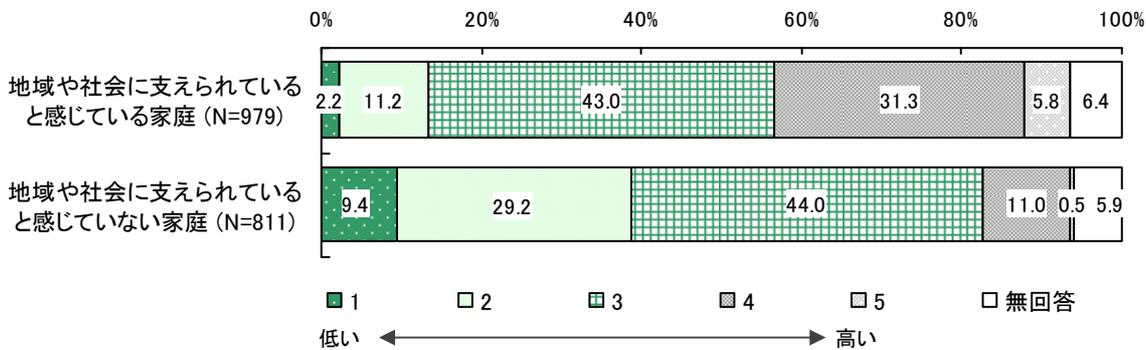
地域や社会の支えの感じ方別では、支えられていると感じている家庭で、相談窓口の満足度別では利用しやすいと思う家庭で、情報提供への満足度別では入手できていると思う家庭で満足度が高くなっている。

〔図 子育ての環境や支援への満足度〕



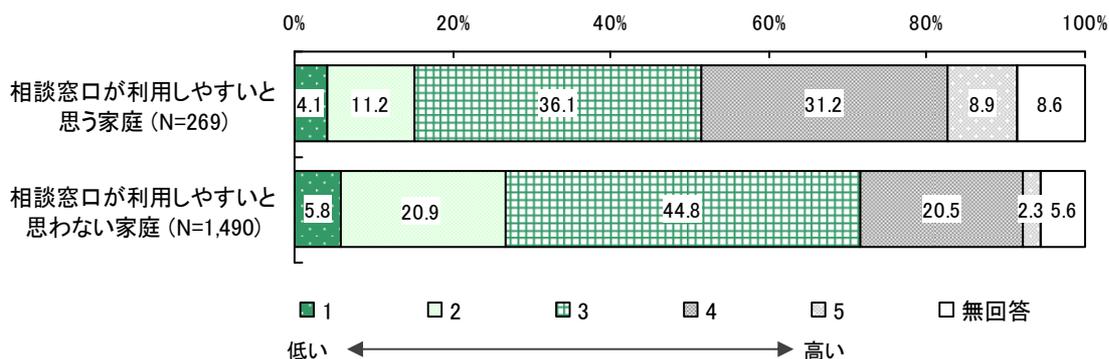
〔図 子育ての環境や支援への満足度/地域や社会の支えの感じ方別〕

(就学前児童)



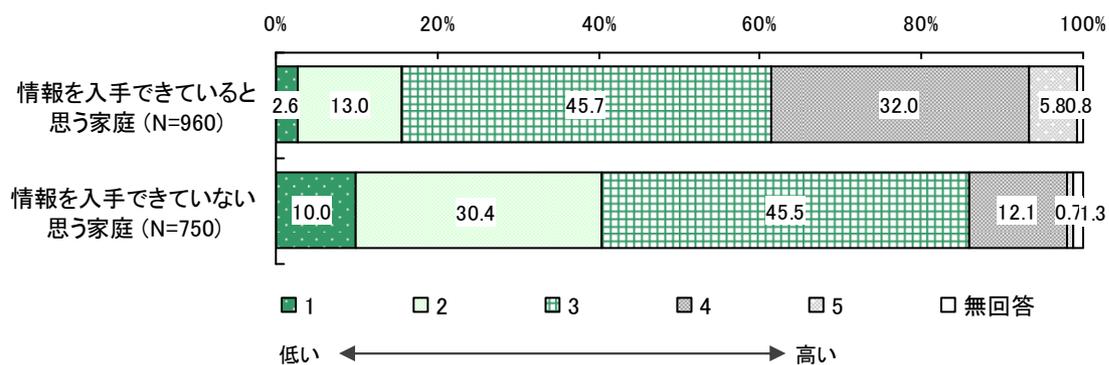
〔図 子育ての環境や支援への満足度/相談窓口の満足度別〕

(就学前児童)



〔図 子育ての環境や支援への満足度/情報提供への満足度別〕

(就学前児童)



Ⅲ 調査のまとめ

1 家族の状況

核家族は就学前児童で88.7%、小学生で85.4%と高い割合となっている。

また、父子家庭は、就学前児童で0.3%、小学生で0.8%、母子家庭は就学前児童で3.2%、小学生で8.0%であり、就学前のひとり親家庭では相談する人等がない割合が高くなっている。

核家族世帯や市外からの転入により近くに子育てを支援してくれる人がいない家庭が、緊急時に子どもを預けたり、気軽に相談できる体制づくりが重要である。

また、母子家庭等の自立を促進するためにも、子育てと就労の両立が図れる支援体制の整備、相談等の支援が重要である。

2 就学前の定期的な教育・保育事業のニーズ

就学前児童の母親の就労している割合はフルタイムが25.8%、パート等が28.0%、両親ともに働いている割合が49.0%、ひとり親家庭で就労している割合が3.2%となっている。

また、就労していない母親のうち、すぐにでも働きたい割合は、就学前児童で21.0%である。

就学前児童の教育・保育事業を利用している割合は全体で60.7%、0歳で15.1%、1・2歳で39.7%、3～5歳で95.1%である。

今後の利用希望時間をみると、現在、幼稚園を利用している家庭では15時台、16時台、17時台、18時台の希望が、認可保育所（園）を利用している家庭では18時台、19時台の希望が現在の利用時間よりも高くなっており、預かり保育や延長保育のニーズが表れている。

現在、教育・保育事業を利用していない理由として、利用希望はあるが、経済的理由や定員に空きがなくて利用できていない現状があがっている。

子どもの家族の状況や両親の就労状況の多様化に対応するとともに、潜在的なニーズに応じた教育・保育事業の提供体制の充実が重要である。

3 放課後児童クラブのニーズ

小学生の母親の就労している割合はフルタイムが29.6%、パート等が41.1%、両親ともに働いている割合が61.6%、ひとり親家庭で就労している割合が7.9%となっている。

就学前児童において、放課後児童クラブの利用ニーズは42.0%と高くなっており、小学生においても、放課後児童クラブを利用できる学年の延長についてのニーズは高くなっている。

また、時間延長や日曜日、祝日の開設の要望がある。

子どもの家族の状況や両親の就労状況の多様化に対応するとともに、利用学年の延長のニーズに対応した提供体制の充実が重要である。

4 一時的な保育のニーズ

子どもが病気の際に、父親・母親が仕事を休んで面倒をみた経験がある家庭で、病児・病後児のための保育施設の利用ニーズが 39.7%となっている。現在、市では1箇所で開催しているが、利用しない理由として立地や時間等、利便性が悪いという回答もあがっていることから、ニーズに対応した、利用しやすい提供体制の充実が重要である。

親の急な用事や病気などで一時的な保育のニーズは高くなっており、定期的な教育・保育事業を利用していない家庭では、母親が一時的に育児から離れてリフレッシュし、育児の負担を軽減することも重要である。

保育園における一時保育に加え、ファミリー・サポート・センターや地域の団体が実施するサービス等も合わせ、提供量の確保や利用しやすい体制など、事業の充実を図ることが重要である。

5 両立支援

育児休業を取得した経験がある母親の割合は、就学前児童で 25.9%、小学生で 19.2%であり、1年以下の割合が就学前児童で 63.6%、小学生で 65.0%となっている。

一方、取得した経験がある父親は、就学前児童で 6.5%、小学生で 3.5%であり、取得期間は非常に短くなっている。

仕事と生活の両立がはかられている感じる家庭の割合は就学前児童で 66.7%、小学生で 70.6%であり、両立のために職場に求めることは、就学前児童、小学生ともに「職場内の意識や理解、協力体制」、「子どもが病気などの際に看護休暇の措置の実施」が上位となっている。

両立を支援する保育サービスの充実を図るとともに、夫婦での家事や育児の分担や子どもと過ごせる時間をとることができる就労環境など、両立を支援する環境づくりが重要である。

6 地域子育て支援拠点事業

定期的な教育・保育事業を利用していない家庭のうち、子育て支援拠点事業を利用している割合は、0歳で 29.7%、1・2歳で 43.8%、3～5歳で 16.2%となっている。

利用していない理由は「利用する必要がない」を除くと、「利用可能時間・日数などが合わない」との回答割合が最も高く、「事業を知らない」、「実施場所や利用方法がわからない」という情報が周知されていない状況や「いっしょに利用する仲間がない」との回答もあがっている。

今後利用意向がある割合は、0歳で 47.0%、1・2歳で 22.9%、3～5歳で 21.6%である。

子育てに不安や負担を感じる母親の利用につながるよう、事業の情報を周知するとともに、利用のきっかけづくりが重要である。

7 相談体制

子育てに対して不安や負担を『感じる』割合は就学前児童で 44.3%、小学生で 47.8%であり、前回調査よりわずかに上昇している。

子育てに対して不安・負担感をもつ家庭は、地域や社会の支えを感じていない家庭、相談窓口を利用しやすいと思わない家庭、子育てに対する情報入手が十分でない家庭で高くなっている。

子育て・教育をする上で気軽に相談できる人や場所が「ない」割合は就学前児童で 5.4%、小

学生で9.0%である。

『市や県の相談機関等を利用しやすいと思う』割合は前回調査よりも減少しており、また、就学前児童で14.7%、小学生で11.1%であり、『利用しにくい』と思う割合が大きく上回っている。

相談窓口等の周知を図るとともに、利用しやすい体制づくりや、利用のきっかけづくりを進めることが重要である。

8 情報提供

情報を入手できていると思う割合は上昇しているが、5割台であり、十分ではない。支援が必要な家庭がさまざまなサービスを利用したり、相談を行うためには、前提としてその情報が伝わるということが重要である。本市においても、子育て応援ガイドブックの配布、広報紙への掲載、さまざまな事業・場においてお知らせを配付するなどの取組を行っているが、市の事業や地域の子育て支援サービス等の周知は十分でないため、今後も、効果的な情報提供方法を検討し、地域団体等との連携による情報提供も含め、充実を図る必要がある。

9 子育て全般

『自分自身の子育てが地域の人々や社会全体に支えられていると感じている』割合は、就学前児童で53.7%、小学生で63.1%であり、前回調査とほとんど変化はない。

『東広島市は子育てがしやすいと思う』割合、『子育ての環境や支援へ満足している』割合は、地域や社会の支えを感じている家庭、相談窓口を利用しやすいと思う家庭、子育てに対する情報入手ができている家庭で高くなっている。

一方、現実の子どもの数が理想の子どもの数よりも少ない家庭が多く、その理由として「経済的な負担が大きいから」との回答割合が最も高くなっている。

『子育てがしやすいまちだと感じる』家庭を増やしていくに、保育サービス、情報提供や相談対応など市の子育て支援事業や経済的支援の充実が求められているとともに、子育て家庭と地域のつながりを深くすることも重要である。